

令和4年度
外部評価報告書

九州産業大学
九州産業大学造形短期大学部

目 次

I	外部評価委員会の実施概要	1
II	外部評価委員による評価までの経緯等	1
III	外部評価委員名簿	2
IV	外部評価委員による外部評価結果	3
	設問1 : 第3章 教育研究組織について【九州産業大学】	3
	同 【九州産業大学造形短期大学部】	4
	設問2 : 第4章 教育課程・学習成果について【九州産業大学】	5
	同 【九州産業大学造形短期大学部】	6
	設問3 : 第9章 社会連携・社会貢献について【九州産業大学】	8
	同 【九州産業大学造形短期大学部】	9
	設問4 : その他	11

V 委員会資料

- 別紙1 : 外部評価委員会 名簿一覧
- 別紙2 : 令和3年度外部評価結果に対する対応について
- 資料1 : 令和4年度 外部評価委員会 事前訪問時における各委員からの意見等に対する回答について (第3章)
- 参考資料1 : 学校法人中村産業学園事務組織図
- 資料2 : 令和4年度 外部評価委員会 事前訪問時における各委員からの意見等に対する回答について (第4章)
- 参考資料2 : 教育の質保証、評価の質保証、内部質保証
ポートフォリオ・ルーブリック・アセスメント
- 資料3 : 令和4年度 外部評価委員会 事前訪問時における各委員からの意見等に対する回答について (第9章)
- 資料4 : 令和4年度 外部評価委員会 事前訪問時における各委員からの意見等に対する回答について (その他の章・その他)

VI 別添資料

- ① 1年間の取り組み 2021 KSU Annual Report 2021
- ② KSU プロジェクト型教育 2021年度 学部間・学外との取り組み事例

VII 参考資料

- ① 外部評価委員会規程
- ② 内部質保証システム (イメージ図)

令和4年度 外部評価報告書

I 外部評価委員会の実施概要

1. 日 時 : 令和4年10月28日(金) 10時30分～11時37分及び13時00分～16時25分
2. 場 所 : 学校法人中村産業学園 本館3階大会議室
3. 評価項目 :
 1. 「第3章 教育研究組織」
 2. 「第4章 教育課程・学習成果」
 3. 「第9章 社会連携・社会貢献」
4. その他 :
 1. その他の自己点検・評価項目及び学園業務全般に関する意見交換
 2. KSU VISION DAYの紹介

(参 考)

※ 令和4年度外部評価委員会の評価について(九州産業大学・九州産業大学造形短期大学部)

- 設問1 : 第3章 教育研究組織について
設問2 : 第4章 教育課程・学習成果について
設問3 : 第9章 社会連携・社会貢献について
設問4 : その他、ご意見等があればご記入ください。

- ◆ 評価項目である3点(設問1～3)については、各々について4段階(4 大変適切である 3 概ね適切である 2 やや適切ではない 1 適切ではない)で評点を付していただくとともに、全4項目について意見を聴取した。

II 外部評価委員による評価までの経緯等

- ・ 7月28日(木) 外部評価に係る資料の送付①
(九州産業大学・九州産業大学造形短期大学部 自己点検・評価報告書、令和4年度の外部評価委員会について等)
- ・ 9月20日(火) 外部評価に係る資料の送付②
(令和4年度 外部評価委員会タイムスケジュール(案)、2021(令和3)年度内部質保証委員会における検証結果等)
- ・ 10月3日(月)・4日(火)・11日(火)
外部評価委員を訪問し、委員会当日の流れ及び事前ヒアリング
- ・ 10月28日(金) 令和4年度 外部評価委員会
- ・ 11月4日(金) 外部評価委員会 評価票提出期限

Ⅲ 外部評価委員名簿

(順不同・敬称略)

		氏 名	所 属 等 (令和4年10月28日現在)
1	委員長	津 上 賢 治	学校法人中村産業学園 理事長 (九州産業大学・九州産業大学造形短期大学部)
2	委員	入 江 浩 幸	株式会社西日本シティ銀行 代表取締役 副頭取
3	委員	今 村 弘	九州電力株式会社 常務執行役員 ビジネスソリューション統括本部 人材活性化本部長
4	委員	星 野 裕 志	九州大学 大学院 経済学研究院 教授 産業マネジメント専攻 ユヌス・椎木ソーシャルビジネス研究センター長
5	委員	深 堀 聰 子	九州大学 教育改革推進本部 副本部長・教授
6	委員	城 石 聖 子	福岡県 人づくり・県民生活部 私学振興・青少年育成局長
7	委員	三 宅 竜 哉	福岡県立福岡高等学校 校長

※ 委員長の津上賢治（学校法人中村産業学理事長）は、外部評価委員会の議事進行に務め、評価は行わない。

IV 外部評価委員による外部評価結果

設問1 : 第3章 教育研究組織について

- 九州産業大学及び九州産業大学造形短期大学部自己点検・評価報告書等に基づき外部評価を行い、以下の評価（評点）結果、及び評価に関する意見等並びに外部評価委員会時における主な意見等について記載する。

【九州産業大学】

(評点)

委員	委員	委員	委員	委員	委員	平均
4	3	4	3	3	4	3.5

(評価に関する意見等)

- それぞれの教育研究組織において課題は見られるものの、それらが適切に認識されており、課題解決に向けて対応されていると考えられる。
- 大学設置基準の改正が、現場においてどのような意味をもつのか、見極めていく必要がありますが、できる限りスムーズな移行ができるように、またできればそのメリットを活かせるように、工夫していくことが重要だと思います。
- 2016年以降、段階的に学部再編を実行されており、適切な教育研究組織の構成を維持するため、不断の見直しを実施されています。
- 完成年度後に実施された検証作業の結果についても記載されると、再編の考え方や再編後の取り組み内容がより、わかりやすくなったのでは、と感じました。
- 附属研究所、センターの活動についても、各々の問題点と対応の記載となっており、今後は、各学部・研究科との横断的な連携の状況についても紹介されると、総合大学としての特色が理解されやすいのでは、と思います。
- 様々な観点から学生を支援する体制づくりがなされており、受験を進める高校にとっても子供を預ける家庭にとっても、安心できる環境が整っていると思います。今後も、時代のニーズに合わせて工夫・改善に取り組んでいただければ、大学に対する信頼がより高まるのではないのでしょうか。
- 国際交流センターを中心とした各種取組、津上理事長が最後にご報告いただいた新規の取組などは、意識の高い学生の育成に大きな力を発揮するとともに、大学広報の核となるものであると感じました。
- 基礎教育センターや基礎サポートセンターでの取り組みは、学生の評判やその効果を見極めながら、九産大の特色の一つとして充実を図っていただければと思います。

【九州産業大学造形短期大学部】

(評点)

委員	委員	委員	委員	委員	委員	平均
4	3	3	3	3	4	3.3

(評価に関する意見等)

- 適切な教育研究組織によって、多彩なプログラムが実施されている。
- 造形短期大学部は、そのカリキュラムの多様性と専門性から、学部からの非常勤講師の担当科目が多いようであり、卒業認定の方針や教育の質保障などについて、どのように共有されているかの説明があると良いのではないかと。
- 大学設置基準の改正が、現場においてどのような意味をもつのか、見極めていく必要がありますが、できる限りスムーズな移行ができるように、またできればそのメリットを活かせるように、工夫していくことが重要だと思います。
- 組織の設置状況を示すところですので、1学科10系列(13ページ記載)を示し、設置状況の妥当性を説明し、その上で、これらの配置による人材育成が地域・社会の要請に応えられているか否かの調査方法や分析結果については、第4章において、述べるのが理解しやすいと考えます。
- 学外でのアートプロジェクトの増加についても、第9章(9・1・2)において、触れる方が自然と考えます。
- 芸術系の短期大学として、その役割を明確に果たされていると感じました。
- 大学と共通するところも見受けられたため、そのように記載されてもよいのではないのでしょうか。

《委員会時における主な意見等(大学・短大)》

【第3章 教育研究組織】

- ・1年間の取組みに関する動画は素晴らしく、本報告書に記載がない点については非常にもったいないと感じている。
- ・「九州・アジアビジネスの実践的な学び」というワードについては、九州においては使いがちなワードではあるが、学生及び外部評価委員等、外部から見たときに具体的な理解が困難であるため、もう少し適切な表現での記載が必要だと思う。また「グローカリスト」についても同様で個人の解釈によって定義に相違が生じることもあるため、もう少し説明が必要だと感じた。
- ・基礎学力の低下は複数箇所で見られる。入学時の基礎学力の点検で文系は基礎教育センター、理工系は基礎サポートセンターと、それぞれ把握と対応が混在している。問題点として挙げるのであれば、どこかにまとめて記載する必要があるのではないかと。

設問2 : 第4章 教育課程・学習成果について

- 九州産業大学及び九州産業大学造形短期大学部自己点検・評価報告書等に基づき外部評価を行い、以下の評価（評点）結果、及び評価に関する意見等並びに外部評価委員会時における主な意見等について記載する。

【九州産業大学】

(評点)

委員	委員	委員	委員	委員	委員	平均
3	3	2	3	3	3	2.8

(評価に関する意見等)

- 教育の質向上のため、様々な取り組みが行われていると思います。これらの取り組みの趣旨が関係者に浸透し、大学内の教授及び学生に有効に活用されることが大切であると思います。特に、学生が学ぶことに喜びと興味を持つような講義や KSU プロジェクトが実施されることを期待しています。
- コロナ禍において、教育の質の維持に向けた取り組みや学生へのサポートについて、各学部の記述にばらつきがあり、必ずしも十分ではない。コロナの蔓延から既に2年半以上が経過し、単なる緊急避難的な対応ではなく、学生の満足度の高い教育の提供についての工夫が、説明される必要があるのではないかと。
- 近年の新入生の学力の低下によって、複数の学部において専門教育に支障が生じていることが指摘されている。それにも関わらず教育の質保証について、状況の把握と適切な対応策に関わる担当部署の明示と具体的な取り組み内容が明らかにされていない。
- 教学マネジメントのための仕組みについて、ポイントを押さえた形で準備が整われたと受け止めました。
- 令和8年度に受審される機関別認証評価では、内部質保証を実現していることが問われるはずで、すなわち、学修成果の可視化等を通して、エビデンスに基づく自己点検・評価を行うだけでなく、その結果に基づいて、教育の改善を行っていることが問われます。大がかりな仕組みが準備されていても、それが稼働していなかったり、その結果に基づく改善が行われていなければ、逆に指摘をうける材料になります。その意味で、できるだけスリムな仕組みを導入し、各部局・部署において着実に実施するとともに、結果に基づく改善のサイクルをまわすことが重要であり、そのための部局・部署に対する支援を行うことが重要だと思われます。
- 「元氣な九産大生」が、のびのびと学生生活を過ごせるように、そして、教職員が疲弊することなく、本来業務である教育研究にエネルギーを注げるようにする意味でも、スリムな仕組みが重要だと思われます。
- 各学部・研究科において、特色ある教育課程編成が成され、様々な工夫による学生への学習支援が行われています。また、COVID-19 感染拡大下、各学部・研究科におかれては、授業の継続について苦慮されたことと推察しますが、遠隔授業の展開や感染対策を講じられての授業再開など教育の質の確保に努めてこられてきたことに敬意を表します。
- 委員会でもご意見ありましたが、学生の基礎学力の低下については大変深刻に感じました。大変難しい課題と承知しておりますが、最高学府として、また、社会の要請に即戦力として貢献できる人材を育成するために土台となる重要なファクターであることから、基礎学力の底上げに向けた効果的な取り組みの検討が必要と考えます。
- 記載内容について、学部間で差があり、内容の濃淡・ボリュームがまちまちのように感じました。各点検・評価項目の評価の視点に回答していない記述も見受けられました。全学部・研究科において、概ね統一感を持たせるよう、フォーマットを示し、記載するなどの方策も検討いただけた

ら、評価する側も省力化できると感じました。

○改善に向けた取り組みについては、外部評価委員会における説明を伺いよく理解できました。

○昨年度の報告書と比べて、記載内容の統一性など多くの部分に改善が図られていたため、把握がしやすい資料となっていました。その一方で、各学部等に共通する記載が繰り返し出てくることが気になる部分（例えば HP への公開についてなど）もありましたので、大学全体として共通することに記載した内容は繰り返さないなどの整理を検討されてもよいのではと感じました。

○第4章は毎年評価対象となることから、可能であれば次年度からは、変更点がわかるように下線を引くなどの工夫があれば、議論の焦点化がやりやすいのではないかと思います。

【九州産業大学造形短期大学部】

(評点)

委員	委員	委員	委員	委員	委員	平均
3	3	4	3	3	3	3.2

(評価に関する意見等)

○2年間の限られた時間の中で、学業、キャリア開発、KSU プロジェクトを実施することは大変であると思われるが、カリキュラムなど良く工夫をされていると感じる。

○クラス担任制度や就職支援のプログラムを含めて、学生に対するきめの細かい指導体制とサポートプログラムを構築されており、高く評価できる。

○教学マネジメントのための仕組みについて、ポイントを押さえた形で準備が整われたと受け止めました。

○「元気な九産大生」が、のびのびと学生生活を過ごせるように、そして、教職員が疲弊することなく、本来業務である教育研究にエネルギーを注げるようにする意味でも、スリムな仕組みが重要だと思われます。

○卒業後の進路を見据えて、1年前学期から「キャリア・プランニング」を必修科目とし、後学期に「キャリア研究」を開講し、早期から職業意識の醸成に取り組んでおられることは、大変興味深く、卒業生の評価も高いことから、是非、継続していただき、就職先の教育評価も加味し、結果を分析し、改善を重ねて、より充実したものにしていただきたいと思います。

○大学と同様、評価の着眼のひとつとして、学生の就職状況、進路についての情報が欲しいと考えます。可能な限りで構いませんが、第4章、もしくは、大学基礎データにおいて、示していただければ、大変参考になります。

○就職先企業による教育評価を実践し、教育課題の把握につなげてあることはたいへん素晴らしいと感じました。

○今回の外部評価委員会では、短大を議題とする時間があまりなかったため、次年度はやはり時間をとっていただいた方がよいと感じました。

《委員会時における主な意見等（大学・短大）》

【第4章 教育課程・学習成果】

- ・100分授業について、令和2年度に導入した経緯及びその効果を伺いたい。
- ・100分授業について、「効果は検証されていない。」と記載があるが、学年暦は教授会等々を通して確定するものであるため、100分授業によって学年暦を変更して授業時間を確保したのであれば、それは達成したことになると考える。書き方について、検証されていないわけではなくて「確保した」と記載すればよいと思う。それよりも100分授業については取り入れることにより課外活動を圧迫するという理由で敬遠されがちであるため、むしろ100分授業

を取り入れたことにより単位取得数・GPAに変化がないという分析結果があるのであれば、課外活動への影響という観点から、取組みが間違えではなかったという検証をされてもよいのではないかと感じた。

- 基礎学力の低下傾向について、地域共創学部・国際文化学部・人間科学部においては様々な工夫を実施し基礎学力を保つ記載が見られた。他学部でも記載が必要だと感じる。
- 再試験制度については、全学方針（ポリシー）を掲げ、制度設計の意味をしっかりと明示するとともに非常勤講師を含め全学的に共有を図り、今後理解を徹底していく必要がある。
- 自身としては、E評価はほとんど授業に出席していない学生であり、D評価は概ね出席はしているが試験に合格できなかった学生と認識している。4年次生のみこの制度がある意図がよくわからない。1～3年次生でも再チャレンジできる制度にしてはどうか。
- ルーブリックを導入し、部局としての統一性を持たせるのであれば具体的に何を意味しているのかということについて何か考えるための機会にしておかないと、幻想に過ぎないものになるのでそのあたりは注意が必要だと思う。今回の意見に対する回答を見ると、「統一」という言葉が多く出てきている。恐らく全学横断的に統一することは難しく、書きぶりを統一することは重要だと思うが、部局の中でその方針に基づいて全員が同じように行動できるようにしていくことである。特に最低水準について部局の中で申し合わせをするような機会を非常勤講師の先生も含めてやっていかないと、せっかく作った仕組みも言葉上で終わってしまい、結果的に自分達を苦しめることになってしまわないか。これは多くの大学で起きていることである。
- FD活動について、大学にとって入学した学生をどう育てていくかが大切なサービスである。それは教育の質に関わってくる。様々記載されているがそれがどの程度活性化しているのか。教えるということに対して、一方的に知識を教え込むだけではなくて、学生に対話させることや主体的に学ばせる等、教授法のテクニックの向上を図るためにそれぞれの教員間で展開されているのか。
- 学習成果の可視化について、学生カルテシステムはそれに該当するのだろうかということはわかったが、学生ポートフォリオの利用率低迷についてなぜうまく運用出来ていないのか伺いたい。また、その入力については任意なのか、入力しないことに対するペナルティ等はあるのか。
- GLPについては、大学の持つ強み・特色だと思うので、もっと学外に発信すべきだと思う。

設問3 : 第9章 社会連携・社会貢献について

- 九州産業大学及び九州産業大学造形短期大学部自己点検・評価報告書等に基づき外部評価を行い、以下の評価（評点）結果、及び評価に関する意見等並びに外部評価委員会時における主な意見等について記載する。

【九州産業大学】

(評点)

委員	委員	委員	委員	委員	委員	平均
4	3	4	3	3	4	3.5

(評価に関する意見等)

- KSU プロジェクトは、地域の自治体や企業と連携して、地域課題を解決する非常に良い取り組みであると思います。このプロジェクトの取り組みをもっと多くの地域の方々に知っていただくことで、貴学のステータス向上に繋がるのではないかと思います。
- 自己点検・評価報告書には、このような素晴らしい取り組みを実施していることをもっと記載した方が良いと思います。
- 評価に関しては、「③概ね適切である」とするが、実際の報告書の記載内容については、会議の場でも指摘があった通り、事実に基づき可能な限り具体例等を追加記載すべきだろうと思料します。
- 社会連携・社会貢献は、九州産業大学にとって最も重視される分野であり、また「地域共創学部」を設置して、積極的に取り組まれている。また実際にKSUプロジェクト型教育として、106ものプロジェクトが実施され、地域や企業などとの連携が、ほぼすべての学部で行われていることから、大きな成果を上げていると考えられる。これらの優れた社会連携・社会貢献の成果は、学内の刊行物で紹介されているが、「自己点検・評価報告書」において、ほとんど説明されていない。報告書の記述は不十分であるものの、外部評価委員会における説明と併せて、高く評価する。
- 「産学一如」をミッションに掲げる大学の特色・強みを顕在化させる工夫が必要だと思えます。既に、実績をたくさんお持ちですので、そのことを情報として掬い上げ、記録していくことができればよいと思います。
- 産業大学として、重層的に社会連携・社会貢献に取り組んでおられ、地域社会の発展に寄与するばかりでなく、教育目的としての学生の人材育成の実現に結び付けておられます。
- 本章で報告されている、6つの取り組みについては、実施内容の報告に留まっており、評価の結果やそれを踏まえた改善・向上に向けた取り組みの紹介が欲しいところです。
- 貴学の大きな特長的な教育的取り組みである「KSUプロジェクト型教育」では、全ての学部・学科及び短期大学の枠を超え、企業・行政・地域との連携による100を超えるプロジェクトを展開しておられます。これは、正課教育でもあり、正課外教育でもある取り組みで、双方が螺旋を描くように相乗効果を生み、その結果、貴学の人材養成及び教育目標である「広く産業界の期待に応えられる心身共に国際的教養人の育成」～大きな社会貢献～につながるものと考えられることから、本章の9・1・2及び9・1・3において、相応の厚さの記述が望まれます。
- 多くの外部評価委員からも同様の意見が出ていましたが、社会連携・社会貢献については、記載されたもの以外にも既に実施してあるものが多くあるため、もっと大々的にアピールされてもよいのではと感じました。
- 高校の立場から言えば、生徒の活動のみならず教員の活動に対しても、様々な点でご協力いただいておりますことにより感謝しております。

【九州産業大学造形短期大学部】

(評点)

委員	委員	委員	委員	委員	委員	平均
4	3	4	3	3	4	3.5

(評価に関する意見等)

- 芸術という特殊性を活かし、KSU プロジェクトで地域自治体と連携した取組みが盛んにおこなわれており、評価できる。
- 地元自治体を含めた地域との連携、公開講座の実施など、造形短期大学部の専門性に沿ったさまざまな社会連携がされており、地域にも貢献していると考えられる。
- 「産学一如」をミッションに掲げる大学の特色・強みを顕在化させる工夫が必要だと思います。既に、実績をたくさんお持ちですので、そのことを情報として掬い上げ、記録していくことができればよいと思います。
- 本章で報告されている、3つの取組みについては、実施内容の列挙に留まっており、評価の結果やそれを踏まえた改善・向上に向けた取組みについての記載していただくと、より学生の取組みが具体的にイメージできると感じました。
- 大学と同様に、「KSUプロジェクト型教育」では、多くのプロジェクトに取り組んでおられます。また、アートプロジェクトの実行数が増加していることから、その背景や代表的なプロジェクト、連携先・学生の声なども表わしていただくと、よりわかりやすい報告となると考えます。
- 大学と同様に、高校の立場から言えば、生徒の活動のみならず教員の活動に対しても、様々な点でご協力いただいておりますことにより感謝しております。
- 大学と共通するところも見受けられたため、そのように記載されてもよいのではないのでしょうか。

《委員会時における主な意見等（大学・短大）》

【第9章 社会連携・社会貢献】

- ・「1年間の取組み 2021」について、副専攻プログラムで、情報テクノロジーやデータサイエンス・AIなどをしており、これは非常にいい取組みだと感じた。このような講座については地域にオープンにしてほしい。企業はこの辺りのリテラシー教育を、いかに社員に付させるかということが悩みであり、リスクリングについて悩んでいるところなので非常にニーズが高いと思う。これらの講座を公開講座として開講していただくと非常にありがたいと思う。
- ・DXについては様々なレベルが存在すると思うのでニーズは沢山あるのではないかなと思う。
- ・第9章については6ページしか記載がない。九州産業大学の規模だと30ページ程度記載できている。九州産業大学の一番大きな存在意義である地域密着型であること、及び社会連携・社会貢献が一番誇れる部分であると考え。なぜそれを記載しないのか伺いたい。「大学の教育研究成果を適切に社会に還元するための社会連携・社会貢献に関する方針を明示しているか」また、「社会連携・社会貢献に関する取組みを実施しているか」というところで、方針もあり106もの取組みも実施し、様々な学部でも実施している。また、これに係る根拠についても満ちていると思う。方針が明確になっていて、具体的にパートナーもいて、それに対し活動も行っている。ましてや地域共創学部という学部もある中でなぜ記載がないのか。実施しているのに網羅されていない部分が多く見受けられ、もったいなく感じた。
- ・「点検・評価をしているか。」について具体的に改善点は何があって、その後向上に向けてどう改善されたかを伺いたい。例えば何かプロジェクトを実施していて、そこから何か課題が見つかり、見直しを図った結果を掘り下げて報告書に記載していただければと思う。

- 大学の社会連携・社会貢献については各大学が実施している。他大学の社会連携の実施状況を調べたが、当然ほとんどの大学がリリースを行っている。九産大も様々な取組みを実施していると思うので、是非リリースする等、外部へPRしてみてもと思う。

設問4 : その他、ご意見等があればご記入ください。

(意見等)

【九州産業大学】

- 貴校におかれては、創立60周年記念事業として『大楠アリーナ2020』を2020年春に竣工されました。総事業費90億円とも言われる超高額な投資であり、建物コンセプトは「地域に根ざし、成長し続け、交流を育む学美の丘の大樹アリーナ」とされ、将来にわたって教育研究や学生スポーツの振興に役立つと共に施設開放による地域密着・振興策がスタートしているものと想像します。そういった意味でも、『大楠アリーナ2020』による効果や評価、意味合いを是非とも「自己点検・評価報告書」に記載すべきと思料いたします。
- 「九州産業大学および造形短期大学の内部質保証システム」は、学内の各組織が網羅された委員会を総括する内部質保証委員会による内部の視点と、学外の複数の委員によって構成される外部評価委員会の外部の視点から、それぞれが両輪となって適切に機能していると考えられる。このことについては、全体の枠組みで示されているが、内部と外部のそれぞれの組織が、単に独立して存在するだけではなく、緊密に情報を共有し、相互に連携している現状が記述される必要がある。
- コロナ禍にありながらも、魅力的なプログラムが実施され、多くの成果をあげられており、これらは自己点検・評価報告書のしかるべき項目においても、十分に説明される必要があると考える。
- 年度ごとの自己点検・評価のテーマをしばりこみ、サイクルとして回す方法を取ることで、焦点化した議論ができたと思います。
- 産業大学としての建学の理想を「産学一如」とし、その理想の実現に向けた理念に沿った教育研究組織を配置され、幅広い教養と専門的知識の教育活動に努められています。その結果、地域社会はもとより、我が国の様々な分野における多くの有為な人材を輩出して来られました。そこで、評価の着眼のひとつとして、学生の就職状況、進路についての情報が欲しいと考えます。可能な限りで構いませんが、第4章の学部ごとの説明部分、もしくは、大学基礎データにおいて、示していただければ、大変参考になります。

【九州産業大学造形短期大学部】

- KSUプロジェクトや多くのプログラムを芸術学部と協働しながら実施されているようであり、芸術系学部を持つ総合大学における短期大学部の強みとして、具体的な相乗効果を含めて、強調されても良いのではないかと。
- 年度ごとの自己点検・評価のテーマをしばりこみ、サイクルとして回す方法を取ることで、焦点化した議論ができたと思います。
- 各章ごとの意見交換について、大学・短期大学併せて行われましたが、時間の都合上、やむを得ないのですが、圧倒的に短期大学に関する質疑が少なくなってしまったことは残念でした。
- 少人数教育のメリットやキャリア支援センターの機能・組織・実績など、もう少しお話を伺いたいと思いました。

《委員会時における主な意見等（大学・短大）》

- ・内部質保証委員会（中の目）と外部評価委員会（外の目）の関係性がわかりづらく、この点に関する記述もない。午前中の振り返りでもあったように、昨年挙げた意見に対して内部質保証委員会にかけられ対応していることは確認できたが、そのようなことが記述ではなく質保証についてわかり辛くなっている。内部質保証委員会及び外部評価委員会の関係性を明確に記載した方がよい。
- ・理事長のガバナンスに関する記述については昨年度も同様の発言をした。短大には理事長・学長・理事会の位置付け等が明確に記載されているが大学にはない。大学と短大の認証評価機関が異なる点については把握しており、また、第10章にガバナンスのワードは出てきていないが、ガバナンスについて問われているのであれば記載すべきだと感じている。
- ・この2年間で教育に関する記述が濃くなり、しっかりと焦点化され、おそらくここに注力していたため他の部分に手が回らなかった可能性がある。既に実行していることを書き込むということが次の課題である。よい取組みをたくさん実施しており、九産大についてお得だと感じた。一方で、教育についてはポイントを抑えているが、アセスメントプランの実質化については部局において指標を作成しているところだと伺った。部局における実質化がまだ課題として残っており、これについては他大学も含め動きが遅い。得心しないと動かないのが研究者だと思うため難しいことはよく理解している。本部として新しいことを始めるのは一旦止めて、部局の実質化の部分に焦点化しないと次の認証評価までにワンサイクルをまわすには来年度始めないと間に合わないため、目標をスリム化してでも実質化の部分に注力し、継続していかなければならないため、持続可能な方法で息切れしないように実質化することを来年度に向けた工夫点として挙げてはいかがかと思う。大変じゃないかという印象を受けた。特にデータが上がってくるとIR室の分析となりデータ化するにも時間がかかる。サイクル回すにはかなりの力業がいると思う。そのため、少し新しいことを始めることを抑えて、実質化において部局がしっかりできるようにサポートするというのが次の難しい課題だと感じた。
- ・入試や就職支援については「第7章 学生支援」に取組み内容や実績を記述したほうがよいのではないかと。

V 委 員 会 資 料

令和4年度 外部評価委員会

日 時 : 令和4年10月28日(金) 10時30分～17時00分

場 所 : 本館3階 大会議室

議 題 :

1. 「第3章 教育研究組織」に係る意見交換

(資料1・参考資料1・別冊ファイル)

【11時00分～11時30分】

— 昼食・休憩 —

2. 「第4章 教育課程・学習成果」に係る意見交換

(資料2・参考資料2・別冊ファイル)

【13時00分～14時30分】

— 休 憩 —

3. 「第9章 社会連携・社会貢献」に係る意見交換

(資料3・別冊ファイル)

【14時40分～15時40分】

4. その他の自己点検・評価項目及び学園業務等全般に関する意見交換

(資料4・別冊ファイル)

【15時40分～16時30分】

5. KSU VISION DAYの紹介

(別添資料)

【16時30分～16時50分】

外部評価委員会 名簿一覧

【外部委員】

	氏 名	所 属 等
1	入 江 浩 幸	株式会社西日本シティ銀行 代表取締役 副頭取
2	今 村 弘	九州電力株式会社 常務執行役員 ビジネスソリューション統括本部 人材活性化本部長
3	星 野 裕 志	九州大学 大学院 経済学研究院 教授 産業マネジメント専攻 ユヌス・椎木ソーシャルビジネス研究センター長
4	深 堀 聰 子	九州大学 教育改革推進本部 副本部長・教授
5	城 石 聖 子	福岡県 人づくり・県民生活部 私学振興・青少年育成局長
6	三 宅 竜 哉	福岡県立福岡高等学校 校長

【大学側出席者】

	氏 名	所 属 等
1	津 上 賢 治	学校法人中村産業学園 理事長 (九州産業大学・九州産業大学造形短期大学部)
2	北 島 己 佐 吉	九州産業大学 学長
3	小 田 部 黄 太	九州産業大学造形短期大学部 学長
4	千 相 哲	九州産業大学 副学長
5	磯 村 昌 輝	学校法人中村産業学園 常務理事
6	加 藤 康 雄	学校法人中村産業学園 常務理事
7	藤 原 敦	学校法人中村産業学園 常務理事
8	牛 見 宣 博	九州産業大学 理工学部長 (内部質保証委員会 委員)
9	三 浦 香 織	九州産業大学 国際文化学部長 (内部質保証委員会 委員)
10	井 上 貢 一	九州産業大学 芸術研究科長 (内部質保証委員会 委員)
11	加 藤 要 一	九州産業大学 入試部長 (内部質保証委員会 委員)
12	松 原 岳 行	九州産業大学 教務部長
13	大 久 保 亨	九州産業大学造形短期大学部 造形芸術学科主任
14	柗 田 勝 司	事務局長



K S U

令和3年度外部評価結果に対する 対応について（振り返り）

外部評価委員会
令和4年10月28日

外部評価委員会

令和3年度外部評価委員会

第1回 令和3年9月9日（木）

- 議題：①COVID-19に対する本学園の対応について
②九州産業大学自己点検・評価等に係る意見交換
③九州産業大学造形短期大学部自己点検・評価等に係る
意見交換
④その他、学園業務全般に関する意見交換

第2回 令和3年9月24日（金）

- 議題：①外部評価結果について
②その他

※外部評価結果報告書作成 ⇒ 11月2日 日本学HPで公表

内部質保証委員会

令和3年度外部評価結果を受け、内部質保証委員会を開催

令和3年10月15日（金）

構成員：大学長（委員長）、短大学長、副学長、
教員理事（4人）、事務局長

議 題：令和3年度外部評価委員会報告について

内 容：①令和3年度外部評価結果の報告
②外部評価結果及び外部評価委員会での意見並びに
内部質保証委員会の意見等を踏まえ、
『**早急に改善を要する事項**』を決定

内部質保証委員会

【早急に改善を要する事項】

1. 改善事項

- (1) 自己点検・評価の在り方等を検討すること。
 - ① 自己点検・評価の実施方法
 - ② 自己点検・評価報告書の作成要領
 - ③ 内部質保証委員会の運営方法

- (2) コロナ禍の遠隔授業における教育の質保証について検討すること。
 - ① 教員のFD
 - ② 学生のリテラシー教育
 - ③ 遠隔授業におけるサポート体制の構築

2. 検討期限 : 今年度（令和3年度）中

自己点検・評価委員会・FD委員会(大学・短大)

内部質保証委員会（10月15日）での決定を受け、
自己点検・評価委員会・FD委員会を開催

(大学) 令和3年10月18日

(短大) 令和3年10月28日

(大学) 構成員：副学長（委員長）、学部長、研究科長 等

(短大) 構成員：学長（委員長）、学科主任、図書館長 等

議 題：外部評価委員会の実施結果報告について

- 内 容：
- ①令和3年度外部評価結果報告
 - ②早急に改善を要する事項について周知及び改善依頼を行った。
 - ③外部評価委員からの主な意見等について、関係部所を付して周知徹底を図った。

早急に改善を要する事項（１）の検討経緯

【自己点検・評価の在り方等を検討すること】

令和3年度の「外部評価委員会」及び「内部質保証委員会」において、以下の意見等を踏まえ、自己点検・評価の在り方等について検討を行った。

【自己点検・評価の実施方法等に関する意見】

- ・俯瞰的・総合的な自己点検・評価は、7年ごとの認証評価の前年度などに実施し、その他の年度は、全体をふまえつつも、いくつかの課題に焦点化した検討を行うことで、メリハリのある検討を行うことを考えられないか。

【自己点検・評価報告書の記載内容等に関する意見】

- ・各学部等の課題認識や視点の置き方に差があるため、大学としてのまとまり、横の統一感については、今後の更なる改善が必要と感じた。
できれば、大学として統一して取り組む課題に対して、各学部等の取組状況が分析できる資料があると分かり易い。

早急に改善を要する事項（１）の検討経緯

【自己点検・評価の在り方等を検討すること】

- ・大学全体としての取組、及び部局固有の取組を整理して、簡潔かつ一貫した書きぶりに整えていく必要がある。そうすることによって、各組織レベルにおいて取り組むべき事項がより明確になると思われる。
- ・大学と短期大学部では認証評価機関の違いから基準が異なるとは言え、記載の形式はできる限り近づけた方が分かり易い。
- ・全体を通して、担当部所ごとに文言の表記や記載内容に差異があるため、記載事項等の統一を図るなど対応願いたい。
- ・全学的な方針を明確にしたうえで各学部・研究科が評価を行わなければ記載内容にも差が生じてくる。
次年度以降、自己点検・評価報告書の依頼時に各学部・研究科が方針に沿って記載できる仕組み、大枠を検討する必要がある。
- ・数字(データ)を用いて、使いやすく、見やすい報告書を作成願いたい。

早急に改善を要する事項（１）の検討経緯

【自己点検・評価の在り方等を検討すること】

- 大学基準協会大学評価ハンドブック
（2021（令和3）年改訂）より抜粋]

学部、研究科、諸組織が行う自己点検・評価は、学部、研究科では、基準1「理念・目的」、基準4「教育課程・学習成果」、基準5「学生の受け入れ」及び基準6「教員・教員組織」に関わることが、

諸組織では、それぞれの分掌事項（例えば、基準2「内部質保証」、基準3「教育研究組織」、基準7「学生支援」、基準8「教育研究等環境」、基準9「社会連携・社会貢献」又は基準10「大学運営・財務」）に関わることが対象です。

⇒ 大学基準協会大学評価ハンドブックに基づき、自己点検・評価項目の明確化

早急に改善を要する事項（１）の検討経緯

【自己点検・評価の在り方等を検討すること】

【学部・研究科における自己点検・評価】

令和４年度からは、大学基準協会の大学評価ハンドブックに基づき、「第１章 理念・目的」、「第４章 教育課程・学習成果」、「第５章 学生の受け入れ」、「第６章 教員・教員組織」の項目に対する自己点検・評価を行うが、

[自己点検・評価実施報告書作成マニュアル]

教育の質の向上の核となる「第４章 教育課程・学習成果」については、従前どおり実施報告書として作成する。なお、できる限り統一した記載内容等とするため、別途、「自己点検・評価実施報告書作成マニュアル」を作成する。

[自己点検・評価結果シート]

残りの３つの評価項目（第１章・第５章・第６章）の自己点検・評価については、従前の実施報告書の作成ではなく、「自己点検・評価結果シート」を作成することにより、次回の大学評価の際のエビデンスとする。

早急に改善を要する事項（１）の検討経緯

【自己点検・評価の在り方等を検討すること】

【学部・研究科・事務局】

[自己点検・評価における問題点に対する対応状況シート]

昨年度までの自己点検・評価において、評価項目ごとに各学部等から挙げられた「問題点」については、以下の様式を定め、毎年対応状況等についての確認を行う。

自己点検・評価における問題点に対する対応状況シート

【●●学部】

(第○章 ○○○○)

問 題 点	対 応	2021(令和3)年度対応状況
		対応済・一部未対応・未対応
(対応済の場合は対応した結果を、一部未対応・未対応と回答した場合は、簡潔に理由を記載してください。)		

(第○章 ○○○○)

問 題 点	対 応	2021(令和3)年度対応状況
		対応済・一部未対応・未対応
(対応済の場合は対応した結果を、一部未対応・未対応と回答した場合は、簡潔に理由を記載してください。)		

早急に改善を要する事項（１）の検討経緯

【自己点検・評価の在り方等を検討すること】

【九州産業大学造形短期大学の自己点検・評価報告書】

九州産業大学造形短期大学部は、認証評価機関が「一般財団法人大学・短期大学基準協会」のため、評価項目が異なっている。

一般財団法人大学・短期大学基準協会では、大学評価を受審する際、**過去3年間の「自己点検・評価報告書」を備付資料**として求められている。

したがって、九州産業大学造形短期大学部においては、これまでと同様に毎年度、認証評価機関のマニュアルに基づき作成する。

【内部質保証委員会への対応】 ← **記載内容等の統一に向けた対応**

内部質保証委員会において、当該年度の評価項目が決定次第、大学の作成マニュアル（第4章「教育課程・学習成果」）に基づき、九州産業大学造形短期大学部において、別途「内部質保証委員会用の資料」を作成し、対応する。

早急に改善を要する事項（１）の検討経緯

【自己点検・評価の在り方等を検討すること】

【内部質保証委員会の運営方法について】

- 内部質保証委員会において、自己点検・評価項目の年度計画を策定し、当該年度の点検・評価項目のみ検証等を行う。
（別紙「年度計画」次頁提示）
ただし、次回の大学評価までの間（４年間）、各評価項目最低２回は内部質保証委員会において検証等を行う。
- 自己点検・評価項目ごとに担当者（内部質保証委員会）を選定し、検証等を行う。
- 担当者は検証等を行った後、結果について評定を付して内部質保証委員会に提出し、その結果を基に内部質保証委員会としての見解等を取りまとめ、外部評価委員会の評価を受ける。
- 外部評価委員会での外部評価結果等を受けて、内部質保証委員会を通して自己点検・評価委員会及びFD委員会等において周知徹底を図り、次年度の自己点検・評価に向けて改善を図って行く。

早急に改善を要する事項（１）の検討経緯

【自己点検・評価の在り方等を検討すること】

内部質保証委員会における検証項目					
実施年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
自己点検・評価対象年度	対象年度 (令和3年度)	対象年度 (令和4年度)	対象年度 (令和5年度)	対象年度 (令和6年度)	対象年度 (令和7年度)
認証評価関係	—	改善報告書 (7月末)	—	—	第4期 認証評価
1	理念・目的				
2	内部質保証		○	●	
3	教育研究組織	●		○	
4	教育課程・学習成果	●	●	●	
5	学生の受け入れ		●	○	
6	教員・教員組織	○		●	
7	学生支援		●	○	
8	教育研究等環境	○		●	
9	社会連携・社会貢献	●		○	
10-(1)	大学運営・財務 (大学運営)		○		
10-(2)	大学運営・財務 (財務)			●	

※●又は○印が付いている項目は、内部質保証委員会において検証等を行う項目。
 ※●印が付いている項目は、外部評価委員会において外部評価を受ける項目。

早急に改善を要する事項（１）の検討経緯

【自己点検・評価の在り方等を検討すること】

章	項目	委員長	A氏	B氏	C氏	D氏	E氏	F氏	G氏	H氏	
3	教育研究組織（造形短期大学部含む）	総括責任者	●						○		
4	教育課程・学習成果		大学全体	●							○
			経済学部			○	●				
			商学部					○	●		
			地域共創学部					○	●		
			理工学部		○				●		
			生命科学部			●		○			
			建築都市工学部			●				○	
			芸術学部		○			●			
			国際文化学部		○					●	
			人間科学部					○	●		
			経済・ビジネス研究科					●		○	
			工学研究科					●	○		
			芸術研究科		○	●					
			国際文化研究科				○			●	
情報科学研究科					●		○				
造形短期大学部			○				●				
6	教員・教員組織（造形短期大学部含む）		●								○
8	教育研究等環境（造形短期大学部含む）	●							○		
9	社会連携・社会貢献（造形短期大学部含む）	●							○		

※ ●は、評価責任者（検証結果提出者）
 ※ ○は、評価者
 ※ 朱書きは、外部評価委員会において外部評価を受ける項目。

早急に改善を要する事項（１）の検討経緯

【自己点検・評価の在り方等を検討すること】

【内部質保証委員会での評定】

内部質保証委員会では、以下の大学基準協会の評定基準に基づき、評価項目毎に評定を付して評価を行う。

〔評定基準〕 ← 大学基準協会の評定基準に準じて策定

- S 教育の質の向上に照らして極めて良好な状態にあり、理念・目的を実現する取り組みが卓越した水準にある。
- A 教育の質の向上に照らして良好な状態にあり、理念・目的を実現する取り組みが概ね適切である。
- B 教育の質の向上に照らして軽度な問題があり、理念・目的の実現に向けてさらなる努力が求められる。
- C 教育の質の向上に照らして重度な問題があり、理念・目的の実現に向けて抜本的な改善が求められる。

早急に改善を要する事項（２）の検討経緯

【コロナ禍の遠隔授業における教育の質保証について検討すること】

【教員のFD】

○ F D研修会の開催

令和3年11月30日（火）

- ・ 遠隔授業に役立つPanopto・Zoom・Moodle等の活用
～基礎編及び応用編～

令和4年2月24日（木）

- ・ 地域共創学部で実施した「進級試験及び卒業時確認試験」の事例報告
- ・ 「コロナ禍における学びに関する調査結果」の結果報告
- ・ 本学教員による遠隔授業の事例報告
 - ① 「大講義におけるグループワークの事例」
 - ② 「MoodleとK'sLifeの違い」

早急に改善を要する事項（２）の検討経緯

【コロナ禍の遠隔授業における教育の質保証について検討すること】

【学生のリテラシー教育】

年度始めに実施する新入生・在学生対象の「教務ガイダンス」において、遠隔授業を受講する際の注意事項等の説明を行い、注意喚起を行っている。

【遠隔授業におけるサポート体制の構築】

令和４年度から

ICTアシスタント（IA）制度の開始

※参考

前学期（４月１８日～７月１日）にIAを希望する７９講義に約３０人の学生を配置

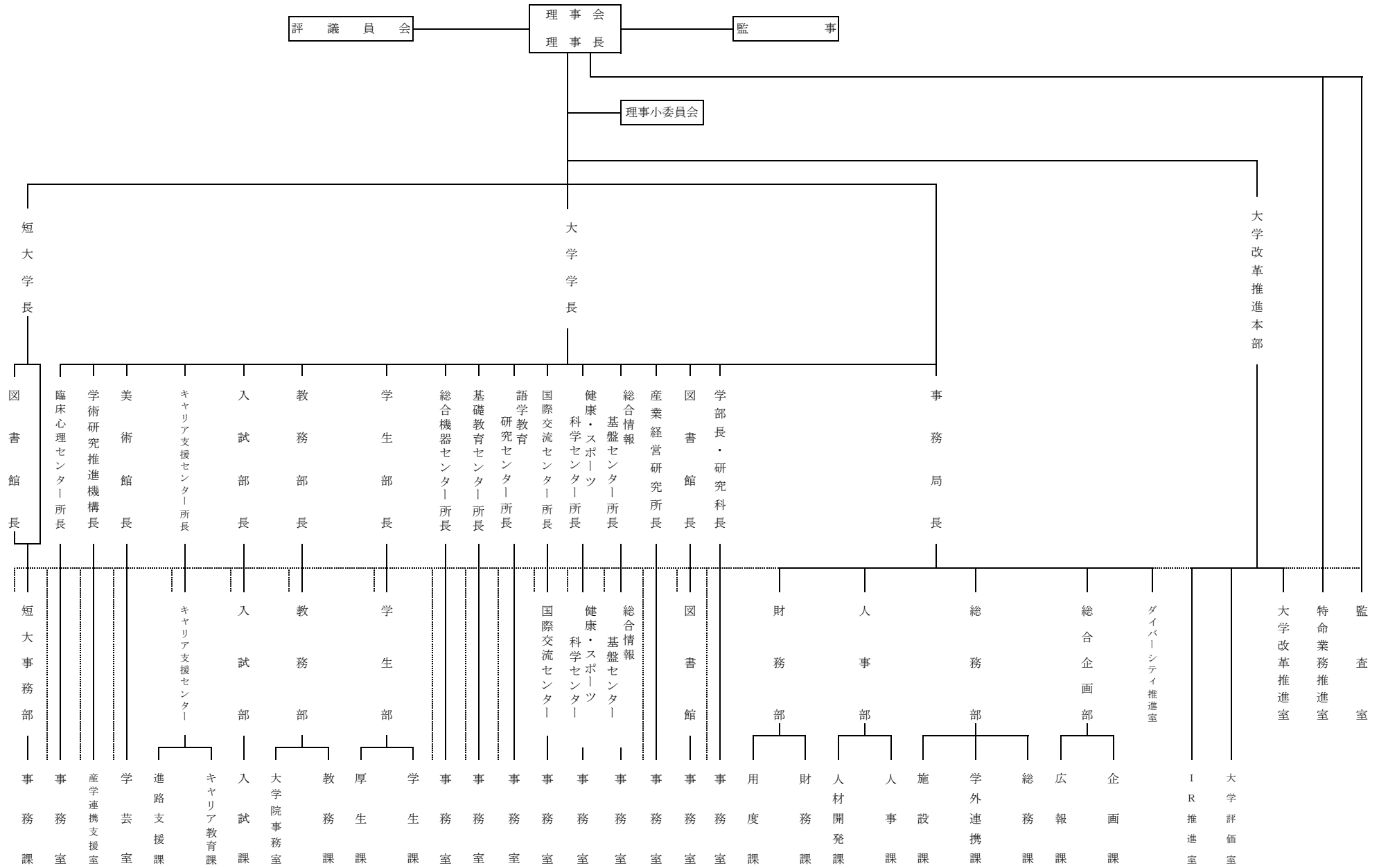
令和3年度外部評価結果に対する対応（まとめ）

- 外部評価結果及び主な意見等については、評価項目ごとに取り纏めを行い、関係部所（各学部、各研究科、各事務部門）を付して「自己点検・評価委員会」や「事務局部長会議」等を通して、次年度の改善に生かすよう全学的に周知を図った。
（外部評価報告書はHPで公表）
- 『早急に改善を要する事項』の「自己点検・評価の在り方等を検討すること」に対しては、上記の見直しを行い、令和4年2月24日（木）開催の「内部質保証委員会」及び令和4年3月18日（金）開催の「自己点検・評価委員会」にて了承され、今年度の自己点検・評価から実施している。
- 『早急に改善を要する事項』の「コロナ禍の遠隔授業における教育の質保証について検討すること」に対しては、FD研修会の実施やICTアシスタント制度の導入等により対応した。なお、今年度も引き続き質保証に向けて取組みを行っていく。

第3章

「意見等」に記載の【P●】については、自己点検・評価報告書（大学及び短大）の掲載ページ

区分	項目	付番	意見等	回答	担当部所
大学	教育研究組織	①	「九州・アジアビジネスの実践的な学び」とはどういうものなのか。【P23】	九州・アジアの地域社会・行政・企業を対象とし、ビジネスに関わる課題を自ら発見できる能力、幅広い視野から解決策を提案できる能力、周りを巻き込み実行できる能力を学生に習得させるための学びの事です。 「商学部設置届出書 設置の趣旨等を記載した書類」より抜粋	商学部
		②	語学科目の非常勤講師について、「応募者が少なく、また内定者による辞退が後を絶たず、採用に至らない場合が多い。」との記述があるが、少人数教育を実施していくうえで憂慮すべき事項であり、今後の対応などについて伺いたい。【P26】	現時点では講師の受け持つクラス数の調整により学生への教育は問題なく実施できています。また、アドバイスを受け、非常勤から常勤講師へのキャリアパス提示に対しても対応を開始したことから、本件課題解消の見通しを立てることができています。 他方、外的要因ではありますが令和4年度のカリキュラム改正において、外国語科目の卒業要件が8単位から6単位に引き下げられたことなどから、英語科目の開講クラス数は来年度までに1割程度減少し、それに応じて必要な講師数も減少する見込みです。	人事部 語学教育研究センター
		③	生命科学部、人間科学部の上位教育機関としての研究科ではどの研究科になりますでしょうか。【P21】	生命科学部→工学研究科 人間科学部（臨床心理学科）→国際文化研究科	大学院事務室
		④	各附置研究所・センターと貴学との関連をご教示ください。貴学の直営施設でしょうか。組織図に記載するとすれば、どのような位置づけになりますでしょうか。【P22】	事務組織図【参考資料1】をご参照ください。	大学評価室
		⑤	1行目「自己点検・評価を毎年定期的実施し」との記載と、3行目の「新設時や再編時において、教育研究組織の適切性を検証している。」の内容について、ご教示ください。【P23】	学部再編後の検証及び見直しについては、「自己点検・評価委員会」から、当該学部に対し、「入試状況」・「学習成果」・「卒業後の進路」の3つの観点から再編後の成果と課題等の検証を依頼し、「内部質保証委員会」において各学部長から検証結果の説明を受け、意見交換を行っています。なお、課題等への対応状況等については、次年度以降、自己点検・評価を行うよう学長から指示を行っています。	大学評価室
短大		⑥	《造形短期大学部》 4行目「自己点検・評価委員会」はどのような構成されている機関でしょうか。【P5】	委員会は以下の委員で構成しています。 ①学長（委員長）、②図書館長、③学科主任、④学生委員長及び教務委員長、⑤事務室長	大学評価室



注 点線は、事務上の連絡調整及び職員のサービスの統括を表す。

第4章

「意見等」に記載の【P●】については、自己点検・評価報告書（大学及び短大）の掲載ページ

区分	項目	付番	意見等	回答	担当部所
大学	教育課程・学習成果	①	コロナ禍における教育サポートに関する記載が十分ではない。【P44】	詳細に記載している学部とそうでない学部等が見受けられるため、次年度以降、記載方法を検討します。	大学評価室
		②	100分授業（15回→14回）に変更した理由。また、実施後の検証を行っているのか。【P34・P38・P44】	100分授業は令和2年度から導入しました。 本学では、プロジェクト型教育の推進（H25）や基盤教育の導入（H26）、全学的な学部再編（H28～30）に取り組んで教育改革を進め、入学志願者の増加等の一定の効果は見られたものの、除籍退学者抑制の抜本的な改善、自発的学修・計画的な単位修得システムが未構築であるなどの課題が未解決でした。また、グランドデザイン答申にある、多様性、柔軟性の対応など外的環境への対応も急務でした。そこで、更なる教育改革への取組みとして、授業時間の変更（90分→100分）を始め、3年次進級制度の導入、チャレンジマンズ（長期休暇中の学外活動の推奨）の設置等、8つの施策を「新たな教育システム」として導入しました。 導入前後からコロナ禍となり、100分授業単体、全体的なシステムの検証は実施できていませんが、コロナ禍における学修の状況については、単位の修得状況、GPA等で分析を行っており、導入前後における数値の大幅な増減は生じていないことを確認しています。コロナ禍も落ち着きを見せており、海外への渡航も可能な状況になってきたことから、今後、全体的な検証を行っていきます。	教務部
		③	「学生は成績について疑義がある場合は、担当教員に確認し説明を受けることができるが、一部の学部では、その照会手続きについて履修規程で明文化されている。」との記載について、自身の担当科目でも学生から直接申し出を受けたことがある。この取扱いについて教えてほしい。また、その照会手続きについて履修規程で明文化しているのが一部の学部に留まっている理由について。【P40】	従前から、授業科目担当の教員に対しては学生から成績に関する質問があった場合は、ご対応いただくようお願いしています。現在、履修規程に明文化している学部は、経済学部、商学部、地域共創学部であり、これらの学部は在籍者も多いため、教員・学生双方に窓口、手順を示すことで手続きを明確にしています。	教務部
		④	「何らかの理由で授業についていくことが困難な学生に関しては、オフィスアワーを設定して随時、研究室訪問を促している。」と記載があるが、本来のオフィスアワーの役割について記載したほうがよいのではないかと。また、一部の学部のみ記載に留まっているため、大学全体で記載すべきではないかと。【P49】	次年度報告では大学としてのオフィスアワーの役割について詳細に記載します。 (参考：基礎教育センターHP掲載) オフィスアワーは、各学部の担当教員に授業に関することはもちろん、レポート指導などのさまざまな相談・質問ができます。各教員のオフィスアワーの一覧表については、教務部のHPから確認できるようにしていますが、オフィスアワーの役割については記載がない学部もあるので、学生に解りやすく追記します。	教務部 基礎教育センター
		⑤	商学部における経営学部の位置付け。【P53】	商学部の完成年度を踏まえ、次年度から経営学部（旧学部）は記載しません。	大学評価室

区分	項目	付番	意見等	回答	担当部所
大学	教育課程・学習成果	⑥	「九州ビジネス科目」とはどのようなものか。【P54】	商学部の専門科目における科目区分の名称であり、「実践力育成科目」区分の中に「九州ビジネス科目」区分として18科目を設置し、九州の企業の事例等を実践的に学びます。	教務部 商学部
		⑦	2年次原級留置き制度の意義及び中退率の低減への影響について。また、再試験制度について。【P71】	<p>【原級留置き制度について】</p> <p>2年次原級留置き制度は、令和2年度に導入した「新たな教育システム」の1項目です。新入生には、4年間の各学期毎の修得推奨単位数を示し、短期的な目標を明確にすることで、計画的な履修、単位修得を促進することを目標としています。その中での一つのハードルとして3年次に進級するために必要な修得単位数を設定しています。</p> <p>導入から2年が経過し、令和4年度に初めての原級留置き対象者がでたことから、単位修得状況の分析を行ったところ、留年となった学生は、初年度から修得単位数が少ないことが判ったため、1年次前学期の指導の重要性が改めて明らかになりました。</p> <p>除籍退学率の削減については、他にも取組みを行っており、単体での評価は困難ですが、概ね減少傾向を維持できています。</p> <p>【再試験制度について】</p> <p>再試験は、卒業年次において受験することができる試験です。受験には、当該年度において受講した科目の成績評価が「D判定（再試験受験可）」であること、不合格科目が一定の範囲内であること等、種々の条件があります。再試験の意義は、努力をしたにも関わらず単位を修得できなかった学生に対する教育的配慮であり、成績不良者に対する救済の機会を与えるものではありません。</p>	教務部
		⑧	「近年の入学者の基礎学力の低下傾向は深刻な問題点であり」との記載があるが、今後、大学全体としてどのような対応をするのか。【P92】	<p>本学は、入学後に国語・数学・英語等のプレイスメントテストを実施していますが、その結果（特に数学）を見ると十分な結果とは言えないため、次年度より「入学前教育の充実」及び「初年次教育の強化」を行うこととしています。</p> <p>具体的には、現在年内入試で入学する学生対象に行っているeラーニングの内容を見直し、合格発表から3月まで継続して学習する仕組みを構築します。</p> <p>また、数学については、プレイスメントテストで点数を取れない学生には、数学科目及びリメディアルクラスの履修を義務付けるなどの仕組みを導入します。</p>	基礎教育センター
⑨	「授業アンケートは、講義の規模や質問項目の内容によってはその評価が適正に行われな可能性もある。」との記載があるが、どのように見直しを図るのか。【P124】	授業アンケートについては、これまで定期的に設問内容等の見直しや紙媒体からWEBへの移行などを行ってきました。ハイフレックス授業など授業形態も多様化しているため、FD委員会において、教育改善を図るために妥当な設問内容等を適宜見直していきたいと思えます。	大学評価室		
		⑩	人間科学部においては「留学生に関する科目」について記載があるが、他学部等では設けていないのか。設けているのであれば記載すべきではないか。【P125】	留学生に関する科目は全学共通の科目であるため、記載方法については統一できるよう検討いたします。	大学評価室

区分	項目	付番	意見等	回答	担当部所
大学	教育課程・学習成果	⑪	<p>学位授与・成績評価について、どのような基準で学位を授与しているか不明瞭であるため、詳細に記載する必要がある。【P137】</p>	<p>学位授与・成績評価について、次年度から詳細に記載します。 なお、現状については以下のとおり回答します。</p> <p>成績評価方法については、九州産業大学大学院学則第 16 条第 1 項において「試験の成績は、100 点満点とし、60 点以上を合格とする」と規定しており、学生に対しては、大学院学則を明示した学生便覧を配布して周知を行うとともに、年度初めのガイダンス等で説明している。 また、各授業科目の成績評価の基準は、担当教員のシラバスに明記されており、授業への取り組みや報告内容などを総合勘案して単位が与えられている。成績の発表は、各学期に K's Life で行っている。</p> <p>博士前期課程の修士論文、課題研究報告書の審査にあたっては、研究者養成コースは、修士論文の適格性等の有無について審査するために「修士論文審査委員会」を置く。 専修コースは、課題研究報告書の適格性等の有無について審査するために「課題研究報告書審査委員会」を置く。 両コースの審査委員会は、経済・ビジネス研究科より選出された指導教員を含む 3 名の教員で構成され、必要に応じて学内外の研究者等の意見を聴くことができる。</p> <p>修士論文及び課題研究報告書の提出部数については、修士論文、課題研究報告書ともに各 3 部とし、研究の位置づけの明確さ、論旨の明確さ、文献レビューの十分さ、参考文献及び参照（注）の十分さ、文章の正確さ及び平易さ、論旨の理論的根拠又は実証的検証の全 6 項目について、総合的な評価が行われる。</p> <p>なお、博士前期課程の審査の基準は、「九州産業大学大学院研究科博士前期課程における学位論文審査に関する申し合わせ」、「九州産業大学大学院研究科博士前期課程における課題研究報告書審査に関する申し合わせ」、「学位の授与方針」、「九州産業大学大学院経済・ビジネス研究科博士前期課程における早期修了に関する申し合わせ」に明示している。</p> <p>博士後期課程の博士論文の審査にあたっては、主題に関する単著の論文 1 編、さらに、学術雑誌に研究論文として公刊（公刊が決定したものを含む）されたものが 2 編以上あることを要件とし、研究の独創性、研究の位置づけの明確さ、論旨の明確さ、文献レビューの十分さ、文章の正確さ及び平易さ、理論的研究の場合の理論的整合性又は実証的研究の場合の検証方法の妥当性の全 6 項目について、総合的な評価が行われる。</p> <p>なお、博士後期課程の審査基準は、「経済・ビジネス研究科課程博士の学位論文審査に関する申し合わせ」に明示している。</p> <p>学位授与に係る手続きについては、博士前期課程は「経済・ビジネス研究科委員会」で、博士後期課程は「経済・ビジネス研究科教授会」で行われる。</p>	<p>大学院事務室 （経済・ビジネス研究科）</p>

区分	項目	付番	意見等	回答	担当部所
大学	教育課程・学習成果	⑫	大学・大学院共に「シラバスについては、第三者によるチェックを行い、教育課程編成・実施の方針等との整合性を確認している。」とありますが、この第三者はどのような機関でしょうか。【P35・P38】	大学評価室にて第三者チェックを実施しています。	大学評価室
		⑬	成績評価基準の点数はどのように評価されたものでしょうか。【P39・P40】	成績評価基準の点数については全学的に統一しています。明確に定義することで、授業科目担当教員は、この基準を参考に到達目標を設定しシラバス等で学生に明示します。また、学生は単位を修得するために必要な内容等を確認して、学修に取り組むことができます。	教務部
		⑭	教育課程連携協議会の設置はございますか。【P39・P40】	「教育課程連携協議会」は、専門職大学等での設置が義務付けられたものであり、現状では設置していません。 一方で、「産学一如」を建学の理想とする本学においては、産業界との連携は重要な要素であるため、令和3年度から「アドバイザーボード」を設け、全国の産業界や自治体、伝統工芸など幅広い分野の有識者のメンバーに、様々な視点から助言をしていただき、本学の教育研究の見直しを行っています。	教務部
		⑮	リモート授業及び対面授業に係るFD活動について、教育（授業）の質の向上に係る取り組みがあれば伺いたい。（公開授業を行っているとの記載があるが、教員に対してどのようにフィードバックを行っているのか、また、どう活かされているか等。）	【地域共創学部】 公開授業については、コロナ禍の影響により、全期間中・全科目を公開とはせず、新たな取り組みとして、前期・後期共に4人の教員が設定した参観日から選択し、遠隔授業への参観を可能とした。実際に遠隔授業へ参加することにより、直に授業の様子や工夫を学ぶよい機会となったという声が多く、提出されたアンケート結果は、授業担当教員へフィードバックしています。 また、公開授業・授業研究会の一環として、学部教員を対象に独自の「授業方法および成果・課題に関するアンケート」を前期と後期の授業終了後に実施しました。アンケートは、講義型授業、実習・演習型授業、ゼミ、外部講師を招く授業と4つの授業形態に分類して行い、対面・遠隔ハイブリット授業における双方向授業の工夫や授業動画のオンデマンド配信も交えたハイフレックス授業の成果および学生の成長の様子等、多くの意見が寄せられました。アンケート結果は、集計の上、上述の公開授業参観者アンケート結果の一部と併せ、前期・後期の計2回、学部教員と共有を図りました。	大学評価室 教務部
		⑯	学習成果の測定が教育課程やその内容、方法の改善にどのように活用されているかについては、学部・研究科間で統一を図り記載願いたい。	学習成果の活用について記載方法について統一できるよう検討いたします。	大学評価室 各学部・研究科
		⑰	人間科学部において「2020（令和2）年度から2か年にわたり、COVID-19の感染防止の観点から、学部基幹科目群の多くが遠隔授業、クラスサイズを考慮した学科別の対面授業などの実施方法の変更を余儀なくされた」とあるが、COVID-19への対応は既に3か年目を迎えるにも関わらず対応が遅いように感じる。【P127】	2020年度はオンデマンド授業を含んだ遠隔授業で対応しました。 2021年以降は3学科合同の授業をハイフレックス型で実施したり、学科別の対面授業では他学科の専任教員が授業を担当するなど、学科間での学生、教員が交流する機会が持てるよう配慮しました。	人間科学部

教育の質保証、評価の質保証、内部質保証

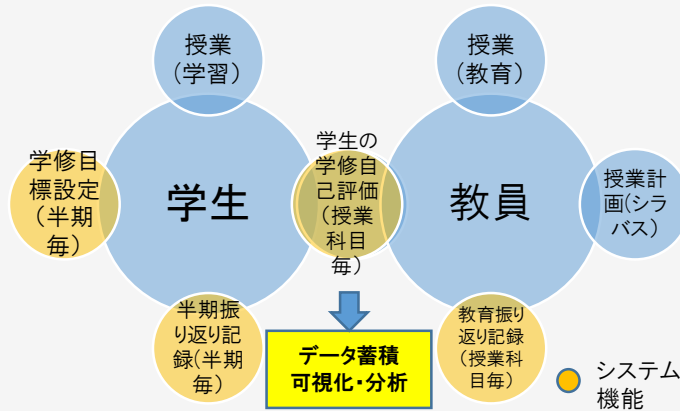
ポートフォリオ・ルーブリック・アセスメント

・ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)に即した到達度の向上のため、教育課程が有効に機能しているかを確認 **(教育の質保証と改善)**

■ポートフォリオ

令和5年9月のシステム更改に向けて改修予定

説明:学修・教育自己改善支援。学生の「収集資料」や「研究成果物」、自己評価の「記録」、指導者の指導と評価の「記録」などを、系統的に蓄積していくものです。



■ルーブリック

令和5年度シラバスから導入

説明:「評価項目」と「評価基準」を評価指標とする評価の基準表。



課題:地域の活性化に、なぜSDGsが重要なのか

	S	A(履修目標)	B	C(到達目標)	D
評価項目(観点)	期待を大きく上回る(秀)	期待以上である(優)	やや努力を要する(良)	努力を要する(可)	相当の努力を要する(不可)
SDGsが地域社会へ与える効果・影響	地域全体を意識し、地方創生、グローバル、パートナーシップに関する内容が書かれている	地方創生、グローバル、パートナーシップにも言及されている	地域への効果・影響が言及されている	地方創生、グローバル、パートナーシップの一部のみが書かれている	全体的に内容が分である
実践事例	二つ以上の事例を詳細に分析している	二つ以上の事例を分析している	一つ以上の事例を分析している	事例の内容が不十分である	文献のコピーと考える文章である
SDGsの実践における課題	現状に基づいた課題とそれに対する自分の考えが明確に書かれている	現状に基づいた課題とそれに対する自分の考えが書かれている	現状に基づいた課題のみが書かれている	課題の説明が不十分である	課題を理解していない

■教育アセスメント

令和5年度実施に向けて各学部で検討中

説明:学生の学習を成功に導くために、**学習実態を把握**し、適切なフィードバックを行い、**学習活動の成果を学習目標に照らして評価**する教育活動。

●**診断的アセスメント**:最適な学習の提供を目的として、授業前に学生の能力や既有知識を把握して、授業内容・計画を調整するために行う評価。(例)受講前アンケートや基礎学力テスト、**プレイスメントテスト**など

●**形成的アセスメント**:学習の改善を目的として、教員が授業の途中で学生の理解度・到達度を確認して、今後の授業内容・計画を修正する必要があるか検討するために行う評価。(例)**授業ごとの小テスト**、**中間テスト**や**中間アンケート**等

●**総括的アセスメント**:学習の効果検証を目的として、教員が学生の最終成績を判定するために行う評価。(例)期末テスト、最終レポート、合否判定等

* **第三者評価**:客観的な評価指標によって学修成果を可視化

Value ルーブリック:期待レベルの枠組みの中で学生の学修を評価

(地域共創学部)進級試験(受験科目:国語、情報リテラシー、英語、専門)において、カリキュラム・ポリシーに従い**学修が進んでいるかを確認**(GPA3.0以上は試験免除(留学生N1取得者及び英語レベル1と2は科目免除、情報資格取得者は科目免除))

・**最終目標は、「卒業論文」の執筆。**
(卒業論文を選択しない学生は「卒業確認テスト」を受験)

- 1 在学期間全体を通じてのポートフォリオ
 学生の**自己評価**や**成績**などを**経年変化で可視化**して提示
 (教員)学生が入力した学修自己評価の集計データをもとに**授業改善の効果を確認**
(カギは利便性向上)既存の授業支援システム・出欠管理システムと一体的に運用・ゼミの面接、修学指導に活用

【学生】学修の自己評価・学修成果の可視化
【教員】授業改善

- 2 学生がシラバスの授業別ルーブリックが閲覧でき、教員と学生が各科目における**成績評価の基準を共有**することができる。
 学生と教員の双方にとって、事前にその授業では**どのような学修成果が求められているのかを把握**することができる。
 事後には**どのような学修成果が達成されたかを可視化**することができる。

【学生】と【教員】成績評価の基準を共有

- 3 **【教員】学修の実態把握**
 学生への**フィードバック**

【教員】学修の実態把握
学生へのフィードバック

第9章

「意見等」に記載の【P●】については、自己点検・評価報告書（大学及び短大）の掲載ページ

区分	項目	付番	意見等	回答	担当部所
大学	社会連携・社会貢献	①	地域共創学部においては、まさに社会との取組みに関して積極的に推進すべき学部である。もし取組みを実施しているのであれば記載すべきではないのか。【P244】	<p>社会との取組みに関して、次年度から詳細に記載します。</p> <p>なお、地域共創学部における取組みについては以下のとおり回答します。</p> <p>地域共創学部では、地域との連携による様々なプロジェクトを既に展開しており、一部をご紹介します。</p> <p>『観光学科』において令和3年度に実施した取り組みは、柳川市における「観光地域事業プロジェクト」や福津市における「観光振興プロジェクト」をはじめ、日田市豆田町における「時代衣装町歩き体験事業」、「朝倉市ワーケーションモデル事業（あさくら観光協会との連携）」、南島原市における「歩く旅オルレによる地域づくり」、八女市の地域事業者を対象としたフィールドワークの実践などです。また事業者と連携した取り組みとしては、肥薩おれんじ鉄道との連携による「鉄道産業演習」、九州電力との連携による「あさくら観光振興プロジェクト（朝倉市における課題解決提案）」、KBC九州朝日放送「ふるさとwish」の番組ポスター制作（芸術学部との連携事業）、タイ国政府観光庁福岡事務所との連携によるタイの観光プロモーション実践、福岡国際空港との「若者の海外旅行意識」に関する共同調査などです。</p> <p>『地域づくり学科』においての取り組みは、「みちなるプロジェクト(高校生と大学生が連携した地域づくり人材の育成)※後に築上町へ資料等を提供」「文化財を活かした健幸まちづくり(飯塚市歴史資料館の活性化に関する調査と提案)」「国際海岸クリーンアップと連携した福岡市雁ノ巣・和白地区における海岸ゴミ調査活動」「古賀市と大学との包括的連携協定にもとづく『住みたくなるまちづくり』の提言」「福津市の新原・奴山古墳群におけるイベントの参与観察と改善点の提言」「八女市福島地区における町並み・伝統工芸・産業に関する聞き取り調査」「菊池ファンクラブ(熊本県菊池市)との連携によるシティプロモーションに向けた動画制作」などです。</p>	地域共創学部
		②	社会連携・社会貢献の項目に関し、九産大の特色である「KSUプロジェクト型教育」についても記載すべきではないのか。	現在は教育活動の観点から、第4章（教育課程・学習成果）に記載しています。社会連携・社会貢献にも関連するため、第9章（社会連携・社会貢献）でも記載することで検討します。	大学評価室 教務部

区分	項目	付番	意見等	回答	担当部所
大学	社会連携・社会貢献	③	自己点検・評価の結果を受け、どのように改善・向上に努めているか具体例（社会連携・社会貢献、国際交流、美術館など）をいくつかお示しいただけますでしょうか。 【P246】	<p>地域連携等委員会で審議・了承を得ている公開講座については、社会のニーズを考慮し、幅広い年齢層を対象とした内容で開講し、それに伴い文理芸融合の総合大学としての「学び」を地域に発信・提供することにより、生涯学習の拠点を形成しています。</p> <p>東部地域大学連携による大学間連携については、本学・福岡女子大学・福岡工業大学の3大学が相互の教育・研究の一層の進展と地域社会の発展に寄与することを目的に、連携推進を図っています。</p> <p>共同研究の推進、自治体との協働による防犯・性犯罪抑止等のキャンペーンへの参加。同時に、福岡未来創造プラットフォームとの共同開講科目「SDGsを学ぶ」を開講し、多くの学生の参加がありました。</p>	学外連携課
				<p>令和3年度からオンライン交流を促進し国際交流協定校を中心に協働学習を展開、この実績を踏まえ本学独自のKSU-COIL型教育を構築しました。同教育手法は令和4年度から全学部で導入・展開しています。</p>	国際交流センター
				<p>情報発信が課題です。ホームページの他、SNSなどを使った展覧会や活動のPR。オンライン活用したイベントを開催し地域社会への情報発信に努めています。</p>	美術館

令和4年度 外部評価委員会 事前訪問時における各委員からの意見等に対する回答について

その他の章

「意見等」に記載の【P●】については、自己点検・評価報告書（大学及び短大）の掲載ページ

区分	章	項目	付番	意見等	回答	担当部所
大学	2	内部質保証	①	内部質保証と外部評価の関係について。【P17】	自己点検・評価活動の客観性や公平性を担保するため「外部評価委員会」を設けました。同委員会においては、外部委員による評価を実施し、その評価や助言に基づき、学長は、「内部質保証委員会」を経て、各種委員会や各部局へ改善指示等を行います。これら一連のサイクルを通して、内部質保証システムを有効に機能させます。	大学評価室
			②	3つのポリシーについて、本文中に「3つのポリシー」との文言があるが、ポリシーの内容も併せて記載すべきではないか。【P18】	次年度以降、報告書に記載します。	大学評価室
	6	教員・教員組織	③	「FD活動については、各学部・研究科で1年間の活動計画を定め、FD委員会において審議・決定している。」との記載があるが、FDとは、いかに教育力を高めるか詳細に記載すべきではないか。【P199】	大学全体の組織としての教育の充実及び向上を図る取組みとして、FD研修会、公開授業、授業研究会等を実施し、各学部の授業研究会には他学部の教員も積極的に受け入れています。また、学外で開催されるFD研修会への参加も促しています。このような取組みについても、次年度以降、報告書に記載します。	大学評価室
	8	教育研究等環境	④	「研究費は一律10万円とし、予算の範囲内で「研究旅費」と「研究資料費」の費目で研究活動上に必要なものに幅広く執行が可能である。」と記載があるが、これだけでは研究支援としては不十分ではないか。（九州大学は34万円）【P231】	令和4年度に「学内研究費制度」を改正し、教育研究支援費を一律10万円から一律35万円に増加（25万円）しました。	産学連携支援室
	10	大学運営・財務	⑤	ガバナンスに係る理事長の位置付けについては短大の報告書のほうが詳細に記載してあるため、大学もそれに倣って記載すべきではないか。【P255】	大学と短大では認証評価機関が異なっているため、記載内容が違っていますが、大学においても、できる限り理事長のガバナンスについて記載します。	総務部 大学評価室
短大	I	建学の精神と教育効果	⑥	3つのポリシーについて、本文中に「3つのポリシー」との文言があるが、ポリシーの内容も併せて記載すべきではないか。	P11～P12にかけて「学位授与の方針」、「教育課程編成・実施の方針」、「入学者の受け入れ方針」を記載しています。	造形短期大学部
			⑦	学習成果の把握について。【P9】	教育目標、各系列の到達目標及び学位授与の方針を踏まえ、基礎教育科目を含めた成績評価、卒業制作の中間審査、最終審査により把握しています。	造形短期大学部
	II	教育課程と学生支援	⑧	アンケート（卒業生による教育評価）の対応について。【P27】	教員全員にアンケート結果の説明を行い、カリキュラムの見直しや、授業の改善に活かすとともに、1年次生はクラス担任、2年次生は卒業研究担当教員及びクラス担任を介して学生指導を行っています。	造形短期大学部
			⑨	コロナ禍の対応と教育サポートについて。【P33】	コロナ禍においては、学園の取組みとして「危機管理対策本部会議」を設置し、全体的な対応を決定しています。短期大学部においては、実技等が多いという特性上、感染対策を徹底して、多くの科目を対面形式で実施しています。授業内外での感染対策を徹底しており、学内での感染拡大等は生じていません。 令和4年度からは遠隔授業の準備等に対する負担軽減策として、希望者にICTアシスタントを配置し、教員サポートを行っています。	教務部

区分	章	項目	付番	意見等	回答	担当部所
短大	Ⅲ	教育資源と財的資源	⑩	教員の外部資金の獲得について。【P53】	<p>【令和3年度】181万円 (内訳) 科研費：0円 受託研究：2件・35万円 共同研究：0円 奨学寄附金：6件・146万円)</p> <p>【令和4年度（R4.9末現在）】279万円 (内訳) 科研費：0円 受託研究：3件・126万円 共同研究：1件・20万円 奨学寄附金：6件・133万円)</p>	産学連携支援室

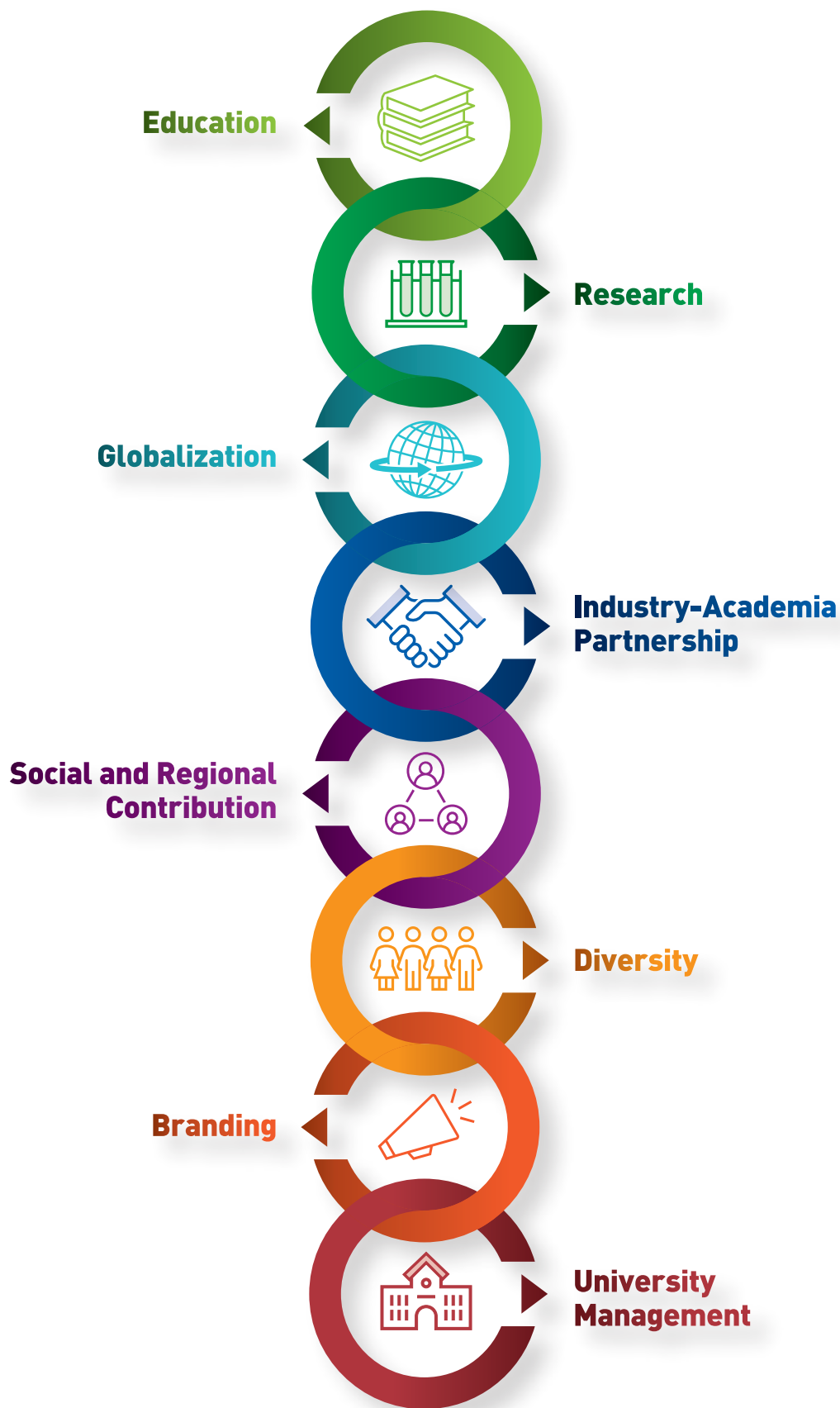
その他

令和4年度 外部評価委員会 事前訪問時における各委員からの意見等に対する回答について

「意見等」に記載の【P●】については、自己点検・評価報告書（大学及び短大）の掲載ページ

区分	項目	付番	意見等	回答	担当部所
大学	理念に基づく教育	①	貴学が「産業大学」であるため、理念に掲げてある ・市民的自覚 ・中道精神 ・実践的な学風 の涵養に向け、構成されたそれぞれの学部・課程の中で、取り組まれていること。	建学の理想と理念を具現化するために、教育研究上の目的及び大学全体の3つのポリシー（学位の授与方針、教育課程編成・実施の方針及び入学者の受け入れ方針）を制定のうえ、その下に各学部においても3つのポリシーを定めています。なお、建学の理念の具現化に向けた取り組みの1つとして、本学の特色であるKSUプロジェクト型教育を全学において実施し、時代のニーズに応えられる社会人としての「実践力」、「共創力」、「統率力」などを身につける教育を実施しています。	各学部 教務部
大学	VISION DAY	②	VISION DAYについて。	「KSU VISION DAY文×理×芸＝展」は、文系・理工系・芸術系の学部学科の垣根を越え、産学一如を建学の理想に進化し続ける、本学ならではの研究成果を紹介する展示会で11月3日と4日の二日間開催します。本学の研究者が有するシーズや研究成果を一挙にまとめて紹介し、企業の技術課題等のニーズ発掘や事業化につなげ、地域社会の発展や課題解決に貢献します。また、本学の特色あるプロジェクト型教育やボランティア活動等の紹介に加え、11月4日には株式会社QTnet代表取締役社長 岩崎 和人氏による基調講演も開催します。	事務局長 産学連携支援室
大学 短大	KSUプロジェクト	③	「KSUプロジェクト」において展開されている企業・行政・地域とのコラボレーションの例	当日、学部長及び短大学長よりプロジェクト例を紹介します。	学部長及び短大学長
短大	少人数教育	④	少人数教育だからこそ得られる教育効果について。	2年間を通じたクラス担任制により、学生の個々の状況を把握し、他の教員との密な連携を行い、必要に応じて個人面談などの対応を行っています。また、卒業制作等の実習授業では少人数での個別指導によって教育効果を上げていると考えています。	造形短期大学部
	卒業生の進路	⑤	短期大学部の卒業生の進路について。（産業大学併設であることの特徴などがありますか？）	併設の特徴としては、九州産業大学芸術学部への推薦推薦について、「一般推薦編入」に加え「学長推薦編入」が設けられ、近年10名前後の学生が編入してします。 就職先としては、約50%が在学中に学んだことを活かせる映像・デザインに纏わる業界に進んでいます。 就職活動においては、芸術学部生向けのガイダンスや企業説明会にも参加できるため、情報量が豊富です。	造形短期大学部 キャリア支援センター
	編入について	⑥	短期大学部を卒業後の進路について。 特に他大学への編入等（大学との接続）について詳細に記載したほうがよい。	近年、佐賀大学芸術地域デザイン学部をはじめ、他大学へ15名前後編入しています。特に、九州産業大学芸術学部への推薦編入については、「学長推薦編入」が設けられ、10名前後の学生が編入してします。	造形短期大学部 キャリア支援センター

VI 別 添 資 料



1年間の取組み 2021

KSU Annual Report 2021

九州産業大学 九州産業大学造形短期大学部

CONTENTS

法人の概要

1. 建学の理想等	1
・ 基本情報	
・ 建学の理想、建学の理念、ビジョン、行動理念	
2. 学園の沿革	2～3
3. 設置する学校・学部・学科等	3～5
・ 学部・学科、研究科・専攻、学生数の状況	
4. 収容定員充足率	5
5. 役員の概要	6
・ 理事、監事の定員数、氏名等	
・ 責任限定契約、役員賠償責任保険契約	
6. 評議員の概要	7
・ 定員数、氏名等	
7. 教職員の概要	8
・ 教育職員数	
・ 事務職員数	

事業の概要

1. 教育分野	9～10
2. 研究分野	11～12
3. 国際化分野	13
4. 産学連携分野	14
5. 社会・地域貢献分野	15
6. ダイバーシティ分野	16
7. ブランディング分野	17
8. 経営基盤分野	18～19
9. 数字で見る実績	19～20

財務の概要

1. 貸借対照表関係	21～23
2. 資金収支計算書関係	24～30
3. 事業活動収支計算書関係	31～35
4. その他	36～37
5. 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策	38

法人の概要

1. 建学の理想等

(1) 基本情報

① 法人名称

学校法人中村産業学園

② 主たる事務所の住所、電話番号等

〒813-8503 福岡県福岡市東区松香台二丁目3番1号

電話番号：092-673-5050 FAX：092-673-5599

ホームページ：<https://www.kyusan-u.ac.jp/>

(2) 建学の理想

さんがくいちによ

産学一如

産業と大学は車の両輪のように一体となって
時々の社会のニーズを満たすべきである。

(3) 建学の理念

九州産業大学

- ・ 市民的自覚と中道精神の振興
- ・ 実践的な学風の確立

造形短期大学部

- ・ 造形の伝統を継承
- ・ 産業社会に有用な人材育成

(4) ビジョン

広く産業界の期待に応えられる

「実践力」「熱意」「豊かな人間性」を持った人材を輩出する大学になります。

(創立100周年に向けたビジョン)

新たな知と地をデザインする大学へ
— もっと意外に。もっと自由に。 —

私たちは、固定観念にとらわれず、もっと意外に、もっと自由に挑戦し続けます。
そして、新たな叡智を産み出し、活力ある地域、世界をデザインする大学を目指します。

(5) 行動理念

- ・ 私たちは学生が人生の目標や夢の実現に向かって取り組むことができるよう、あらゆる支援を惜しまずに行動します。
- ・ 学生のニーズや環境の変化を的確にとらえ、迅速に行動します。
- ・ 自分を大切に、まわりの人と誠実に関わり、責任を持って行動します。
- ・ 常に改善の改革の意識を持ち、創意工夫を心がけて行動します。

2. 学園の沿革

- 1960(昭和35)年 4月 ● 九州商科大学商学部商学科の単科大学として開学
- 1962(昭和37)年 4月 ● 商学部産業経営学科増設
- 1963(昭和38)年 1月 ● 設置者を学校法人中村英数学園より学校法人中村産業学園に、大学名を九州商科大学より九州産業大学と改称認可
- 4月 工学部(機械工学科、電気工学科、工業化学科)設置、商学部経済学科増設
- 1964(昭和39)年 4月 ● 商学部第二部(経済学科、商学科)設置、工学部(土木工学科、建築学科)増設
- 1966(昭和41)年 4月 ● 芸術学部(美術学科、デザイン学科、写真学科)設置
- 1968(昭和43)年 4月 ● 九州造形短期大学開学(設置者:学校法人九州中村高等学園)、経営学部産業経営学科設置
- 1972(昭和47)年 4月 ● 芸術専攻科(美術専攻、デザイン専攻、写真専攻)設置
- 1973(昭和48)年 3月 ● 商学部産業経営学科廃止
- 4月 大学院工学研究科修士課程(機械工学専攻、電気工学専攻、工業化学専攻、土木工学専攻)設置
- 1974(昭和49)年 4月 ● 大学院芸術研究科修士課程(美術専攻、デザイン専攻、写真専攻)設置
- 1975(昭和50)年 4月 ● 大学院経済学研究科修士課程(経済学専攻)、工学研究科修士課程(建築学専攻)増設
- 7月 九州英数学館を中村産業学園より分離
- 1976(昭和51)年 11月 ● 九州造形短期大学の設置者を学校法人九州中村高等学園から中村産業学園に変更
- 1981(昭和56)年 4月 ● 経営学部国際経営学科増設
- 1993(平成 5)年 4月 ● 経済学部経済学科〈昼間主コース・夜間主コース〉設置
- 1994(平成 6)年 4月 ● 国際文化学部(国際文化学科、地域文化学科)設置、大学院経営学研究科修士課程(経営専攻)〈昼夜開講制〉設置
- 1996(平成 8)年 4月 ● 大学院商学研究科修士課程(商学専攻)〈昼夜開講制〉発足
大学院工学研究科博士後期課程(生産システム工学専攻、社会開発・環境システム工学専攻)〈昼夜開講制〉増設
- 1997(平成 9)年 4月 ● 大学院経営学研究科博士後期課程(経営専攻)〈昼夜開講制〉増設
- 1998(平成10)年 4月 ● 大学院国際文化研究科博士課程(国際文化専攻)〈昼夜開講制〉設置
大学院商学研究科博士後期課程(商学専攻)〈昼夜開講制〉増設
- 1999(平成11)年 4月 ● 商学部第一部観光産業学科、商学部第二部観光産業学科増設
大学院経済学研究科博士後期課程(経済学専攻)〈昼夜開講制〉増設
大学院芸術研究科博士後期課程(造形表現専攻)〈昼夜開講制〉増設
- 2000(平成12)年 7月 ● 商学部第一部経済学科、商学部第二部経済学科廃止
- 2002(平成14)年 4月 ● 情報科学部〈社会情報システム学科、知能情報学科〉設置、芸術学部芸術工芸学科増設
- 2004(平成16)年 4月 ● 工学部バイオロボティクス学科発足、工学部工業化学科を物質生命化学科へ、土木工学科を都市基盤デザイン工学科へ名称変更
国際文化学部臨床心理学科増設
大学院情報科学研究科博士前期課程・博士後期課程(情報科学専攻)〈昼夜開講制〉設置
大学院国際文化研究科博士課程[5年一貫制](国際文化専攻)〈昼夜開講制〉を大学院国際文化研究科博士前期課程・博士後期課程(国際文化専攻)〈昼夜開講制〉に改組
大学院経済学研究科、商学研究科、経営学研究科、工学研究科、芸術研究科の修士課程を博士前期課程へ課程名称変更
- 2007(平成19)年 4月 ● 工学部電気工学科を電気情報工学科へ名称変更、九州造形短期大学造形芸術学科設置
- 2008(平成20)年 4月 ● 芸術学部写真学科を写真映像学科へ名称変更、国際文化学部地域文化学科を日本文化学科へ名称変更
- 5月 九州造形短期大学美術科廃止
- 2009(平成21)年 4月 ● 情報科学部情報科学科設置
大学院経済・ビジネス研究科博士前期課程(経済学専攻、現代ビジネス専攻)〈昼夜開講制〉・博士後期課程(経済・ビジネス専攻)〈昼夜開講制〉設置
- 5月 九州造形短期大学デザイン科・写真科廃止
- 2010(平成22)年 4月 ● 工学部住居・インテリア設計学科増設
- 2011(平成23)年 4月 ● 大学院工学研究科博士前期課程・博士後期課程(産業技術デザイン専攻)〈昼夜開講制〉設置
- 2012(平成24)年 4月 ● 大学院芸術研究科博士前期課程(造形表現専攻)〈昼夜開講制〉設置

法人の概要

2013(平成25)年	3月	● 大学院芸術研究科博士前期課程(美術専攻、デザイン専攻、写真専攻<昼夜開講制>)廃止
2014(平成26)年	3月	● 芸術学部芸術工芸学科廃止 ● 大学院商学研究科博士後期課程(商学専攻<昼夜開講制>)廃止 ● 大学院経営学研究科博士後期課程(経営専攻<昼夜開講制>)廃止 ● 大学院工学研究科博士後期課程(生産システム工学専攻<昼夜開講制>)廃止
2015(平成27)年	3月	● 情報科学部知能情報学科廃止
	5月	● 情報科学部社会情報システム学科廃止
2016(平成28)年	4月	● 芸術学部(芸術表現学科、写真・映像メディア学科、ビジュアルデザイン学科、生活環境デザイン学科、ソーシャルデザイン学科)発足 ● 九州造形短期大学の校舎を九州産業大学キャンパス内に移転
2017(平成29)年	4月	● 理工学部(情報科学科、機械工学科、電気工学科)、生命科学部(生命科学科)、建築都市工学部(建築学科、住居・インテリア学科、都市デザイン工学科)発足 ● 短期大学名を九州造形短期大学より九州産業大学造形短期大学部へ名称変更
2018(平成30)年	3月	● 大学院工学研究科博士後期課程(社会開発・環境システム工学専攻<昼夜開講制>)廃止
	4月	● 商学部(経営・流通学科)、地域共創学部(観光学科、地域づくり学科)、人間科学部(臨床心理学科、子ども教育学科、スポーツ健康科学科)発足
2020(令和 2年)	3月	● 芸術学部美術学科廃止
2021(令和 3年)	3月	● 工学部(物質生命化学科、建築学科)廃止
2022(令和 4年)	3月	● 工学部(都市基盤デザイン工学科・住居・インテリア設計学科)、芸術学部(デザイン学科)廃止

3. 設置する学校・学部・学科等

(1) 学部・学科、研究科・専攻

学部	
学部	学科
経済学部	経済学科
商学部	経営・流通学科
地域共創学部	観光学科
	地域づくり学科
商学部第一部	商学科
	観光産業学科
商学部第二部	商学科
経営学部	国際経営学科
	産業経営学科
理工学部	情報科学科
	機械工学科
	電気工学科
生命科学部	生命科学科
建築都市工学部	建築学科
	住居・インテリア学科
	都市デザイン工学科
工学部	機械工学科
	電気情報工学科
	都市基盤デザイン工学科
	住居・インテリア設計学科
情報科学部	バイオロボティクス学科
	情報科学科
芸術学部	芸術表現学科
	写真・映像メディア学科
	ビジュアルデザイン学科
	生活環境デザイン学科
	ソーシャルデザイン学科
	デザイン学科
写真映像学科	

学部	
学部	学科
国際文化学部	国際文化学科
	日本文化学科
人間科学部	臨床心理学科
	子ども教育学科
	スポーツ健康科学科

大学院	
研究科	専攻・課程
経済・ビジネス研究科	経済学専攻博士前期課程
	現代ビジネス専攻博士前期課程
	経済・ビジネス専攻博士後期課程
工学研究科	産業技術デザイン専攻博士前期課程
	産業技術デザイン専攻博士後期課程
芸術研究科	造形表現専攻博士前期課程
	造形表現専攻博士後期課程
国際文化研究科	国際文化専攻博士前期課程
	国際文化専攻博士後期課程
情報科学研究科	情報科学専攻博士前期課程
	情報科学専攻博士後期課程

造形短期大学部	
学科	
造形芸術学科	

(2) 学生数の状況

①学部

令和3年5月1日現在

学部	学科	開設年度	入学定員	収容定員	現員数
経済学部	経済学科	1993(平成 5)	400	1,600	1,501
	経済学科(昼間主コース)	1993(平成 5)	—	—	59
	経済学科(夜間主コース)	1993(平成 5)	—	—	10
商学部	経営・流通学科	2018(平成30)	500	2,000	1,988
地域共創学部	観光学科	2018(平成30)	150	600	551
	地域づくり学科	2018(平成30)	130	520	456
	地域づくり学科(夜間特別枠)	2018(平成30)			42
商学部第一部	商学科	1960(昭和35)	—	—	64
	観光産業学科	1999(平成11)	—	—	17
商学部第二部	商学科	1964(昭和39)	—	—	5
経営学部	国際経営学科	1981(昭和56)	—	—	37
	産業経営学科	1968(昭和43)	—	—	38
理工学部	情報科学科	2017(平成29)	140	560	593
	機械工学科	2017(平成29)	130	520	460
	電気工学科	2017(平成29)	100	400	368
生命科学部	生命科学科	2017(平成29)	110	440	372
建築都市工学部	建築学科	2017(平成29)	75	300	266
	住居・インテリア学科	2017(平成29)	65	260	268
	都市デザイン工学科	2017(平成29)	60	240	237
工学部	機械工学科	1963(昭和38)	—	—	9
	電気情報工学科	1963(昭和38)	—	—	3
	都市基盤デザイン工学科	1964(昭和39)	—	—	2
	住居・インテリア設計学科	2010(平成22)	—	—	1
	パイオロボティクス学科	2004(平成16)	—	—	1
情報科学部	情報科学科	2009(平成21)	—	—	9
芸術学部	芸術表現学科	2016(平成28)	65	260	292
	写真・映像メディア学科	2016(平成28)	50	200	218
	ビジュアルデザイン学科	2016(平成28)	75	300	319
	生活環境デザイン学科	2016(平成28)	70	280	249
	ソーシャルデザイン学科	2016(平成28)	40	160	156
	デザイン学科	1966(昭和41)	—	—	1
	写真映像学科	1966(昭和41)	—	—	1
国際文化学部	国際文化学科	1994(平成 6)	80	320	318
	日本文化学科	1994(平成 6)	60	240	249
	臨床心理学科	2004(平成16)	—	—	6
人間科学部	臨床心理学科	2018(平成30)	70	280	286
	子ども教育学科	2018(平成30)	80	320	267
	スポーツ健康科学科	2018(平成30)	80	320	319
合 計			2,530	10,120	10,038

法人の概要

②大学院

研究科	専攻（課程）	開設年度	入学定員	収容定員	現員数
経済・ビジネス研究科	経済学専攻(博士前期)	2009(平成21)	7	14	5
	現代ビジネス専攻(博士前期)	2009(平成21)	20	40	7
	経済・ビジネス専攻(博士後期)	2009(平成21)	5	15	2
工学研究科	産業技術デザイン専攻(博士前期)	2011(平成23)	35	70	23
	産業技術デザイン専攻(博士後期)	2011(平成23)	4	12	2
芸術研究科	造形表現専攻(博士前期)	2012(平成24)	14	28	40
	造形表現専攻(博士後期)	1999(平成11)	6	18	6
国際文化研究科	国際文化専攻(博士前期)	1998(平成10)	15	30	25
	国際文化専攻(博士後期)	1998(平成10)	5	15	7
情報科学研究科	情報科学専攻(博士前期)	2004(平成16)	20	40	9
	情報科学専攻(博士後期)	2004(平成16)	4	12	0
合 計			135	294	126

③造形短期大学部

学科	開設年度	入学定員	収容定員	現員数
造形芸術学科	2007(平成19)	150	300	297

4. 収容定員充足率

毎年度5月1日現在
(単位：倍)

区分	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度
学部	0.99	1.01	1.01	0.99	0.99
大学院	0.43	0.41	0.43	0.45	0.48
短期大学部	0.99	0.97	0.96	0.95	0.94

5. 役員概要

(1) 理事・監事の定員数、氏名等

<定員数> 理事：13名～17名 監事3名

<現員数> 理事：14名 監事3名

令和3年6月16日現在

役職名	氏名	常勤・非常勤	就任年月日	担当職務及び現職
理事長	津上 賢治	常勤	令和元年6月16日	
理事	北島 己佐吉	常勤	令和3年4月1日	九州産業大学長
理事	小田部 黄太	常勤	平成31年4月1日	九州産業大学造形短期大学部学長
理事	磯村 昌輝	常勤	平成29年6月16日	学校法人中村産業学園常務理事
理事	加藤 康雄	常勤	令和元年6月16日	学校法人中村産業学園常務理事(兼)人事部長
理事	藤原 敦	常勤	令和元年6月16日	学校法人中村産業学園常務理事(兼)事務局長(兼)九州産業大学教務部事務部長
理事	吉田 泰彦	非常勤	令和3年6月16日	株式会社福岡銀行代表取締役副頭取、株式会社ふくおかフィナンシャルグループ 代表取締役副社長
理事	道永 幸典	非常勤	令和3年6月16日	西部ガスホールディングス株式会社 代表取締役社長
理事	久我 英一	非常勤	令和元年6月16日	九州旅客鉄道株式会社 取締役監査等委員
理事	堀江 広重	非常勤	令和元年6月16日	西鉄エム・テック株式会社 代表取締役社長 西日本鉄道株式会社顧問
理事	千 相哲	常勤	平成29年6月16日	九州産業大学副学長
理事	磯部 信一郎	常勤	平成29年6月16日	九州産業大学生命科学部長
理事	辛島 美絵	常勤	令和3年4月1日	九州産業大学国際文化学部長
理事	青木 幹太	常勤	令和2年4月1日	九州産業大学芸術研究科長
理事	杉万 俊夫	常勤	平成29年6月16日	九州産業大学人間科学部長
監事	岩田 英治	常勤	平成25年6月16日	
監事	田邊 達也	常勤	令和3年6月16日	
監事	相場 公博	非常勤	令和3年6月16日	

(2) 責任免除・責任限定契約、補償契約・役員賠償責任保険契約の状況

①責任限定契約

私立学校法に従い、令和2年4月1日より責任限定契約を締結した。

I. 対象役員の氏名

- ・非業務執行理事 吉田泰彦、道永幸典、久我英一、堀江広重
- ・監事 岩田英治、田邊達也、相場公博

II. 契約内容の概要

非業務執行理事及び監事が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対し賠償する責任は、金10万円以上であらかじめ定めた額と私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額とのいずれか高い額を限度とする。

III. 契約によって職務執行の適正性が損なわれないようにするための措置

契約の内容に、役員がその職務を行うに当たり善意でかつ重大な過失がないときに限る旨の定めがある。

②役員賠償責任保険制度への加入

私立学校法に従い、理事会決議により令和2年4月1日から東京海上日動火災保険株式会社の学校法人向け役員賠償責任保険に加入した。

I. 団体契約者 学校法人中村産業学園

II. 保険期間中総支払限度額 10億円

III. 補償内容

- i. 役員に関する補償（法律上の損害賠償金、争訟費用）
- ii. 記名法人に関する補償（法人内調査費用、第三者委員会設置・活動費用）

IV. 支払い対象とならない主な場合

- i. 役員が私的な利益又は便宜の供与を違法に得たもの
- ii. 役員の犯罪行為・ハラスメント行為
- iii. 法令に違反することを認識しながら行った行為
- iv. 保険期間の初日において、役員が対象事由が発生するおそれのある状況を知っていたもの

法人の概要

6. 評議員の概要

(1)定員数、氏名等 <定員数>29名~37名 <現員数>31名

令和3年6月16日現在

氏名	就任年月日	担当職務及び現職
北島 己佐吉	令和3年4月1日	九州産業大学長
小田部 黄太	平成31年4月1日	学校法人中村産業学園理事、九州産業大学造形短期大学部学長
千 相哲	平成22年4月1日	学校法人中村産業学園理事、九州産業大学 地域共創学部長
磯部 信一郎	平成29年6月16日	学校法人中村産業学園理事、九州産業大学 生命科学部長
青木 幹太	令和2年4月1日	学校法人中村産業学園理事、九州産業大学 芸術研究科長
杉万 俊夫	平成29年6月16日	学校法人中村産業学園理事、九州産業大学 人間科学部長
辛島 美絵	平成30年4月1日	学校法人中村産業学園理事、九州産業大学 国際文化学部長
加藤 要一	令和3年4月1日	九州産業大学 経済学部長
終田 勝司	令和3年6月16日	学校法人中村産業学園 総務部長
峠畑 賢二	令和元年6月16日	学校法人中村産業学園 財務部長
横田 治	令和元年6月16日	九州産業大学 入試部事務部長
宮丸 由美子	令和元年6月16日	九州産業大学 図書館事務部長
入江 崇彦	平成25年6月16日	九州産業大学 同窓会楠風会副会長
坂本 二美	平成29年6月16日	九州産業大学 同窓会楠風会常務理事
林 善照	平成27年6月16日	九州産業大学 同窓会楠風会福岡県地方本部最高顧問
松岡 順子	令和3年6月16日	九州産業大学造形短期大学部 同窓会薫風会会長
本土 浩	平成31年3月19日	九州産業大学 後援会会長
古田 健穂	令和3年4月1日	九州産業大学 後援会副会長
山中 雅子	令和2年3月19日	九州産業大学造形短期大学部 後援会会長
津上 賢治	令和元年6月16日	学校法人中村産業学園 理事長
吉田 泰彦	令和3年6月16日	学校法人中村産業学園理事 株式会社福岡銀行代表取締役副頭取 株式会社ふくおかフィナンシャルグループ 代表取締役副社長
道永 幸典	令和3年6月16日	学校法人中村産業学園理事、西部ガスホールディングス株式会社 代表取締役社長
久我 英一	令和元年6月16日	学校法人中村産業学園理事、九州旅客鉄道株式会社 取締役監査等委員
堀江 広重	令和元年6月16日	学校法人中村産業学園理事、西日本鉄道株式会社 専務執行役員
磯村 昌輝	平成25年4月19日	学校法人中村産業学園 常務理事
加藤 康雄	令和元年6月16日	学校法人中村産業学園 常務理事（兼）人事部長
藤原 敦	平成29年6月16日	学校法人中村産業学園 常務理事（兼）事務局長（兼）教務部事務部長
大島 英彦	平成30年4月1日	学校法人中村産業学園 総務部参与
中村 治	平成21年6月16日	学校法人九州中村高等学園 理事長
組坂 法人	平成24年4月1日	九州産業大学附属九州産業高等学校長
谷崎 金光	平成26年4月1日	株式会社サンユー・フーズ 代表取締役社長
久保 裕道	平成23年6月16日	株式会社九産大サービスセンター 代表取締役社長

7. 教職員の概要

令和3年5月1日現在

(1)教育職員数

(名)

所属	職位	専任				計	助手
		教授	准教授	講師	助教		
九州産業大学		1	0	0	0	1	0
経済学部		14	8	7	0	29	0
商学部		22	14	3	0	39	0
地域共創学部		16	8	5	1	30	0
理工学部		28	11	6	4	49	4
生命科学部		13	4	1	0	18	3
建築都市工学部		12	13	1	0	26	7
芸術学部		23	10	3	1	37	9
国際文化学部		14	4	0	0	18	0
人間科学部		23	9	7	0	39	6
健康・スポーツ科学センター		2	1	1	3	7	0
国際交流センター		1	0	0	0	1	0
語学教育研究センター		2	3	21	0	26	0
基礎教育センター		3	3	6	1	13	0
総合機器センター		0	0	0	2	2	0
臨床心理センター		0	0	0	0	0	1
美術館		0	1	0	0	1	0
伝統みらい研究センター		0	0	0	1	1	0
合計		174	89	61	13	337	30

* 客員教授を除く。

- ・兼務者数 624 名
- ・平均年齢 49.6 歳

(名)

所属	職位	専任				計	助手
		教授	准教授	講師	助教		
造形芸術学科		4	6	2	0	12	0
合計		4	6	2	0	12	0

* 客員教授を除く。

- ・兼務者数 77 名
- ・平均年齢 51.9 歳

(2)事務職員数

九州産業大学 (名)

区分	人数
職員	231

造形短期大学部 (名)

区分	人数
職員	1

* 事務職員等には他企業からの出向者を含む。



多様な資質を
有する学生の
獲得および
文理芸が融合した
実践力をみがく
教育を実施する。



2025年度までの目標

- ▶ アドミッション・ポリシーに沿った優秀な学生の獲得
- ▶ 実践力を育成する教育プログラムの推進
- ▶ 新時代に対応した教育プログラムの開発
- ▶ 学年暦の柔軟化
- ▶ 教学マネジメントの確立
- ▶ 学生の満足度を向上させる支援の実施
- ▶ ポストコロナ時代へ対応した支援の実施
- ▶ 高等教育機関としての学び直しの推進

1. 文理芸が融合した学部横断型教育プログラム 「KSUプロジェクト型教育」

学生が地元企業や自治体と連携して取り組む地域産業振興プロジェクトなど106にも及ぶプロジェクトを実施。そのうち、若者視点でデザインした博多曲物のお弁当箱や博多人形のほか、産学連携で開発した機能性表示食品のジンジャーシロップなど、19のプロジェクトの成果を「九産大プロデュース展」で展示しました。



機能性表示食品ジンジャーシロップ「金姜柑」



ねこわっぱ弁当箱

2. 学生同士で悩みや不安を話し支え合う「ピアサポート」

悩みや不安を学生同士で話すことで支え合い、コロナ禍における学生のメンタルケアとしても効果が期待される「ピアサポート」。芸術学部と人間科学部の学生たちが協働で企画し、学部の専門性を生かしながら、ワークシートのデザインや質問内容などを考案しました。



3. 課外活動のさらなる活性化「国際大会出場」

2019年度に創設した「水泳部(フィンスイミング)」の選手2名が、日本選手権において、日本水中スポーツ連盟が定める学生日本代表派遣標準記録を突破し、大学ワールドカップ・フィンスイミング日本代表に選出されました。

また、「山岳部(スポーツクライミング)」の選手1名が、スピードジャパンカップにおいて、全日本大学スポーツクライミング協会が定める選考基準を満たし、2022 FISU世界大学スポーツクライミング選手権大会派遣選手に選出されました。



4. KSU 基盤教育の再構築

全学共通の「KSU 基盤教育」を見直し、時代に即した内容を盛り込むとともに、文理芸融合科目群を新たに設け、文系・理工系・芸術系が融合した横断型教育を推進するために、「クロス科目(学部横断型授業)」と「コラボ科目(学部協力型授業)」を設置しました。

クロス科目 : 学部の垣根を越えて集まった学生が交差(クロス)して課題に取り組む演習科目を中心に展開し、実践力を養います。

コラボ科目 : 1つのテーマについて様々な学部の教員が協働(コラボ)してオムニバス形式で授業を展開し、様々な視点からの「気づき」を与えます。



5. 副専攻プログラムの構築

学部の専攻分野を問わず、これからの社会で必須と言われる AI・データサイエンスの基礎的な教養を身につけることができる「副専攻」プログラムを構築しました。

学部を超えて、AI・データサイエンス分野を導入から応用レベルまで、体系的に学べるプログラムとなっており、規定の20単位以上を修得すると副専攻の修了証が与えられます。

- <対象科目>
- 「情報テクノロジー」 プログラミング導入、eコマース論 など
 - 「データサイエンス」 データリテラシー、統計学、データ分析 など
 - 「AI」 AIリテラシー、パターン認識と機械学習 など

6. リカレント教育(免許法認定講習)

社会人の学びを支援するリカレント教育の一環として「地域の子育てに貢献」することを目的に、「幼稚園教諭」と「特別支援学校教諭」の2つの免許法認定講習を開設しました。現職の教員等が一定の定職年数と単位取得によって上位の免許状などを取得するための制度で、教員の資質の保持・向上を目的としており、幼稚園教諭一種免許状や特別支援学校教諭一種・二種免許状取得を希望する55名の方が受講しました。

※「免許法認定講習」: 一定の教員免許状を有する現職教員が、上位の免許状等を取得しようとする場合に必要単位を修得するために開設する講習・講座。





研究力の向上を
目指すとともに、
大学院の
改革を行い
教育研究体制の
充実を図る。



2025年度までの目標

- ▶ 文理芸を融合した学際的研究の推進
- ▶ 研究実績の拡大
- ▶ 産業界と連携した研究の推進
- ▶ 優秀な大学院生の獲得
- ▶ 大学院の改革

1. 柿右衛門研究の成果発表

特別展「酒井田柿右衛門 × 九州産業大学 = MIRAI」開催

伝統みらい研究センターの柿右衛門様式研究の成果発表として、特別展「酒井田柿右衛門 × 九州産業大学 = MIRAI」を開催し、1,000名を超える方が来場しました。

江戸初期から現代に至る柿右衛門様式等の陶磁器約60点の展示や、過去の名品の再現など20年にわたる本学の柿右衛門様式研究成果の紹介を行いました。また本学では2017年に「伝統みらい研究センター」を新設し、九州各地の伝統工芸の再興に取り組んでいます。



2. 地域のプロスポーツチームとの共同研究

プロバスケットボールチーム「ライジングゼファークオカ」と共同研究契約(アドバイザリー契約)を締結しました。人間科学部の「トップアスリートスポーツ科学支援チーム」が、選手の生理学的測定やバイオメカニクス測定などを実施し、得られたデータを研究に活用するとともに、スポーツ科学の視点から、チーム強化やチーム運営に有益と思われるアドバイスや情報の提供を行っています。



3. 美術館国際シンポジウム

「博物館浴と高齢者の健康、幸福感」開催

九州産業大学国際シンポジウム「博物館と医療・福祉のよりよい関係」(2021年度文化庁事業)を「博物館浴と高齢者の健康、幸福感」をテーマに米国と英国をつないだオンライン上で開催し、日本全国の博物館や医療福祉の関係者およそ120人が参加しました。

本学は、健康増進や疾病予防を目的とする「博物館浴」について研究を進めています。今後も海外における研究を日本国内で共有しながら、地域住民の「健康(Health)と幸福感(Well-being)」の向上に向けた美術館の新たな価値創造を目指します。



4. 文部科学省「職業実践力育成プログラム」に認定

文部科学省「職業実践力育成プログラム」認定制度に、「芸術研究科」の3領域と「国際文化研究科」1分野が認定されました。

職業実践力育成プログラムとは、プログラムの受講を通じた社会人の職業に必要な能力の向上を図る機会の拡大を目的として、大学等における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムを「職業実践力育成プログラム」(BP)として文部科学大臣が認定するものです。



<2021年度に認定された研究科・専攻>

- 芸術研究科 造形表現専攻 3領域(芸術表現領域、デザイン領域、写真・映像領域)
- 国際文化研究科 国際文化専攻 1分野(臨床心理学研究分野)



留学プログラムの
充実を図り、
様々な海外経験を
通じて、
グローバル人材の
育成を目指す。



2025年度までの目標

- ▶ 国際感覚を養うプログラムの展開
- ▶ 学生の海外経験の増加及び留学支援体制の強化
- ▶ 優秀な留学生の獲得及び支援の強化
- ▶ 海外大学・組織等との連携の強化
- ▶ 国際化を推進する体制の整備

1. グローバル人材育成特別教育プログラム「Global Leadership Program (GLP)」

国際的教養と実践的な英語力を身につけるため、国連機関である国連ハビタット福岡本部の専門官や国際社会の第一線で活躍する実務家を講師に招き、授業を展開。世界で活躍するために必要な実践力やリーダーシップを学びます。

「GLPV(企業実習)」では、受講する学生3名が、映像やブランディングなどを手がける企業で約2カ月間インターンシップを行い、最先端技術を活用したアートイベント「アシタネプロジェクト」の企画や運営に参加し、インターンシップの成果発表を行いました。



2. KSU-COIL型教育プログラムの構築

本学では、以前から行っている海外の大学とのオンライン交流を文理芸の特性を生かした協働学習や意見交換などを行う本学独自の「KSU-COIL型教育」として策定しました。この教育手法は、2022年4月から、特色あるグローバル教育の一環として推進しており、学生に多様な学びの機会を提供しています。



<プログラム>

- 言語・異文化交流型 COIL** 海外の学生との交流を通して、言語能力や異文化理解の向上を目指す
- 専門重視型 COIL** 専門分野での交流を通して、問題発見力や課題解決力の向上を目指す
- 留学事前学習型 COIL** 事前に海外の学生と交流し、現地でのスムーズな活動を促進する

3. 事務職員の国際化に向けたグローバル研修

大学事務業務の多様化・国際化に向けた語学力の向上や、語学教育支援の充実を図ることを目的とした「令和3年度事務職員グローバル研修(国内短期語学研修)」に3名の事務職員が参加しました。英語だけの環境で1週間に渡り、スピーチやプレゼンテーションなど8つのプログラムに参加し、ビジネスシーンに適した表現やスキルを磨きました。





産学連携 分野

Industry-Academia Partnership

企業との共同研究や、
大学発ベンチャーの
設立など研究成果の
社会実装を目指し、
産学連携を強化する。



2025年度までの目標

- ▶ 社会性の高い研究の促進
- ▶ 産学官連携を強化するネットワークの構築
- ▶ 大学発ベンチャーの育成

1. 企業との連携強化

本学の教育・研究の成果と、「株式会社QTnet」のデジタル化や情報通信に関する技術・ノウハウを相互に活用して、新たなサービスの創出や地域社会を担う人材の育成を図ることを目的とした「包括連携協定」を締結。

5G(第5世代移動通信システム)の共同研究をはじめ、人工知能に関する共同講義の開講、リカレント教育、地域活性化イベントの共同開催など、広範な分野で連携し、地域創生に貢献していきます。



2. ベンチャービジネスの創出

本学卒業生と在学生在が障がい者就労支援事業を展開する企業の協力を得て、共同代表取締役としてベンチャービジネスを立ち上げ、本学北門の「オープンイノベーションセンター」にカフェ「in.out」(インドットアウト)をオープンしました。コーヒーと焼き立てのパンと共に、障がい者の就業支援と多様性社会の新たな可能性について考える機会を提供していきます。



3. 福岡市認定創業支援事業の事業者認定

2020年に開設した、在大学生や卒業生、地域の方々などの起業を支援するための組織「オープンイノベーションセンター・インスペース」が福岡市の「特定創業支援等事業」に学校法人として九州で初めて認定されました。

本事業は、福岡市や福岡市と提携する創業支援事業者が実施する、経営、財務、販路拡大、人材育成という経営に必要な全ての知識を身に付けることのできる支援制度です。これにより、会社設立時の登録免許税の軽減措置等様々な支援を受けることができ、起業をより後押しすることが可能となりました。

法人の概要

事業の概要

財務の概要



地域の課題解決に向けた取り組みや本学施設を利用した交流などを通じて、地域に貢献する大学を目指す。



2025年度までの目標

- ▶ 地域社会の課題解決へ向けた貢献活動の推進
- ▶ 本学の施設を活用した地域との交流
- ▶ 地域に向けた知の発信

1. SDGs 学長宣言

世界共通の国際目標である持続可能な開発目標「SDGs」の実現に向けた活動を、全学的な取組みとして位置づけ、さらに加速させるため、学長宣言を制定しました。



学長宣言

「九州産業大学は、SDGsを推進すると共にSDGsリーダーを育成することを宣言します。」

— KSU SDGs推進方針 —

1. 文理芸融合の研究を促進し、社会課題の解決に努める
2. 地域、産業界と連携して、地域社会の発展や課題解決に貢献する
3. SDGsの意識向上を図り、持続可能な社会の実現のために行動できる人材を育成する

本宣言に基づき、SDGs関連の取り組みを強化し、実現に向けて行動できる次世代リーダーの育成に努めます。

2. 博多祇園山笠(東流)飾り山笠の展示

学生と東流の方々との交流を縁に、創立60周年を記念して、2021年四番山笠 東流 標題「華満開泰平祈願」(人形師:白水英章)を「大楠アリーナ2020」に展示しました。展示期間中は、地域住民の方々や保育園児など、多くの方に来場いただきました。



3. 学生提案型地域貢献授業の開講

九州電力株式会社福岡支店と本学との間で締結した「地域連携に関する協定」(2020年度協定締結)の一環で開催した共同フィールドワークと課題解決型学習の報告会を行いました。





多様な人々が
集い学ぶ
インクルーシブな
大学運営を行う。



2025年度までの目標

- ▶ 男女共同参画社会を担う学生の育成
- ▶ 多様な学生への支援
- ▶ 多様な教職員の参画機会拡大

1. 障がいのある学生の支援

「障がいのある学生に関する支援」を本学ホームページで公開し、リーフレットを作成しました。

リーフレットには、「障がい学生の支援体制」、「障がいの内容と支援の主な例」や、「相談窓口」について掲載しています。

また、キャンパス内のバリアフリー化を推進し、「だれでもトイレ」や「車いす用空気入れ」の設置場所が分かる「九州産業大学バリアフリーマップ」を作成しました。

リーフレット ▶



バリアフリーマップ ▶



リーフレット
「障がいのある学生の支援体制について」

2. ダイバーシティ推進基本方針の制定

多様性を尊重する大学の実現に向けて、基本方針を定め、全学的にダイバーシティを推進します。

1. 男女共同参画社会を担う学生を育成します。

- (1) ダイバーシティに関する教育の拡充
- (2) 男女共同参画の視点に立ったキャリア教育の構築

2. 多様な学生を支援します。

- (1) 多様な学生に対応した施設の整備
- (2) 多様な学生に対応した相談・支援体制の構築
- (3) インクルーシブ教育の実現に向けた支援体制の構築
- (4) 女子学生の活動支援の充実

3. 多様な教職員の参画機会を拡大します。

- (1) ライフイベント（育児・介護等）に対応した支援の充実
- (2) 教職員のダイバーシティに関する意識の醸成
- (3) 多様な人材の採用・登用・育成



本学ならではの
ブランドイメージの
構築を図り、
産業界や地域への
広報・広聴活動を
拡充する。



2025年度までの目標

- ▶ 本学ならではのイメージ構築（「もっと意外に。もっと自由に。」）
- ▶ 産業界や地域への広報・広聴機能の拡充

1. 創立60周年記念式典・祝賀会の開催

2021年10月30日(土)「大楠アリーナ2020」において、地域の方々・自治体・企業のトップなど約280名をお招きし、「九州産業大学創立60周年記念式典・祝賀会」を開催しました。

地域社会や企業、同窓会、OBなどに、これまでのご支援に謝辞を述べ、2030年に「文理芸が融合したグローバル総合大学」を目指すことを宣言しました。



2. 博多駅ステーションジャックの実施

JR博多駅1階のコンコースを本学のビジュアル広告で埋め尽くしました。

「文理芸融合のグローバル総合大学へ」を目指す本学の学生プロジェクトを、コンコースの全ての柱のデジタルサイネージと大型ビジョンを使って紹介しました。



3. アドバイザリーボードの開催

全国の産業界や自治体、伝統工芸など幅広い分野の有識者から、長期的な大学運営のあり方や教育・研究・地域連携・国際化などについて、さまざまな視点から助言を得るために「九州産業大学アドバイザリーボード」を設置し、会合を開催しました。

「文理芸融合」、「グローバル化」など中期計画(2021-2030)に関連するテーマや、「DX」・「ポストコロナ」・「リカレント教育」など社会環境の変化を踏まえた本学のあり方について、意見交換を行いました。





財務体質や
大学運営の
基盤強化および
職員のさらなる
能力向上を目指す。



2025年度までの目標

- ▶ 継続的な組織改革
- ▶ IR 機能の強化
- ▶ ガバナンスの強化
- ▶ 教員組織の充実
- ▶ 同窓会・卒業生との関係強化
- ▶ 財政基盤の一層の強化
- ▶ 業務改革・効率化
- ▶ 事務職員の能力開発
- ▶ 将来を見据えたキャンパス整備

1. キャンパス整備の計画的実行

福岡市主催「第29回福岡市都市景観賞」建築部門賞に本学のスポーツ複合施設「大楠アリーナ2020」が選ばれました。

福岡市の東の玄関口としての象徴的な景観と、大学のキャンパスらしい学生のアクティビティが表出するヒューマンスケールな風景が共存する都市景観が高く評価されました。

※福岡市都市景観賞は、「ランドスケープ」・「建築」・「広告」・「活動」の4部門で福岡のまちの魅力を創り出している事例を表彰し、市民に景観に対する意識を高めてもらうことを目的とする賞です。



2. 業務効率化を加速させるデジタルトランスフォーメーション(DX)の推進

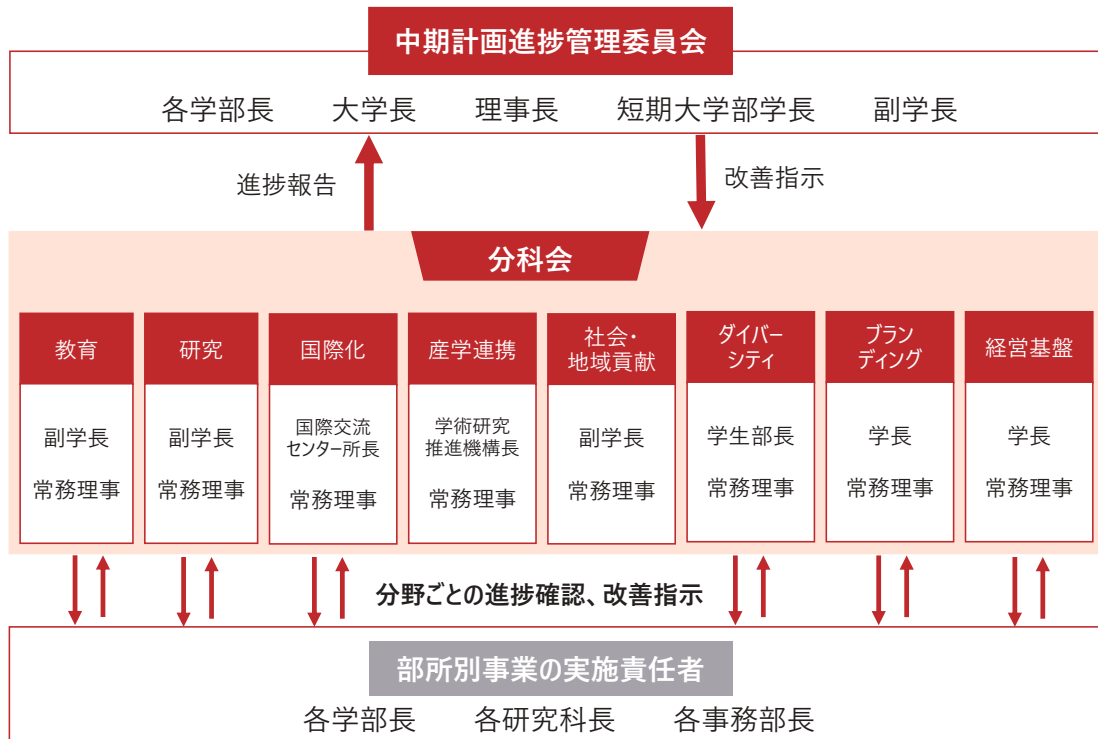
大学内の業務が多様化・高度化する中、ICTを活用して業務を効率化する取り組みを試行的に進めています。

RPA(人の代わりに業務をこなしてくれる自動化ツール)の導入や、ワークフローによる各種申請業務の電子化を一部開始しました。



3. 中期計画の進捗管理体制の見直し

中期計画(2021-2030)が始動したことに伴い、点検・評価サイクルの変更による効率的なPDCAサイクルの確立を目指し、管理体制を一新しました。8つの分野ごとに分科会を設置し、各分野の総括責任者の下、部所別事業の進捗管理を行いながら、着実な事業展開と組織的な検証評価を推進する体制を整えました。

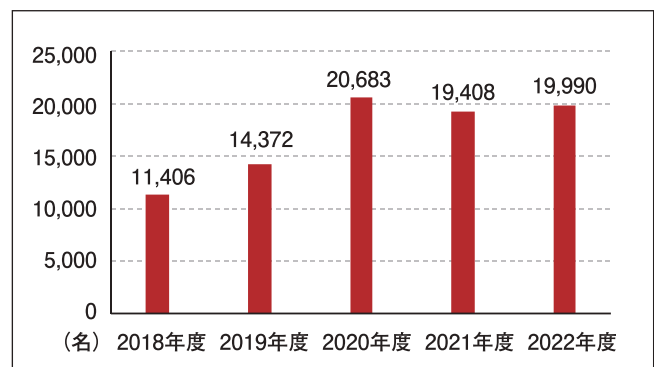


数字で見る実績

志願者数

延べ志願者数：19,990名(前年度差+582名)

今後も選ばれ続ける大学を目指し、本学の魅力を高めていきます。



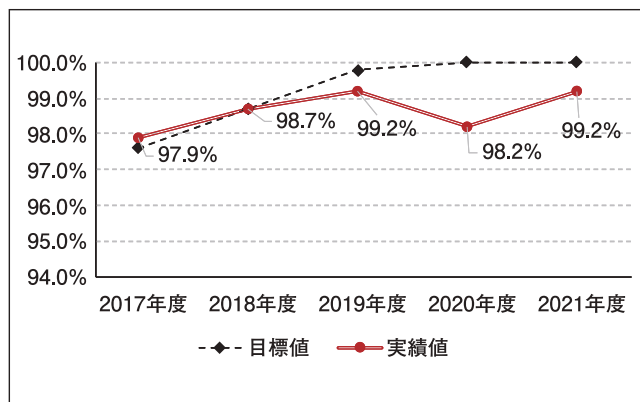
※年度数値は、4月1日現在
例)2022年度:2022年4月入学希望の志願者

就職決定率(対就職希望者)

就職決定率は、前年度差1.0ポイントアップの99.2%となり、過去最高の数値に並びました。

教職員一丸となって取り組んだ就職支援が実を結び、就職率向上に繋がりました。

※年度数値は、5月1日現在
例)2021年度:2022年5月1日現在の就職決定率

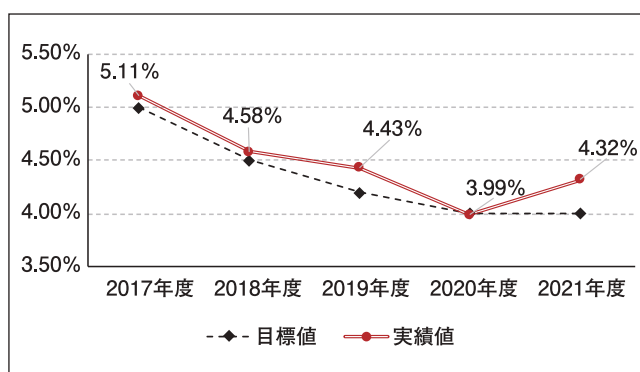


除籍・退学率

除籍・退学率4.32%(前年度差+0.33ポイント)

コロナ禍の長期化に伴い、除籍・退学率が増加に転じました。学生と教員、学生同士の交流の場作り等、支援体制の充実を図ってきます。

※年度数値は、3月31日現在
例)2021年度:2022年3月31日現在の除籍・退学率



女子学生比率

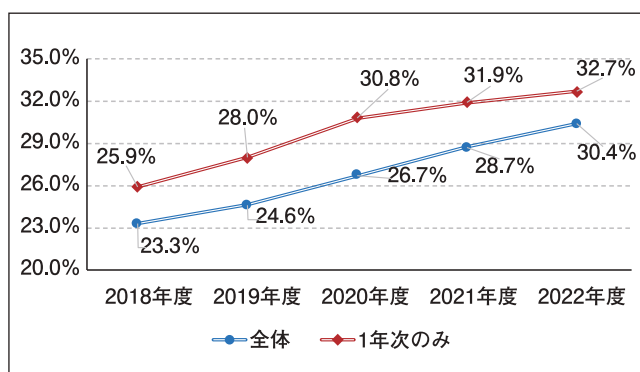
女子学生比率:

[全体] 30.4%(前年度差+1.7ポイント)

[1年次のみ] 32.7%(前年度差+0.8ポイント)

多様な学生が学び集う環境・制度づくりを継続して行い、ダイバーシティを推進していきます。

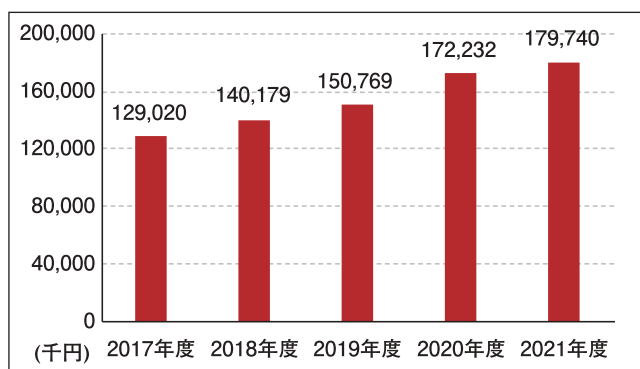
※年度数値は、4月1日現在
例)2022年度:2022年4月1日現在の女子学生比率



受託研究・共同研究等の増加(外部資金獲得)

受託研究・共同研究等の外部との研究件数が増加傾向にあり、外部から獲得する研究資金である外部資金の獲得総額(科学研究費補助金を含む)は約1億8,000万円となりました。

産業界等からキャッチしたニーズをテーマとした研究の推進やURA(University Research Administrator)を中心としたマッチングが奏功しました。



財務の概要

1. 貸借対照表関係

(1) 貸借対照表の状況と経年比較

(単位：円)

資 産 の 部					
科 目	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度
固 定 資 産	100,040,518,693	99,179,274,607	100,259,867,309	98,497,506,711	94,573,340,946
有 形 固 定 資 産	48,081,160,444	49,207,717,912	51,371,350,401	44,782,343,988	41,774,390,498
土 地	5,510,246,697	5,635,967,647	5,656,615,647	5,656,615,647	5,656,615,647
建 物	31,040,405,324	32,083,929,454	33,541,744,039	24,117,015,461	24,261,293,532
構 築 物	945,928,517	1,067,879,187	1,159,907,523	893,901,111	951,660,927
教育研究用機器備品	3,781,577,719	3,656,080,017	4,291,983,644	4,357,384,641	4,121,732,978
管理用機器備品	118,142,470	120,537,513	115,628,417	131,743,023	130,363,664
図 書	6,680,031,717	6,643,160,094	6,598,680,531	6,571,358,703	6,600,741,350
車 輜	164,000	164,000	164,000	164,000	164,000
建設仮勘定	4,664,000	0	6,626,600	3,054,161,402	51,818,400
特 定 資 産	49,900,133,000	48,206,455,723	47,044,146,723	52,308,478,723	51,339,757,843
第2号基本金引当特定資産	9,100,000,000	8,100,000,000	7,100,000,000	9,337,000,000	11,183,800,000
第3号基本金引当特定資産	16,550,000,000	16,550,000,000	16,550,000,000	16,550,000,000	16,550,000,000
退職給与引当特定資産	3,690,000,000	3,710,000,000	3,650,000,000	3,728,534,000	3,828,534,000
減価償却引当特定資産	20,060,133,000	19,846,455,723	19,744,146,723	22,692,944,723	19,777,423,843
危機管理対策準備資産	500,000,000	0	0	0	0
その他の固定資産	2,059,225,249	1,765,100,972	1,844,370,185	1,406,684,000	1,459,192,605
電 話 加 入 権	2,336,279	2,336,279	2,336,279	2,336,279	2,650,879
敷 金 保 証 金	30,479	30,479	530,479	530,479	530,479
教育研究用ソフトウェア	85,549,720	73,596,720	55,795,800	48,848,520	79,241,020
管理用ソフトウェア	9,530,914	2,616,883	3,854,576	5,839,543	9,669,009
有 価 証 券	1,952,931,857	1,671,110,611	1,754,589,051	1,305,834,179	1,297,403,223
奨 学 貸 付 金	8,846,000	15,410,000	27,264,000	43,295,000	69,697,995
流 動 資 産	9,567,549,650	7,207,220,762	6,949,155,006	8,453,716,488	11,813,188,943
現 金 預 金	9,444,933,538	7,031,955,931	6,841,657,711	8,312,133,144	11,743,277,307
未 収 入 金	30,501,639	93,025,987	24,141,110	64,649,098	25,880,744
貯 蔵 品	35,135,347	15,840,546	16,512,576	22,849,538	24,583,069
前 払 金	52,881,801	62,943,479	63,214,390	48,600,530	16,255,465
立 替 金	4,097,325	3,454,819	3,629,219	5,484,178	3,192,358
資 産 の 部 合 計	109,608,068,343	106,386,495,369	107,209,022,315	106,951,223,199	106,386,529,889

(単位：円)

負債の部					
科 目	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度
固 定 負 債	4,396,242,326	4,049,646,286	4,122,572,146	4,506,354,502	4,272,492,722
長期未払金	692,454,576	287,552,136	460,259,496	769,940,052	412,447,572
退職給与引当金	3,699,312,200	3,757,618,600	3,657,837,100	3,731,938,900	3,855,569,600
長期預り金	4,475,550	4,475,550	4,475,550	4,475,550	4,475,550
流 動 負 債	3,739,698,089	3,286,728,054	3,614,232,660	3,567,488,060	3,389,554,927
未 払 金	835,630,541	640,958,054	856,110,765	887,237,900	772,914,474
前 受 金	2,710,435,161	2,457,238,523	2,539,663,411	2,489,533,077	2,466,265,127
預 り 金	193,632,387	188,531,477	218,458,484	190,717,083	150,375,326
負債の部合計	8,135,940,415	7,336,374,340	7,736,804,806	8,073,842,562	7,662,047,649
純資産の部					
科 目	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度
基 本 金	112,512,875,019	110,967,630,870	111,046,722,533	104,453,132,435	102,227,400,481
第1号基本金	86,081,875,019	85,536,630,870	86,615,722,533	77,785,132,435	73,712,600,481
第2号基本金	9,100,000,000	8,100,000,000	7,100,000,000	9,337,000,000	11,183,800,000
第3号基本金	16,550,000,000	16,550,000,000	16,550,000,000	16,550,000,000	16,550,000,000
第4号基本金	781,000,000	781,000,000	781,000,000	781,000,000	781,000,000
繰越収支差額	11,040,747,091	11,917,509,841	11,574,505,024	5,575,751,798	3,502,918,241
翌年度繰越収支差額	11,040,747,091	11,917,509,841	11,574,505,024	5,575,751,798	3,502,918,241
純資産の部合計	101,472,127,928	99,050,121,029	99,472,217,509	98,877,380,637	98,724,482,240
負債及び純資産の部合計	109,608,068,343	106,386,495,369	107,209,022,315	106,951,223,199	106,386,529,889

財務の概要

(2) 財務比率の経年比較

(単位：%)

比率名	算式	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度
固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	91.3	93.2	93.5	92.1	88.9
有形固定資産構成比率	$\frac{\text{有形固定資産}}{\text{総資産}}$	43.9	46.3	47.9	41.9	39.3
特定資産構成比率	$\frac{\text{特定資産}}{\text{総資産}}$	45.5	45.3	43.9	48.9	48.3
流動資産構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	8.7	6.8	6.5	7.9	11.1
固定負債構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総負債+純資産}}$	4.0	3.8	3.8	4.2	4.0
流動負債構成比率	$\frac{\text{流動負債}}{\text{総負債+純資産}}$	3.4	3.1	3.4	3.3	3.2
内部留保資産比率	$\frac{\text{運用資産-総負債}}{\text{総資産}}$	48.5	46.6	44.7	50.4	53.3
運用資産余裕比率	$\frac{\text{運用資産-外部負債}}{\text{経常支出}}$	433.6	397.4	417.0	480.8	527.4
純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債+純資産}}$	92.6	93.1	92.8	92.5	92.8
繰越収支差額構成比率	$\frac{\text{繰越収支差額}}{\text{総負債+純資産}}$	▲ 10.1	▲ 11.2	▲ 10.8	▲ 5.2	▲ 3.3
固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$	98.6	100.1	100.8	99.6	95.8
固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産+固定負債}}$	94.5	96.2	96.8	95.3	91.8
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	255.8	219.3	192.3	237.0	348.5
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	7.4	6.9	7.2	7.5	7.2
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	8.0	7.4	7.8	8.2	7.8
前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	348.5	286.2	269.4	333.9	476.2
退職給与引当特定資産保有率	$\frac{\text{退職給与引当特定資産}}{\text{退職給与引当金}}$	99.7	98.7	99.8	99.9	99.3
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	99.2	99.9	99.4	99.0	99.3
減価償却比率（図書を除く）	$\frac{\text{減価償却累計額}}{\text{減価償却資産取得価額}}$	48.4	49.8	47.9	53.4	52.5
積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	89.8	87.4	87.9	97.7	100.2

2. 資金収支計算書関係

(1) 資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：円)

収 入 の 部					
科 目	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度
学生生徒等納付金収入	11,002,208,600	11,066,898,500	10,778,783,550	10,504,095,500	10,433,481,450
授 業 料 収 入	7,554,685,000	7,558,543,500	7,433,729,100	7,316,467,600	7,291,881,100
入 学 金 収 入	579,520,000	628,976,000	594,085,000	567,640,000	612,270,000
演 習 実 験 費 収 入	5,238,000	2,868,000	1,542,000	2,052,000	1,596,000
教 育 充 実 費 収 入	2,862,765,600	2,876,511,000	2,749,427,450	2,617,935,900	2,527,734,350
手 数 料 収 入	378,484,492	368,858,324	351,681,670	261,047,700	224,052,840
入 学 検 定 料 収 入	365,727,000	358,010,000	336,930,000	245,098,000	208,383,000
試 験 料 収 入	1,299,000	1,337,000	1,659,000	2,391,000	1,919,000
証 明 手 数 料 収 入	4,257,320	2,420,500	6,338,900	6,213,800	6,762,700
センター試験実施料収入	7,201,172	7,090,824	6,753,770	7,344,900	6,988,140
寄 付 金 収 入	113,603,982	117,837,452	257,577,644	88,417,454	38,965,373
特 別 寄 付 金 収 入	104,046,239	67,347,536	22,526,703	13,923,680	32,883,373
一 般 寄 付 金 収 入	9,557,743	47,121,916	4,097,986	2,507,973	6,082,000
施 設 設 備 寄 付 金 収 入	0	3,368,000	230,952,955	71,985,801	0
補 助 金 収 入	1,963,038,849	1,732,628,339	1,265,548,885	1,187,987,924	1,342,896,198
国 庫 補 助 金 収 入	1,962,005,319	1,731,465,673	1,264,455,069	1,187,018,804	1,341,835,638
地 方 公 共 団 体 補 助 金 収 入	1,033,530	1,162,666	1,093,816	969,120	1,060,560
資 産 売 却 収 入	2,431,645,200	96,296,322	0	100,000,000	600,000,000
施 設 売 却 収 入	2,133,300,971	6,500,000	0	0	0
有 価 証 券 売 却 収 入	295,044,426	81,081,620	0	100,000,000	600,000,000
投 資 信 託 特 別 分 配 金 収 入	3,299,803	8,714,702	0	0	0
付 随 事 業 ・ 収 益 事 業 収 入	195,720,875	161,003,856	199,546,745	178,890,559	190,576,805
補 助 活 動 収 入	128,608,080	122,967,800	141,980,200	134,679,500	143,411,300
受 託 事 業 収 入	60,669,683	30,700,244	38,102,292	25,229,400	28,982,900
公 開 講 座 収 入	146,000	2,288,000	12,505,200	13,413,300	14,155,743
講 習 会 収 入	6,297,112	5,047,812	6,959,053	5,568,359	4,026,862
受 取 利 息 ・ 配 当 金 収 入	315,973,390	394,300,410	453,669,532	450,551,846	477,418,662
第3号基本金引当特定資産運用収入	106,708,436	160,149,043	201,167,427	206,152,029	190,540,895
その他の受取利息・配当金収入	209,264,954	234,151,367	252,502,105	244,399,817	286,877,767
雑 収 入	161,526,646	120,008,462	122,069,929	132,230,868	113,851,062
施 設 設 備 利 用 料 収 入	114,407,286	86,653,247	86,023,423	95,561,115	81,840,300
入 学 要 項 頒 布 等 収 入	23,333,910	8,796,144	18,158,644	19,098,849	14,818,062
研 究 関 連 収 入	23,785,450	24,559,071	17,887,862	17,570,904	17,191,200
過 年 度 修 正 収 入	0	0	0	0	1,500
借 入 金 等 収 入	0	0	0	0	0

財務の概要

科 目	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度
前 受 金 収 入	2,710,435,161	2,457,238,523	2,539,663,411	2,489,533,077	2,466,257,627
授 業 料 前 受 金 収 入	1,460,369,000	1,313,882,000	1,320,661,000	1,312,533,000	1,330,908,000
入 学 金 前 受 金 収 入	634,940,000	575,975,000	625,926,000	591,200,000	565,100,000
施 設 費 前 受 金 収 入	0	0	32,800	0	0
教 育 充 実 費 前 受 金 収 入	527,345,000	490,170,000	532,050,000	523,580,000	524,181,250
補 助 活 動 前 受 金 収 入	37,762,320	38,716,100	38,679,500	38,882,800	36,273,000
そ の 他 教 育 活 動 前 受 金 収 入	50,018,841	38,495,423	22,314,111	23,337,277	9,795,377
そ の 他 の 収 入	21,297,400,383	12,672,451,448	13,772,768,516	18,055,550,821	17,877,856,219
第2号基本金引当特定資産取崩収入	2,500,000,000	1,700,000,000	3,637,000,000	8,583,800,000	8,710,800,000
第3号基本金引当特定資産取崩収入	8,619,360,245	6,051,315,938	2,541,354,058	937,934,520	3,607,355,000
退職給与引当特定資産取崩収入	311,466,000	251,466,000	330,000,000	860,000,000	450,000,000
減価償却引当特定資産取崩収入	3,286,322,723	2,498,165,000	5,748,798,000	6,700,000,000	4,241,505,553
有 価 証 券 取 崩 収 入	6,476,442,518	2,136,040,000	1,406,420,000	884,888,000	824,367,774
前 期 末 未 収 入 金 収 入	93,025,987	24,141,110	64,649,098	25,818,549	18,400,601
預 り 金 受 入 収 入	5,100,910	0	27,741,401	40,341,757	0
奨 学 貸 付 金 回 収 収 入	5,682,000	10,649,000	14,951,000	22,767,995	24,859,100
敷 金 保 証 金 回 収 収 入	0	500,000	0	0	0
立 替 金 回 収 収 入	0	174,400	1,854,959	0	568,191
資 金 収 入 調 整 勘 定	△ 2,487,740,162	△ 2,632,689,398	△ 2,513,674,187	△ 2,530,914,225	△ 2,685,694,267
期 末 未 収 入 金	△ 30,501,639	△ 93,025,987	△ 24,141,110	△ 64,649,098	△ 25,808,549
前 期 末 前 受 金	△ 2,457,238,523	△ 2,539,663,411	△ 2,489,533,077	△ 2,466,265,127	△ 2,659,885,718
前年度繰越支払資金	7,031,955,931	6,841,657,711	8,312,133,144	11,743,277,307	13,983,871,447
収 入 の 部 合 計	45,114,253,347	33,396,489,949	35,539,768,839	42,660,668,831	45,063,533,416

(単位：円)

支 出 の 部					
科 目	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度
人件費支出	6,715,104,478	6,389,241,017	6,711,423,149	6,616,413,920	6,322,538,270
教員人件費支出	4,338,907,396	4,272,863,414	4,318,184,295	4,299,782,752	4,112,094,405
職員人件費支出	1,822,976,086	1,778,879,807	1,791,392,240	1,747,374,338	1,728,568,866
役員報酬支出	133,654,196	138,703,496	126,917,514	105,321,730	104,563,699
退職金支出	419,566,800	198,794,300	474,929,100	463,935,100	377,311,300
教育研究経費支出	3,438,848,785	4,055,457,402	2,921,018,840	2,861,425,200	2,841,138,537
消耗品費支出	182,572,121	158,352,950	208,300,101	194,249,471	210,591,083
光熱水費支出	318,031,877	264,827,885	262,461,984	261,431,657	240,762,631
旅費交通費支出	47,374,615	35,216,925	169,180,632	169,959,597	177,051,027
通信費支出	26,167,498	25,162,309	23,889,052	24,735,733	25,723,986
資料費支出	156,139,349	157,816,369	145,592,570	99,604,009	102,148,403
諸会費支出	7,686,639	8,717,132	10,030,767	10,373,646	12,251,598
印刷製本費支出	76,634,656	65,771,263	97,094,512	96,692,341	92,418,043
購読費支出	91,677,625	91,599,027	92,423,072	96,346,205	94,805,757
調査費支出	0	0	0	5,436,458	6,192,961
支払修繕料支出	158,461,374	175,974,275	153,847,569	272,404,183	322,273,899
賃借料支出	19,740,479	16,479,160	23,673,119	20,893,014	22,370,224
実験実習諸費支出	78,932,185	74,740,352	80,185,522	75,072,508	78,027,391
会議懇談会費支出	501,593	556,762	3,412,746	4,225,671	5,046,954
委託管理費支出	3,353,000	1,687,480	1,072,000	899,200	754,000
奨学費支出	1,073,952,897	1,321,044,915	454,970,764	426,522,289	445,661,879
学生指導費支出	34,213,559	20,833,727	31,349,287	26,580,330	36,958,094
体育実習諸費支出	686,070	9,291,605	1,334,176	1,008,540	769,676
衛生費支出	244,029,330	229,326,794	219,165,733	215,516,599	193,137,357
教育費支出	5,166,657	6,608,443	13,975,250	4,324,969	3,869,204
損害保険料支出	9,665,449	9,285,743	9,103,963	9,258,871	8,978,995
支払報酬支出	47,508,545	42,899,610	43,686,369	35,854,771	29,194,071
行事費支出	36,041,444	84,800,298	30,416,797	37,367,145	38,200,925
諸手数料支出	331,123,689	234,012,368	262,400,349	243,976,138	244,176,857
保守料支出	363,981,081	358,070,006	334,474,026	323,223,375	304,131,649
広告費支出	0	99,220	255,770	222,480	1,095,444
警備費支出	87,351,161	80,060,734	82,053,561	81,314,898	79,905,150
移転費支出	1,898,650	5,928,500	25,694,913	13,469,760	14,913,000
取壊し費支出	20,427,000	562,899,600	126,462,200	97,229,000	37,832,400
雑費支出	15,530,242	13,393,950	14,512,036	13,232,342	11,895,879

財務の概要

(単位：円)

科 目	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度
管理経費支出	921,840,698	680,976,123	682,143,463	786,307,390	828,909,659
消耗品費支出	7,649,416	6,980,616	11,853,930	11,715,621	14,966,214
光熱水費支出	22,677,433	20,563,125	17,053,653	18,115,398	16,909,551
旅費交通費支出	19,651,334	17,358,972	41,411,638	41,260,098	49,671,887
通信費支出	24,036,922	26,990,527	26,172,190	23,970,117	19,295,261
諸会費支出	20,069,680	20,079,200	19,340,550	20,921,570	20,696,309
印刷製本費支出	82,003,782	80,853,906	65,681,144	86,710,707	94,873,686
購読費支出	5,149,332	5,669,058	7,907,347	7,434,628	8,290,661
支払修繕料支出	37,223,442	20,244,386	21,117,577	21,296,935	45,327,328
賃借料支出	10,998,621	9,445,933	14,710,132	10,985,694	13,997,513
会議懇談会費支出	1,993,646	1,349,225	8,926,919	7,527,100	10,064,458
衛生費支出	17,289,666	14,508,998	16,105,948	14,760,254	14,684,560
損害保険料支出	991,212	926,938	652,842	615,472	641,581
支払報酬支出	17,564,172	17,234,346	18,111,076	18,432,867	19,394,569
行事費支出	43,448,153	5,338,898	5,993,387	12,332,154	3,732,521
諸手数料支出	238,112,534	158,742,433	136,754,015	191,128,116	182,110,641
保守料支出	43,411,479	42,144,793	40,702,476	35,719,186	25,867,606
広告費支出	162,583,394	107,359,545	117,045,685	127,520,569	201,913,451
車輛費支出	1,178,970	1,318,728	2,063,357	1,909,658	1,564,286
福利費支出	8,409,017	6,350,010	6,362,305	6,967,134	6,996,398
租税公課支出	72,255,949	31,259,276	22,919,422	18,862,006	17,982,365
渉外費支出	3,292,575	4,353,845	14,525,683	11,311,291	14,098,671
寄付金支出	0	0	300,000	400,000	0
警備費支出	7,932,239	7,486,297	8,011,208	7,982,862	8,169,054
職員研修費支出	5,653,518	4,486,671	4,209,103	4,559,596	3,231,197
私立大学等経常費補助金返還金支出	2,985,000	1,880,000	897,000	1,155,000	2,883,000
移転費支出	814,000	1,854,000	2,238,100	2,762,640	1,617,800
取壊し費支出	12,200,000	7,850,000	26,555,340	56,162,200	5,734,400
雑費支出	52,265,212	34,961,457	21,019,757	23,788,517	23,113,094
過年度修正支出	0	23,384,940	3,501,679	0	1,081,597
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0
施設関係支出	409,661,900	290,035,700	7,886,449,140	4,049,461,817	3,926,496,356
土地支出	0	0	0	0	101,962,000
建物支出	392,882,400	205,933,700	7,484,503,900	970,020,680	3,636,601,796
構築物支出	12,115,500	84,102,000	395,318,640	77,098,135	153,577,760
建設仮勘定支出	4,664,000	0	6,626,600	3,002,343,002	34,354,800

科 目	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度
設備関係支出	1,381,652,404	659,924,791	1,181,135,132	1,416,037,619	1,569,062,851
教育研究用機器備品支出	1,261,400,635	528,639,388	1,083,371,795	1,321,182,438	1,467,015,160
管理用機器備品支出	19,328,165	39,126,300	16,717,700	35,070,020	10,508,880
図書支出	54,934,804	54,731,933	55,016,737	54,579,561	70,473,411
教育研究用ソフトウェア支出	35,794,000	37,191,000	24,556,000	5,205,600	19,553,400
管理用ソフトウェア支出	10,194,800	236,170	1,472,900	0	1,512,000
資産運用支出	23,411,205,593	13,871,382,818	8,960,519,853	19,056,068,762	17,819,141,423
有価証券購入支出	7,000,379,348	2,208,126,880	1,967,699,795	1,005,613,362	1,445,029,037
第2号基本金引当特定資産繰入支出	3,500,000,000	2,700,000,000	1,400,000,000	6,737,000,000	8,083,800,000
第3号基本金引当特定資産繰入支出	8,619,360,245	6,051,315,938	2,541,354,058	937,934,520	3,607,355,000
退職給与引当特定資産繰入支出	291,466,000	311,466,000	251,466,000	760,000,000	430,000,000
減価償却引当特定資産繰入支出	3,500,000,000	2,600,474,000	2,800,000,000	9,615,520,880	4,252,957,386
危機管理対策準備資産繰入支出	500,000,000	0	0	0	0
その他の支出	664,101,794	920,151,859	920,254,104	819,710,497	663,539,745
奨学貸付金支払支出	0	0	0	0	0
前期末未払金支払支出	640,958,104	856,110,815	887,237,950	772,914,474	645,086,504
預り金支払支出	0	29,927,007	0	0	9,729,930
前払金支払支出	22,501,184	34,114,037	33,016,154	44,504,203	8,723,311
立替金支払支出	642,506	0	0	2,291,820	0
資金支出調整勘定	△ 1,273,095,843	△ 502,635,692	△ 564,832,553	△ 1,256,889,518	△ 650,570,732
期末未払金	△ 1,240,532,981	△ 468,250,744	△ 546,430,259	△ 1,244,730,380	△ 635,099,799
前期末前払金	△ 32,562,862	△ 34,384,948	△ 18,402,294	△ 12,159,138	△ 15,470,933
翌年度繰越支払資金	9,444,933,538	7,031,955,931	6,841,657,711	8,312,133,144	11,743,277,307
支出の部合計	45,114,253,347	33,396,489,949	35,539,768,839	42,660,668,831	45,063,533,416

財務の概要

(2) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：円)

科 目		令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度
教育活動による資金収支	収入					
	学生生徒等納付金収入	11,002,208,600	11,066,898,500	10,778,783,550	10,504,095,500	10,433,481,450
	手数料収入	378,484,492	368,858,324	351,681,670	261,047,700	224,052,840
	特別寄付金収入	104,046,239	67,347,536	22,526,703	13,923,680	32,883,373
	一般寄付金収入	9,557,743	47,121,916	4,097,986	2,507,973	6,082,000
	経常費等補助金収入	1,957,263,849	1,661,043,339	1,265,548,885	1,150,035,924	1,342,896,198
	付随事業収入	195,720,875	161,003,856	199,546,745	178,890,559	190,576,805
	雑収入	161,526,646	120,008,462	122,069,929	132,230,868	113,849,562
	教育活動資金収入計	13,808,808,444	13,492,281,933	12,744,255,468	12,242,732,204	12,343,822,228
	支出					
人件費支出	6,715,104,478	6,389,241,017	6,711,423,149	6,616,413,920	6,322,538,270	
教育研究経費支出	3,438,848,785	4,055,457,402	2,921,018,840	2,861,425,200	2,841,138,537	
管理経費支出	921,840,698	657,591,183	678,641,784	786,307,390	827,828,062	
教育活動資金支出計	11,075,793,961	11,102,289,602	10,311,083,773	10,264,146,510	9,991,504,869	
差引	2,733,014,483	2,389,992,331	2,433,171,695	1,978,585,694	2,352,317,359	
調整勘定等	276,609,141	△ 111,929,246	△ 7,309,930	△ 54,045,911	△ 3,238,943	
教育活動資金収支差額	3,009,623,624	2,278,063,085	2,425,861,765	1,924,539,783	2,349,078,416	
施設整備等活動による資金収支	収入					
	施設設備寄付金収入	0	3,368,000	230,952,955	71,985,801	0
	施設設備補助金収入	5,775,000	71,585,000	0	37,952,000	0
	施設設備売却収入	2,133,300,971	6,500,000	0	0	0
	第2号基本金引当特定資産取崩収入	2,500,000,000	1,700,000,000	3,637,000,000	8,583,800,000	8,710,800,000
	減価償却引当特定資産取崩収入	3,286,322,723	2,498,165,000	5,748,798,000	6,700,000,000	4,241,505,553
	施設整備等活動資金収入計	7,925,398,694	4,279,618,000	9,616,750,955	15,393,737,801	12,952,305,553
	支出					
	施設関係支出	409,661,900	290,035,700	7,886,449,140	4,049,461,817	3,926,496,356
	設備関係支出	1,381,652,404	659,924,791	1,181,135,132	1,416,037,619	1,569,062,851
第2号基本金引当特定資産繰入支出	3,500,000,000	2,700,000,000	1,400,000,000	6,737,000,000	8,083,800,000	
減価償却引当特定資産繰入支出	3,500,000,000	2,600,474,000	2,800,000,000	9,615,520,880	4,252,957,386	
施設整備等活動資金支出計	8,791,314,304	6,250,434,491	13,267,584,272	21,818,020,316	17,832,316,593	
差引	△ 865,915,610	△ 1,970,816,491	△ 3,650,833,317	△ 6,424,282,515	△ 4,880,011,040	
調整勘定等	648,941,359	△ 426,897,022	△ 259,886,249	477,901,503	△ 200,245,645	
施設整備等活動資金収支差額	△ 216,974,251	△ 2,397,713,513	△ 3,910,719,566	△ 5,946,381,012	△ 5,080,256,685	
小計 (教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	2,792,649,373	△ 119,650,428	△ 1,484,857,801	△ 4,021,841,229	△ 2,731,178,269	

(単位：円)

法人の概要

事業の概要

財務の概要

科 目		令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度
収入	有価証券売却収入	295,044,426	81,081,620	0	100,000,000	600,000,000
	投資信託特別分配金収入	3,299,803	8,714,702	0	0	0
	第3号基本金引当特定資産取崩収入	8,619,360,245	6,051,315,938	2,541,354,058	937,934,520	3,607,355,000
	退職給与引当特定資産取崩収入	311,466,000	251,466,000	330,000,000	860,000,000	450,000,000
	有価証券取崩収入	6,476,442,518	2,136,040,000	1,406,420,000	884,888,000	824,367,774
	奨学貸付金回収収入	5,682,000	10,649,000	14,951,000	22,767,995	24,859,100
	預り金受入収入	5,100,910	0	27,741,401	40,341,757	0
	敷金保証金収入	0	500,000	0	0	0
	立替金回収収入	0	174,400	1,854,959	0	568,191
	小計	15,716,395,902	8,539,941,660	4,322,321,418	2,845,932,272	5,507,150,065
	受取利息・配当金収入	315,973,390	394,300,410	453,669,532	450,551,846	477,418,662
	過年度修正収入	0	0	0	0	1,500
	その他の活動資金収入計	16,032,369,292	8,934,242,070	4,775,990,950	3,296,484,118	5,984,570,227
支出	有価証券購入支出	7,000,379,348	2,208,126,880	1,967,699,795	1,005,613,362	1,445,029,037
	第3号基本金引当特定資産繰入支出	8,619,360,245	6,051,315,938	2,541,354,058	937,934,520	3,607,355,000
	退職給与引当特定資産繰入支出	291,466,000	311,466,000	251,466,000	760,000,000	430,000,000
	危機管理対策準備資産繰入支出	500,000,000	0	0	0	0
	奨学貸付金支払支出	0	0	0	0	0
	預り金支払支出	0	29,927,007	0	0	9,729,930
	立替金支払支出	642,506	0	0	2,291,820	0
	小計	16,411,848,099	8,600,835,825	4,760,519,853	2,705,839,702	5,492,113,967
	過年度修正支出	0	23,384,940	3,501,679	0	1,081,597
	その他の活動資金支出計	16,411,848,099	8,624,220,765	4,764,021,532	2,705,839,702	5,493,195,564
差引	△ 379,478,807	310,021,305	11,969,418	590,644,416	491,374,663	
調整勘定等	△ 192,959	△ 72,657	2,412,950	52,650	△ 790,534	
その他の活動資金収支差額	△ 379,671,766	309,948,648	14,382,368	590,697,066	490,584,129	
支払資金の増減額 (小計+その他の活動資金収支差額)	2,412,977,607	190,298,220	△ 1,470,475,433	△ 3,431,144,163	△ 2,240,594,140	
前年度繰越支払資金	7,031,955,931	6,841,657,711	8,312,133,144	11,743,277,307	13,983,871,447	
翌年度繰越支払資金	9,444,933,538	7,031,955,931	6,841,657,711	8,312,133,144	11,743,277,307	

(3) 財務比率の経年比較

比率名	算式	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度
教育活動資金収支差額比率	$\frac{\text{教育活動資金収支差額}}{\text{教育活動資金収入}}$	21.8%	16.9%	19.0%	15.7%	19.0%

財務の概要

3. 事業活動収支計算書関係

(1) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

(単位：円)

科 目	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度
学生生徒等納付金	11,002,208,600	11,066,898,500	10,778,783,550	10,504,095,500	10,433,481,450
授 業 料	7,554,685,000	7,558,543,500	7,433,729,100	7,316,467,600	7,291,881,100
入 学 金	579,520,000	628,976,000	594,085,000	567,640,000	612,270,000
演 習 実 験 費	5,238,000	2,868,000	1,542,000	2,052,000	1,596,000
教 育 充 実 費	2,862,765,600	2,876,511,000	2,749,427,450	2,617,935,900	2,527,734,350
手 数 料	378,484,492	368,858,324	351,681,670	261,047,700	224,052,840
入 学 検 定 料	365,727,000	358,010,000	336,930,000	245,098,000	208,383,000
試 験 料	1,299,000	1,337,000	1,659,000	2,391,000	1,919,000
証 明 手 数 料	4,257,320	2,420,500	6,338,900	6,213,800	6,762,700
セ ン タ ー 試 験 実 施 料	7,201,172	7,090,824	6,753,770	7,344,900	6,988,140
寄 付 金	123,893,982	114,469,452	26,624,689	16,431,653	38,965,373
特 別 寄 付 金	104,046,239	67,347,536	22,526,703	13,923,680	32,883,373
一 般 寄 付 金	9,557,743	47,121,916	4,097,986	2,507,973	6,082,000
現 物 寄 付	10,290,000	0	0	0	0
経 常 費 等 補 助 金	1,957,263,849	1,661,043,339	1,265,548,885	1,150,035,924	1,342,896,198
国 庫 補 助 金	1,956,230,319	1,659,880,673	1,264,455,069	1,149,066,804	1,341,835,638
地 方 公 共 団 体 補 助 金	1,033,530	1,162,666	1,093,816	969,120	1,060,560
付 随 事 業 収 入	195,720,875	161,003,856	199,546,745	178,890,559	190,576,805
補 助 活 動 収 入	128,608,080	122,967,800	141,980,200	134,679,500	143,411,300
受 託 事 業 収 入	60,669,683	30,700,244	38,102,292	25,229,400	28,982,900
公 開 講 座 収 入	146,000	2,288,000	12,505,200	13,413,300	14,155,743
講 習 会 収 入	6,297,112	5,047,812	6,959,053	5,568,359	4,026,862
雑 収 入	161,530,266	120,009,232	122,070,799	132,230,868	113,853,972
施 設 設 備 利 用 料	114,407,286	86,653,247	86,023,423	95,561,115	81,840,300
入 学 要 項 頒 布 等 収 入	23,337,530	8,796,914	18,159,514	19,098,849	14,822,472
研 究 関 連 収 入	23,785,450	24,559,071	17,887,862	17,570,904	17,191,200
教育活動収入計	13,819,102,064	13,492,282,703	12,744,256,338	12,242,732,204	12,343,826,638

(単位：円)

科 目	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度
人 件 費	6,656,798,078	6,489,022,517	6,637,321,349	6,492,783,220	6,320,950,670
教 員 人 件 費	4,338,907,396	4,272,863,414	4,318,184,295	4,299,782,752	4,112,094,405
職 員 人 件 費	1,822,976,086	1,778,879,807	1,791,392,240	1,747,374,338	1,728,568,866
役 員 報 酬	133,654,196	138,703,496	126,917,514	105,321,730	104,563,699
退 職 給 与 引 当 金 繰 入 額	334,031,900	297,600,800	328,480,500	307,304,400	311,874,100
退 職 金	27,228,500	975,000	72,346,800	33,000,000	63,849,600
教 育 研 究 経 費	6,052,431,633	6,731,514,182	5,229,577,855	5,072,367,669	4,620,413,030
消 耗 品 費	180,056,971	159,796,867	205,526,245	194,241,872	209,775,986
光 熱 水 費	318,031,877	264,827,885	262,461,984	261,431,657	240,762,631
旅 費 交 通 費	47,374,615	35,216,925	169,180,632	169,959,597	177,051,027
通 信 費	26,270,884	25,124,407	24,195,715	24,412,101	25,839,246
資 料 費	156,139,349	157,816,369	145,592,570	99,604,009	102,148,403
諸 会 費	7,686,639	8,717,132	10,030,767	10,373,646	12,251,598
印 刷 製 本 費	76,736,439	65,149,082	99,319,331	95,985,155	92,603,481
購 読 費	91,677,625	91,599,027	92,423,072	96,346,205	94,805,757
調 査 費	0	0	0	5,436,458	6,192,961
支 払 修 繕 費	158,461,374	175,974,275	153,847,569	272,404,183	322,273,899
賃 借 料	19,740,479	16,479,160	23,673,119	20,893,014	22,370,224
実 験 実 習 諸 費	78,932,185	74,740,352	80,185,522	75,072,508	78,027,391
会 議 懇 談 会 費	501,593	556,762	3,412,746	4,225,671	5,046,954
委 託 管 理 費	3,353,000	1,687,480	1,072,000	899,200	754,000
奨 学 費	1,073,952,897	1,321,044,915	454,970,764	426,522,289	445,661,879
学 生 指 導 費	34,213,559	20,833,727	31,349,287	26,580,330	36,958,094
体 育 実 習 諸 費	686,070	9,291,605	1,334,176	1,008,540	769,676
衛 生 費	243,084,680	229,326,794	219,165,733	215,516,599	193,137,357
教 育 費	5,166,657	6,608,443	13,975,250	4,324,969	3,869,204
損 害 保 険 料	9,665,449	9,285,743	9,103,963	9,258,871	8,978,995
支 払 報 酬	47,508,545	42,899,610	43,686,369	35,854,771	29,194,071
行 事 費	36,389,884	82,629,718	30,700,437	37,224,615	38,173,705
諸 手 数 料	331,123,689	234,191,118	262,221,599	243,976,138	244,176,857
保 守 料	363,981,081	358,070,006	334,474,026	323,223,375	304,131,649
広 告 費	0	99,220	255,770	222,480	1,095,444
警 備 費	87,351,161	80,060,734	82,053,561	81,314,898	79,905,150
移 転 費	1,898,650	5,928,500	25,694,913	13,469,760	14,913,000
取 壊 し 費	20,427,000	562,899,600	126,462,200	97,229,000	37,832,400
雑 費	15,616,553	13,421,251	14,819,731	13,308,873	11,731,066
減 価 償 却 額	2,616,402,728	2,677,237,475	2,308,388,804	2,212,046,885	1,779,980,925

教育事業活動支出の部

財務の概要

(単位：円)

科 目	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度
管 理 経 費	1,028,848,590	779,643,943	802,383,706	926,966,681	1,006,132,702
消 耗 品 費	5,421,373	6,606,496	12,060,299	13,040,217	14,987,681
光 熱 水 費	22,677,433	20,563,125	17,053,653	18,115,398	16,909,551
旅 費 交 通 費	19,651,334	17,358,972	41,411,638	41,260,098	49,671,887
通 信 費	23,995,125	27,192,312	26,223,420	24,181,610	19,098,684
諸 会 費	20,069,680	20,079,200	19,340,550	20,921,570	20,696,309
印 刷 製 本 費	81,840,281	82,397,899	70,883,914	87,404,438	92,701,286
購 読 費	5,149,332	5,669,058	8,574,453	7,836,139	7,222,044
支 払 修 繕 費	37,223,442	20,244,386	21,117,577	21,296,935	45,327,328
賃 借 料	10,998,621	9,445,933	14,710,132	10,985,694	13,997,513
会 議 懇 談 会 費	1,993,646	1,349,225	8,926,919	7,527,100	10,064,458
衛 生 費	5,138,366	14,517,488	16,103,528	14,755,164	14,683,580
損 害 保 険 料	991,212	926,938	652,842	615,472	641,581
支 払 報 酬	17,564,172	17,234,346	18,111,076	18,432,867	19,394,569
行 事 費	42,187,573	5,338,898	5,993,387	12,332,154	3,732,521
諸 手 数 料	238,112,534	158,742,433	136,754,015	191,128,116	182,110,641
保 守 料	43,411,479	42,144,793	40,702,476	35,719,186	25,867,606
広 告 費	162,583,394	107,359,545	117,045,685	127,520,569	201,913,451
車 輻 費	1,178,970	1,318,728	2,063,357	1,909,658	1,564,286
福 利 費	8,409,017	6,350,010	6,362,305	6,967,134	6,996,398
租 税 公 課	72,255,949	31,259,276	22,919,422	18,862,006	17,982,365
涉 外 費	3,270,075	4,417,345	14,559,183	11,552,291	14,042,751
寄 付 金	0	0	300,000	400,000	0
警 備 費	7,932,239	7,486,297	8,011,208	7,982,862	8,169,054
職 員 研 修 費	5,653,518	4,486,671	4,209,103	4,559,596	3,231,197
私立大学等経常費補助金返還金	2,985,000	1,880,000	897,000	1,155,000	2,883,000
移 転 費	814,000	1,854,000	2,238,100	2,762,640	1,617,800
取 壊 し 費	12,200,000	7,850,000	26,555,340	56,162,200	5,734,400
雑 費	61,948,062	35,370,534	21,027,953	24,219,223	24,994,075
減 価 償 却 額	113,192,763	120,200,035	117,575,171	137,361,344	179,896,686
徴 収 不 能 額 等	882,000	1,205,000	1,080,000	3,237,195	4,789,000
徴 収 不 能 引 当 金 繰 入 額	882,000	1,205,000	1,080,000	3,237,195	4,789,000
教育活動支出計	13,738,960,301	14,001,385,642	12,670,362,910	12,495,354,765	11,952,285,402
教育活動収支差額	80,141,763	△ 509,102,939	73,893,428	△ 252,622,561	391,541,236

(単位：円)

	科 目	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度	
		事業活動収入の部					
教育活動外収入	受取利息・配当金	315,973,390	394,300,410	453,669,532	450,551,846	477,418,662	
	第3号基本金引当特定資産運用収入	106,708,436	160,149,043	201,167,427	206,152,029	190,540,895	
	その他の受取利息・配当金	209,264,954	234,151,367	252,502,105	244,399,817	286,877,767	
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0	
	教育活動外収入計	315,973,390	394,300,410	453,669,532	450,551,846	477,418,662	
事業活動支出の部	科 目	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度	
	借入金等利息	0	0	0	0	0	
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0	
	教育活動外支出計	0	0	0	0	0	
	教育活動外収支差額	315,973,390	394,300,410	453,669,532	450,551,846	477,418,662	
	経常収支差額	396,115,153	△ 114,802,529	527,562,960	197,929,285	868,959,898	
特別収入	科 目	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度	
	資産売却差額	2,099,055,352	2,790,000	2,973,400	4,774,170	15,587,597	
	施設売却差額	2,007,580,021	0	0	0	0	
	有価証券売却差額	91,475,331	2,790,000	2,973,400	4,774,170	15,587,597	
	その他の特別収入	30,858,917	93,590,364	250,226,593	152,644,819	49,702,826	
	施設設備寄付金	0	3,368,000	230,952,955	71,985,801	0	
	現物寄付	22,833,917	18,637,364	19,273,638	42,707,018	43,815,955	
	施設設備補助金	5,775,000	71,585,000	0	37,952,000	0	
	過年度修正額	2,250,000	0	0	0	5,886,871	
	特別収入計	2,129,914,269	96,380,364	253,199,993	157,418,989	65,290,423	
	事業活動支出の部	科 目	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度
		資産処分差額	104,022,523	349,517,637	182,424,402	202,449,877	134,380,741
		施設処分差額	18,148,700	258,655,877	4,632,098	45,262,355	14,835,850
		有価証券処分差額	35,246,686	37,787,260	115,498,323	17,068,576	36,248,860
		その他の資産処分差額	50,627,137	53,074,500	62,293,981	140,118,946	83,296,031
		その他の特別支出	0	54,156,678	3,501,679	0	1,081,597
		過年度修正額	0	54,156,678	3,501,679	0	1,081,597
		特別支出計	104,022,523	403,674,315	185,926,081	202,449,877	135,462,338
		特別収支差額	2,025,891,746	△ 307,293,951	67,273,912	△ 45,030,888	△ 70,171,915
	基本金組入前当年度収支差額	2,422,006,899	△ 422,096,480	594,836,872	152,898,397	798,787,983	
	基本金組入額合計	△ 1,545,244,149	△ 1,006,755,211	△ 6,611,179,178	△ 2,225,731,954	△ 4,406,516,699	
	当年度収支差額	876,762,750	△ 1,428,851,691	△ 6,016,342,306	△ 2,072,833,557	△ 3,607,728,716	
	前年度繰越収支差額	△ 11,917,509,841	△ 11,574,505,024	△ 5,575,751,798	△ 3,502,918,241	104,810,475	
	基本金取崩額	0	1,085,846,874	17,589,080	0	0	
	翌年度繰越収支差額	△ 11,040,747,091	△ 11,917,509,841	△ 11,574,505,024	△ 5,575,751,798	△ 3,502,918,241	
	(参考)						
	事業活動収入計	16,264,989,723	13,982,963,477	13,451,125,863	12,850,703,039	12,886,535,723	
	事業活動支出計	13,842,982,824	14,405,059,957	12,856,288,991	12,697,804,642	12,087,747,740	

財務の概要

(2) 財務比率の経年比較

(単位：%)

比率名	算式	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	47.1	46.7	50.3	51.2	49.3
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	60.5	58.6	61.6	61.8	60.6
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	42.8	48.5	39.6	40.0	36.0
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	7.3	5.6	6.1	7.3	7.8
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	14.9	▲ 3.0	4.4	1.2	6.2
基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入-基本金組入額}}$	94.0	111.0	188.0	119.5	142.5
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	77.8	79.7	81.7	82.8	81.4
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	0.9	1.0	2.1	1.0	0.6
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	12.1	12.4	9.4	9.2	10.4
基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	9.5	7.2	49.1	17.3	34.2
減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	19.9	20.0	19.1	18.8	16.4
経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	2.8	▲ 0.8	4.0	1.6	6.8
教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	0.6	▲ 3.8	0.6	▲ 2.1	3.2

4. その他

(1)有価証券の状況

①総括表

(単位：円)

	当年度（令和4年3月31日）		
	貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	21,228,082,869	21,598,576,961	370,494,092
（うち満期保有目的の債券）	(20,287,579,511)	(20,605,429,184)	(317,849,673)
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	22,042,081,499	21,728,650,700	△ 313,430,799
（うち満期保有目的の債券）	(21,099,653,000)	(20,909,540,800)	(△ 190,112,200)
合計	43,270,164,368	43,327,227,661	57,063,293
（うち満期保有目的の債券）	(41,387,232,511)	(41,514,969,984)	(127,737,473)
時価のない有価証券	70,000,000		
有価証券合計	43,340,164,368		

②明細表

(単位：円)

種 類	当年度（令和4年3月31日）		
	貸借対照表計上額	時価	差額
債券	41,387,232,511	41,514,969,984	127,737,473
株式	700,254,785	651,996,152	△ 48,258,633
投資信託	1,182,677,072	1,160,261,525	△ 22,415,547
貸付信託	0	0	0
合計	43,270,164,368	43,327,227,661	57,063,293
時価のない有価証券	70,000,000		
有価証券合計	43,340,164,368		

(2)借入金の状況

借入金はない

(3)学校債の状況

学校債は発行していない

(4)寄付金の状況

①特別寄付金：104,046,239円

(内訳)

- ・特定の研究に対する寄付金 : 18,639,299円
- ・国際交流の推進のための寄付金 : 4,849,000円
- ・課外活動の充実のための寄付金 : 13,479,500円
- ・研究活動の推進のための寄付金 : 7,452,000円
- ・教育プログラム推進のための募金 : 7,225,000円
- ・就職活動の支援のための募金 : 6,453,000円
- ・個人の希望に基づく用途指定寄付 : 45,948,440円

②一般寄付金：9,557,743円

③現物寄付：33,123,917円

財務の概要

(5)補助金の状況

- ①国庫補助金：1,962,005,319円
- ・ 経常費補助金 : 1,276,238,000円
 - ・ 文化芸術振興費補助金 : 6,691,019円
 - ・ 授業料等減免費交付金 : 673,301,300円
 - ・ 私立大学施設整備費補助金 : 5,775,000円

②地方公共団体補助金：1,033,530円

(6)収益事業の状況

収益事業は行っていない

(7)関連当事者等との取引の状況

ア)関連当事者

該当する取引は無い

イ)出資会社

名称	株式会社 九産大サービスセンター				
事業内容	スイミングスクールの経営、建築物の清掃、損害保険代理店業務 他				
資本金	10,000,000円 10,000株				
学校法人の出資状況	10,000,000円 10,000株 総株式に占める割合 100%				
出資の状況	昭和55年 3月31日	2,000,000円	2,000株		
	昭和55年10月30日	6,000,000円	6,000株		
	昭和55年11月29日	2,000,000円	2,000株		
当期中に学校法人が受け入れた配当及び寄附の金額並びに学校法人との資金、取引等の状況	当該会社からの受入額	賃貸料 施設設備利用料他 寄付金	25,546,950 130,200 20,000,000		
	当該会社への支払額			衛生費 他	98,500,356
	(単位：円)				
		期首残高	資金支出等	資金収入等	期末残高
当該会社への出資金等		10,000,000	0	0	10,000,000
当該会社への未払金		13,838,498	13,838,498	13,097,064	13,097,067
当該会社からの未収入金		2,287,450	2,287,450	2,287,450	2,287,450
保証債務	該当無し				

名称	株式会社 サンキューフーズ				
事業内容	食料品及び飲料品の加工販売並びに給食の受託業務、飲料店の経営業務 他				
資本金	60,000,000円 120,000株				
学校法人の出資状況	60,000,000円 120,000株 総株式に占める割合 100%				
出資の状況	昭和57年 9月27日	2,700,000円	5,400株		
	平成 6年10月31日	300,000円	600株		
	平成 7年 6月20日	7,000,000円	14,000株		
	令和 2年 7月31日	50,000,000円	100,000株		
当期中に学校法人が受け入れた配当及び寄附の金額並びに学校法人との資金、取引等の状況	当該会社からの受入額	賃貸料 施設設備利用料他	2,754,400 65,100		
	当該会社への支払額			行事費 他	21,583,681
	(単位：円)				
		期首残高	資金支出等	資金収入等	期末残高
当該会社への出資金等		60,000,000	0	0	60,000,000
当該会社への未払金		499,156	499,156	509,744	509,744
当該会社からの未収入金		0	0	0	0
保証債務	該当無し				

(8)学校法人間財務取引

学校法人間の財務取引は無い

5. 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応策

財務状況を分析するための指標の1つとして財務比率があり、本学園の各計算書関係比率は前出のとおりである。

①事業活動収支関係比率について

令和3年度の本学園と令和2年度全国平均値（医歯系を除く）を比較すると、人件費比率47.1%（全国平均値51.8%）、人件費依存率60.5%（69.6%）、

教育研究経費比率42.8%（35.2%）、管理経費比率7.3%（8.2%）などが良好な数値を示している。

教育活動収支差額比率は、昨年度▲3.8%から0.6%と4.4ポイントのプラス、経常収支差額比率は、昨年度▲0.8%から2.8%と3.6ポイントのプラスに転じた。これは、令和2年度に旧体育施設の取り壊し費用が臨時的に発生したため、令和3年度の教育活動収支差額比率及び経常収支差額比率は、通常の状態に戻ったと言える。通常の状態に戻ったとはいえ、全国平均と比べるとまだ劣っている。

事業活動収支差額比率は、遊休地として所有していた土地を売却したことにより、昨年度▲3.0%から14.9%と17.9ポイントの大幅なプラスに転じた。

令和2年度に作成した中期財務計画では、学生から納付される学費の値上げ、その他の収入の増加策により、比率向上に努めていくとともに、学生教育へ更なる還元を行う。

②貸借対象表関係比率について

令和3年度の比率は、令和2年度決算では全国平均から劣っていた項目について改善傾向にあり、ほぼ全国平均並みとなっている。この良好な比率の裏には、充実した設備投資、潤沢な運用資金の確保、無借金での経営といった、安定した財務基盤が築かれていることがある。

前出の中期財務計画では、積立率を100%とすることも目標に掲げており、長期にわたり更なる安定した財務基盤を構築していく。

「1年間の取組み2021」動画は
こちらからご覧ください。



KYUSHU SANGYO UNIVERSITY 九州産業大学



九州産業大学造形短期大学部

ZOKEI KYUSHU SANGYO UNIVERSITY, ZOKEI JUNIOR COLLEGE OF ART AND DESIGN

【発行】 学校法人中村産業学園 総合企画部企画課

〒813-8503 福岡県福岡市東区松香台二丁目3-1

TEL(092)673-5505 FAX(092)673-5025 E-mail kikaku@ml.kyusan-u.ac.jp

KSU

プロジェクト型教育

2021年度 学部間・学外との取り組み事例



《KSUプロジ

『KSUプロジェクト型教育』とは？

学びの舞台は、実社会の『現場』

地域や企業、行政と連携してプロジェクトを立ち上げ、取り組むことで

実践力・共創力・統率力をはじめ、様々な力を養います。

学部・学科の枠を越え、産学官連携による商品開発やプロモーション、技術開発、

イベント開催など、『**106のプロジェクト**』を展開しています。



エクト型教育》》



共創力

地球規模でモノや情報をやり取りする時代。様々なコラボレーションを通して、異なる価値観をもつ人々と出会い、刺激し合い、互いの力を活かす共創力を身に付けます。



実践力

変化の連続で予測がつかない時代を生き抜くために必要なのは、「現場での実体験」です。現場の声を聞き、現場で動く。この体験を通して実践力を培います。

身に付く 主な力

統率力



統率力

あらゆる分野で「チーム」が注目されています。さまざまなメンバーで構成する「プロジェクトチーム」主体の活動で、目標を明確に示して仲間を結集し、成功に導く統率力を養います。

**時代のニーズに
応えられる社会人に**

卒業生インタビュー

今に活きている、プロジェクトから学んだこと

モロフジホールディングス株式会社勤務

4年次に、教授の誘いを受けて「創立60周年記念 記念品制作プロジェクト」に参加した上田さん。デザインだけでなく、ディレクターとしてチームを率いました。記念品は「大学のいいイメージを、福岡の伝統工芸品を通じて表現したい」と、博多織のネックストラップとお福さんの置物の2点を制作。パッケージに、台座を兼ねた桐箱を提案するなど、環境に配慮したデザインが大学外からも評判を呼びました。

卒業制作として取り組んだこの活動は、**芸術学部の卒業制作の優秀賞を受賞**。「作業場を訪ね、職人さんと話した経験は、資料や授業では得られない貴重なものになりました。制作中はデザインツールを駆使することが多く、授業の予習にもなって良かったです」。

現在はモロフジホールディングス株式会社で、webサイトのコーディングや販促物のデザインを担当。「スケジュールや周囲の状況を把握する力は、プロジェクトでディレクションを担った経験が活きています」と上田さんは話します。今後は「期待されている以上のデザインや提案をして、お客様の要望に応えたいですね」と言葉に力を込めます。

「プロジェクトを通じて、学部・学科の垣根を越えた交流ができたことも良かった」と振り返る上田さんは「興味があることに、積極的に挑戦してみてください。チャレンジした先に、自分の向き、不向きが見えてくるので、考えすぎずに行動を起こすことが大切です」と後輩たちへアドバイスを送ります。

芸術学部ソーシャルデザイン学科 2021年3月卒業
熊本県・必由館高等学校出身

上田真衣さん

学生時代に関わったProject

「創立60周年記念 記念品制作プロジェクト」

芸術学部の複数の学科の学生が共同で、九州産業大学創立60周年記念事業の記念品を制作しました。福岡の伝統を守りつつ、大学の特徴が表現できるようなデザインを目指して、博多織のネックストラップとお福さんの置物を作っています。また、環境に配慮した包装を取り入れるなど、SDGsの実現に寄与する社会的なプロジェクトになったことも評価されました。



創立記念品の制作で、ディレクションを経験
デザイン+まとめめる力が自分の武器に



卒業生インタビュー

今に活きている、プロジェクトから学んだこと

株式会社BUB勤務

建築の中でもよりソフトな分野を大学で学びたいと、住居・インテリア学科に進学。福山秀親教授のゼミに入り、「3年次から2年間『中心市街地活性化プロジェクト』に参加したことで、自分のやりたいことがクリアになりました」と宮里さんは振り返ります。

「中心市街活性化プロジェクト」は、福岡県小郡市を単なるベッドタウンで終わらせないために、町の価値を高めるための空間の創造を企画・提案するというもの。町の未来の一端を担うような壮大なプロジェクトですが、「教授から『面白い発想をしてほしい』という後押しがあったので、学生だからできる提案をしようと思いました。有名店を招致する、店を開くというような物理的なものではないまちづくりを企画しました」と宮里さん。西鉄小郡駅と甘木鉄道小郡駅が交差する地域の公園に、小郡市民や企業が魅力を発信・展示できるスペースを作ることを提案しました。

プロジェクトを通じて、多くの学部生が就職先に選ぶハウスメーカーや設計系の会社ではなく、企

画に携われる仕事に就きたいと思った宮里さんは、株式会社BUBに就職。現在は千葉県にある「BUB RESORT」というグランピング施設で、次拠点開発の業務を担い、大学で学んだ知識や自身の興味・関心を生かした働き方を実現しています。宮里さんは「自分の将来について抽象的なイメージしか持てない人は、ぜひ教授と話したり、プロジェクトに参加したりしてみてください。自分の好きなこと、やりたかったことが見えてくるはずです」と経験を伝えています。

建築都市工学部住居・インテリア学科 2021年3月卒業
沖縄県・那覇高等学校出身

宮里 勇氣さん

学生時代に関わったProject

「中心市街活性化プロジェクト」

地方中核都市(政令指定都市のベッドタウン)である福岡県小郡市と連携し、町の活性化につながるような、新たな商業空間の配置などを企画・提案するプロジェクト。駅に近い複数の公園に、「小郡市に存在するポテンシャルや要素」を提示するスペースを提案しました。現在は、商環境デザインゼミナール(福山教授)のゼミ生によって引き継がれています。

ベッドタウンの活性化プロジェクトに参加
自分の進みたい道、やりたいことが明確に



卒業生インタビュー

今に活きている、プロジェクトから学んだこと

株式会社三好不動産勤務

入学時のオリエンテーションで、プロジェクトの存在を知った藤本さんは「せっかく大学に入ったのだから、座学以外のことにも挑戦したい。経営者になるという夢を叶えるためにも、実践的に学べるプロジェクトに参加したい」と、1年次からチャレンジすることを決意します。参加したのは、カフェの企画・運営を通じて経営を学ぶことを目的とした「3 Sun cafe」。「結果を出せば、単位にも認定されるプロジェクトだったので、いい緊張感もありました」と当時を振り返ります。

カフェの運営は集客も評判も上々で、学内や学文祭にとどまらず、学外に出て企業とコラボ出店を果たすまでに拡大。「それができたのも、企画、実行、評価、改善のPDCAサイクルを4年間繰り返しながら、プロジェクトを進めてこられたからです。たくさんの人と繋がることができたのも財産で、6、7人の同級生メンバーとは今も関係が続いているんです」と、多くの収穫を得ました。



プロジェクトを通じて癖付いたPDCAサイクルは、株式会社三好不動産で働く現在も、大いに役立っています。「賃貸営業を担当しているので、どうしても問い合わせをさせていただけるか、集客できるかを常に考えています。これからもトライと振り返りを繰り返しながら、成長していきたいと思います」と藤本さん。「単位を取ることで大学4年間を終えるなんて、もったいないと思います。時間は有限。九州産業大学には実践的に学べるプロジェクトが多数あるので、ぜひチャレンジしてください」と話しています。

経営学部産業経営学科 2020年3月卒業
福岡県・田川高等学校出身

藤本凌真さん

学生時代に関わったProject

3 Sun cafe (サンサンカフェ)

カフェの企画と運営というツールを通して、実践的な経営を学ぶプロジェクト。出店計画、運営を経て「どうしたら集客方法が効果的だったのか」「どんな飲み物が多く注文されたのか」を分析。人が集まる施策を考え、次の出店に活かして、利益や評判を高めました。4年間参加した学生もいて、サークルのような連帯感が、成果にも繋がりました。



実践的な学びを求めてプロジェクトに参加
カフェの企画・経営に4年間邁進



2021年度 取り組み事例

COLLECTION OF PROJECT CASES

3ページからは、2021年度に行われたプロジェクトをご紹介します。
様々なプロジェクトから、自分の「やってみたい」を探してみましょう。

ページの見方

系統名

- 芸術系
- 理工系
- 文系
- 美術館・

オープンイノベーションセンター
の4系統に分類しています。
自分の興味がある系統から、
事例を探することができます。

ジャンル名

プロジェクトの内容によっ
て、[教育][研究][社会貢献]
の3つのジャンルに分類して
います。

連携した企業など

連携先の企業や行政、団体、
学部などを記載しています。

SDGsアイコン

プロジェクト内容が、持続可
能な開発目標 (SDGs) の17
の目標のうち、どれに当ては
まるのかを表示しています。
⇒SDGsとは? (次ページを参照)

期待できるスキルアップ

そのプロジェクトに参加する
ことで、スキルアップが期待
できる能力のリストです。

CLOSE-UP

No. **1** **社会貢献** [担当] 真島猛 / 隅田康明 / 花田雅彦

たべものレスキュー

12 持続可能な消費のあり方 1 食料 2 貧困削減

学 外 連携プロジェクト
芸術学部 × 理工学部 × 地域共創学部 × 産学連携室 ×
基礎教育センター × (福岡市) × 東区公民館 × まちスポ

①参加メンバー(国連大学SDG大学連携プラットフォーム 公開シンポジウムにて) ②親子で参加のワークショップの様子 ③ワークショップ向けポスターデザイン

食品ロスの削減のため、実践を通した様々なスキルを習得し、社会問題の解決に貢献!

概要
世界各国で大きな課題となっている食品ロスは、単に食品の廃棄だけの問題ではなく、環境問題や世界的な人口増加による食料問題など様々な問題に影響を及ぼしています。このプロジェクトでは、食品ロスの削減のため「廃棄食材の再利用による食品デザイン」「子どもたちへ食品ロスを分かりやすく伝えるコミュニケーション・デザイン」「工夫を凝らしたワークショップ・デザイン」を行い

ます。また、余った食品をリサイクルするシステム「フードドライブ・デザイン」は、食品ロス削減だけでなく、生活困窮者への食料支援にも繋がります。このプロジェクトの参加メンバーは、芸術学部、理工学部、地域共創学部の学生たちで、各々が学んでいる専攻の特性を活かし、皆でアイデアを出し合い、実践を通した様々なスキルを習得し、社会問題の解決に貢献します。

参加者の声
このプロジェクトに参加したことで、自分の学ぶ専門と異なる学生と共に活動し、問題解決への新しいアプローチの仕方を得られました。また、今まで関わることのなかった学生以外の人たちとも関わる機会を多く得ることが出来ました。イベントやワークショップを行った際に、参加してくれた子どもたちなど不特定多数の人に自分たちが伝えたいことを過不足なく伝えることの難しさを実感しました。

室 ほか
芸術学部
ビジュアルデザイン学科・2年
福岡県・福岡西陵高等学校

期待できる学生のスキルアップ

- コミュニケーション力
- 調査分析力
- 思考力(問題解決力)
- チームワーク
- アウトプット力(イラスト制作、ポスターレイアウトなど多数)

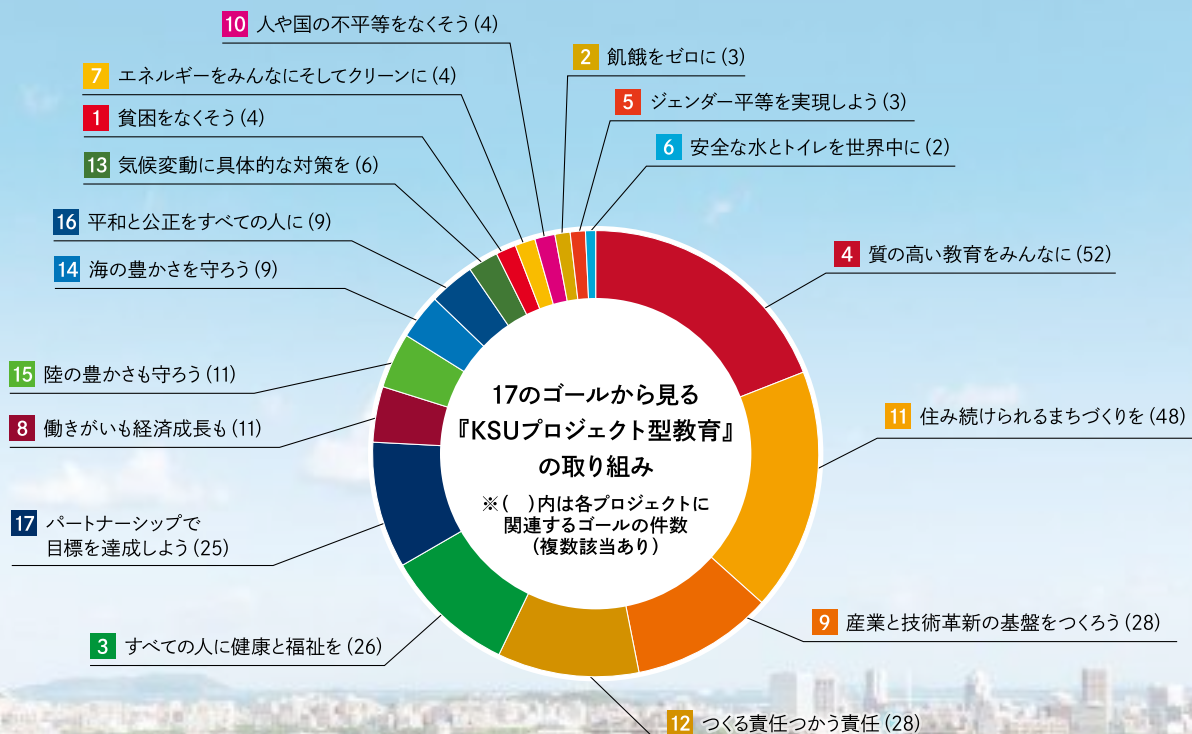
KSUプロジェクト型教育 で実践するSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



持続可能な開発目標(SDGs)とは？

SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) は、「誰一人取り残さない(leave no one behind)」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標です。2015年の国連サミットにおいて全ての加盟国が合意した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中で掲げられました。2030年を達成年限とし、17のゴールと169のターゲットから構成されています。



芸術系

2021年度 KSUプロジェクト型教育 学部間・学外との取り組み事例

No.	タイトル	ページ	No.	タイトル	ページ
1	 たべものレスキュー	4	19	写真で福岡高速の魅力を伝えるプロジェクト	11
2	 CKK プロジェクト	5	20	須恵町イルミネーション造形物制作事業	
3	あしや砂像展2021にともなう砂像制作の学び、及び砂浜清掃プロジェクト	6	21	「須恵町ささやきの小径」看板制作プロジェクト	12
4	石橋文化センターアートプロジェクト		22	全国高速道路美化事業「草切橋壁画プロジェクト」	
5	インターフェイス・デザインプロジェクト		23	卒業記念品制作プロジェクト	
6	海の学び舎ワークショッププロジェクト	7	24	太宰府天満宮の悠久の歴史をデザインで紡ぐ	13
7	えきマチ1丁目 香椎 空間演出プロジェクト		25	地域活性化を目的とした映像コンテンツ制作プロジェクト	
8	SDGsに基づく企業連携コンテンツ制作プロジェクト		26	地域・企業と連携した実践型教育 (QUEST 演習など)	
9	お弁当「みやまの玉手箱」のパッケージデザイン	8	27	地域・企業連携による実践型造形教育プロジェクト	14
10	学外アートプロジェクト「社会福祉法人悠光会壁画プロジェクト」		28	FUKUOKA ART WEEK	
11	学外アートプロジェクト「須恵町壁画制作」		29	福岡県粕屋町ガイドマップ及び駕与丁公園マップの制作	
12	かしいかえんエンドレスプロジェクト	9	30	服飾に関わる手づくり支援プロジェクト	15
13	企業などと連携した実践的プロジェクト型教育 (重文背景幕)		31	襖 (フスマ) プロジェクト	
14	桐製家具の新商品開発プロジェクト		32	曲げわっぱ弁当箱の新商品開発プロジェクト	
15	高齢者対象の遺影制作プロジェクト	10	33	みらいQ ラボ・キャラクターデザイン・プロジェクト	16
16	「さつきアートフェスタ 2021」プロジェクト		34	八女紙工壁画プロジェクト第2弾	
17	産学連携「ダイニチ看板絵プロジェクト」		35	2021年度大麻乱用防止啓発ポスター制作	
18	Share with me	11			

No. 1

社会貢献

[担当] 真島猛 / 隅田康明 / 花田雅彦

たべものレスキュー

12 つくる責任 つかう責任

1 負担を なくそう

2 負担を ゼロに

学 外 連携プロジェクト

芸術学部 × 理工学部 × 地域共創学部 × 産学連携室 ×
基礎教育センター × 福岡市 × 東区公民館 × まちスポ



①参加メンバー(国連大学SDG大学連携プラットフォーム 公開シンポジウムにて) ②親子で参加のワークショップの様子 ③ワークショップ向けポスターデザイン

食品ロスの削減のため、実践を通じた様々なスキルを習得し、社会問題の解決に貢献!

概要

世界各国で大きな課題となっている食品ロスは、単に食品の廃棄だけの問題ではなく、環境問題や世界的な人口増加による食料問題など様々な問題に影響を及ぼしています。このプロジェクトでは、食品ロスの削減のため「廃棄食材の再利用による食品デザイン」「子どもたちへ食品ロスを分かりやすく伝えるコミュニケーション・デザイン」「工夫を凝らしたワークショップ・デザイン」を行い

ます。また、余った食品をリサイクルするシステム「フードドライブ・デザイン」は、食品ロス削減だけでなく、生活困窮者への食料支援にも繋がります。このプロジェクトの参加メンバーは、芸術学部、理工学部、地域共創学部の学生たちで、各々が学んでいる専攻の特性を活かし、皆でアイデアを出し合い、実践を通じた様々なスキルを習得し、社会問題の解決に貢献します。

参加者の声

このプロジェクトに参加したことで、自分の学ぶ専門と異なる学生と共に活動し、問題解決への新しいアプローチの仕方を得られました。また、今まで関わることのなかった学生以外の人たちとも関わる機会を多く得ることが出来ました。イベントやワークショップを行った際に、参加してくれた子どもたちなど不特定多数の人に自分たちが伝えたいことを過不足なく伝えることの難しさを実感しました。

室ほか

芸術学部
ビジュアルデザイン学科・2年
福岡県・福岡西陵高等学校



期待できる学生のスキルアップ

- コミュニケーション力
- 調査分析力
- 思考力(問題解決力)
- チームワーク
- アウトプット力(イラスト制作、ポスターレイアウトなど多数)

No.

教育

[担当] 石崎幸

2

CKK プロジェクト

学 外
連携プロジェクト

造形短期大学部 × CKK



① 様々なグッズ展開へ ② 遠隔でのミーティングの様子 ③ 「4boxes」のためのデザインとその展開例

舞台芸術にデザインで付加価値を高め、新たな価値を創造！

CKK 創設の V.I. の役割を果たすプロジェクト！

概要

2020年度から、バレエを中心とし福岡を拠点とするダンスカンパニーCKKのデザイン制作を行っています。本プロジェクトでは、プロジェクトのロゴタイプ、ロゴマーク、フライヤー、プログラム、チケット、グッズ展開(Tシャツ、巾着袋)など、CKK創設のV.I.の役割を果たしました。対面でミーティング出来ない時期には遠隔でZoomなどを使用し、プレゼンするなどの方法でコミュニケーションを図っていきました。舞台芸術はその

舞台そのものだけではなく、その日が来るまでのワクワク感も含めて幸せな時間を提供してくれれます。我々は舞台芸術にデザインが深く関わることにより、舞台の付加価値を高める効果を研究しています。また、地域や企業といった産官とコラボレーションして物作りに挑戦し、仲間と切磋琢磨しながら、新たな価値を創造していくことを目指しています。

期待できる学生のスキルアップ

- コミュニケーション能力の向上
- ファシリテーション能力の向上
- プレゼンテーション能力の向上
- デザインスキルの向上

参加者の声

短期間でデザインを繰り返し修正していく作業で、特に illustrator のスキルが上がったと思います。今後社会でとても役に立ちますし、有意義な時間を過ごせました。また、今回自分がデザインしたものが選ばれるという経験も出来ました。とても嬉しかったですが、よく考えてみると重大な責任を負っているのだなと自覚しました。商品が売れたと聞いたときはホッとしました。在学中 No. 1 の思い出になりました。

西丸 実来

造形短期大学部
造形芸術学科・2年
熊本県・玉名高等学校



芸術系

理工系

文系

美術館・オープンイノベーションセンター

No. 3

教育

[担当] 小田部 黄太

あしや砂像展2021にともなう 砂像制作の学び、及び砂浜清掃 プロジェクト

学 外
連携プロジェクト

造形短期大学部 × 芦屋町 ×
芦屋砂像展実行委員会



概要

「あしや砂像展2021」は残念ながらコロナ禍のため中止となりましたが、実行委員会と協議の上以下の内容で実施しました。

①実行委員会の方に来校いただき、「あしや砂像展」の取り組みの経緯や砂像制作の様子、制作の手順・方法などについて講義いただきました。②班分けを行い、砂像の制作を想定し、下絵の制作、エスキースの制作を行いました。③砂像展の会場に行き、エスキースのプレゼンテーションを行い、ミニ砂像の制作体験を行いました。④最後に砂浜の清掃を行い終了しました。

期待できる学生のスキルアップ

- 立体の制作を通し立体造形のスキルを身に付ける。
- 計画立案に基づき制作することで企画力・計画力を培う。
- 協働作業を通じ役割分担の協調性、コミュニケーション力を養う。
- 海岸の清掃活動を通し、海洋汚染の実態などSDGsへの意識を深める。

No. 4

教育

[担当] 進藤 環

石橋文化センターアート プロジェクト

学 外
連携プロジェクト

芸術学部 ×
公益財団法人久留米文化振興会(石橋文化センター)



概要

このプロジェクトは公益財団法人久留米文化振興会より支援を受け、創作活動を通じて石橋文化センターの魅力向上と、市民の芸術への理解を深め関心を高めることを目的としています。3年生を中心に10名が参加し、石橋文化センター園内を創作の場として写真作品を制作しました。布に出力したセルフポートレートを高さ180cmの骨組み3面に張り、園内の図書館前広場に10体の立体物を展示しました。

期待できる学生のスキルアップ

- 写真撮影・編集技術
- 表現力、プレゼン力
- コミュニケーション能力の向上

No. 5

教育

[担当] 青木 幹太

インターフェイス・ デザインプロジェクト

学 外
連携プロジェクト

芸術学部 × (株)YE DIGITAL



概要

IT企業との産学連携プロジェクトです。このプロジェクトでは、「仕事や生活にDX (Digital Transformation) を広げ、新しい暮らしのあり方を創造する」ことがテーマです。具体的には企業が開発したアプリケーションをUI (user Interface) の視点から、わかりやすく、見やすく、操作がしやすい画面デザインを提案します。参加学生は3年生以上の3名で、企業とリモート会議を重ねよりよいインターフェイスを提案しています。

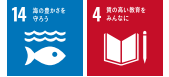
期待できる学生のスキルアップ

- インターフェイスデザインの知識・技術
- 人間中心設計の実務力
- 課題解決力
- コミュニケーション力
- スケジュール管理能力

海の学び舎工作 ワークショッププロジェクト

学 外
連携プロジェクト

造形短期大学部 × 山王ひなた美術教室



概要

山王ひなた美術教室から依頼を受け、そこが主催する「海の学び舎プロジェクト」の、主に小学生を対象とした工作ワークショップの企画運営を行いました。デザインを学んだり、子供と触れ合うお仕事を希望する学生が企画に参加し、福岡の海のことを学ぶ子供たちと、九州産業大学造形短期大学部内で、工作して海や魚を表現する人形劇ワークショップを実施しました。マジックで描いた魚のイラストを、手作りのライトでスクリーンに投影して、魚たちが住む海を表現するプログラムで、その空間デザインや演出、工作キットの設計と準備を通して、準備の大変さを知り、子供たちとの楽しい時間を共有することで、質の高いイベントの貢献と学びを得ることができました。

期待できる学生のスキルアップ

- チーム間でのコミュニケーション能力の向上
- 子供との触れ合い
- クライアントとのディスカッション能力の向上
- 問題発見・解決能力の向上

えきマチ1丁目 香椎 空間演出プロジェクト

学 外
連携プロジェクト芸術学部 × JR九州ビルマネジメント(株) ×
JR九州エージェンシー(株) × (株)ジーエータップ

概要

JR香椎駅ビル「えきマチ1丁目 香椎」の館内を、芸術学部の学生が自由な発想でディスプレイ「季節」を演出するプロジェクトです。計画提案を行ったうえで試作検討し、制作から設営・撤去までを学生自身が行います。2021年度は「春」を担当。「春のおさんぽ」をテーマに、柔らかな色味の花が咲き、花びらが舞う中をカメラや水筒を持ったミツバチが自由に散歩しているよう配置し、楽しい春を表現しました。

期待できる学生のスキルアップ

- 他者との対話力、他者への表現・伝達力、客観的な視点が社会で必要となることに気づく経験になっています。
- 空間演出デザインの役割を知る機会になっています。
- ポートフォリオへの掲載や面接時でのアピールなど就職活動で活かされています。

SDGs に基づく企業連携 コンテンツ制作プロジェクト

学 外
連携プロジェクト造形短期大学部 × アグリーフィールズ合同会社 ×
八女紙工(有)

概要

アグリーフィールズ×造形短期大学部学生による無料絵本制作プロジェクトや、八女紙工有限会社との連携によるエコパッケージの制作プロジェクトを行なっています。イラスト制作に興味がある学生による無料絵本の取り組みは、地域の会社のお仕事内容を子供たちに伝えるための絵本にして、それを無料で保育園に届けたり、ホームページからダウンロードできるようにする取り組みです。また、主にデザインを学ぶ学生が取り組むリサイクル率100パーセントの段ボールを使ったパッケージを制作するプロジェクトでは、学生が環境保護に理解がある企業と連絡をとり、その商品のパッケージを想定した提案をするなど取り組んでいます。豊かな社会へと発展するための有意義な取り組みへの貢献ができています。

期待できる学生のスキルアップ

- クライアントへの提案力
- チームとのコミュニケーション能力の向上
- 実践力の向上
- 問題発見・解決能力の向上

No. **社会貢献** [担当] 水間景子

9 お弁当「みやまの玉手箱」の パッケージデザイン

学 外 連携プロジェクト **芸術学部** × **みやまスマートエネルギー(株)**



概要
芸術学部ビジュアルデザイン学科3年生2名による、お弁当のパッケージデザイン、ツール制作を行いました。当初はパッケージデザインだけの依頼でしたが、ネーミング、ロゴ、ポスター、チラシ、売り場展開、ノベルティなど、幅広いデザイン展開を企画しプレゼンテーションを行ったところ、多くのアイデアが採用されました。販売初日は開店前に長蛇の列。100個限定販売でしたが、瞬間に完売し、地域の方々とのコミュニケーションを強める展開が出来ました。

期待できる学生のスキルアップ

- 問題発見力
- 課題解決力
- デザインスキル
- コミュニケーション能力
- 販売戦略

No. **教育** [担当] 黄禧晶

10 学外アートプロジェクト 「社会福祉法人悠光会 壁画プロジェクト」

学 外 連携プロジェクト **造形短期大学部** × **社会福祉法人悠光会**



概要
久留米に位置する社会福祉法人「悠光会」の障がい児童施設「芽愛」の壁面2箇所に壁画制作の依頼を受けて、10月2日、3日の2日間にかけて学生18名と教員1名で壁画制作を行ないました。数回にかけての事前学習の中で原画の案を出し合い、制作担当箇所を決めました。障がい児が認識しづらいというイメージ(風船、シャボン玉など)を除いて動物をイメージしたカラフルなデザインにしてほしいとの要望に応えるよう、学生全員がお互い意見交換しながら無事に完成することが出来ました。

期待できる学生のスキルアップ

- 地域貢献
- パブリックアート
- 学生のコミュニケーション能力アップ
- アートセラピー

No. **教育** [担当] 黄禧晶

11 学外アートプロジェクト 「須恵町壁画制作」

学 外 連携プロジェクト **造形短期大学部** × **須恵町役場**



概要
2018年から須恵町と連携して行なっているアートプロジェクトで、今年も須恵町役場、町立美術センター久我記念館の階段、東屋の3カ所に、学生32人の参加で須恵町に因んだ内容(ツツジの花、鶯、久我記念館、須恵焼き)などを取り入れたデザインの壁画や階段絵を制作しました。10月16日、24日の制作と数回にかけての事前学習や事後学習で全てのプロジェクトが終了しました。本プロジェクトはソラリアプラザでの文理芸術融合「九産大プロデュース展2022」で紹介されました。

期待できる学生のスキルアップ

- 町おこし
- 地域貢献
- 学生のコミュニケーション能力アップ
- 学生のスキルアップ

No. 12 社会貢献 [担当] 青木幹太

かしいかえん
エンドレスプロジェクト

学 外 連携プロジェクト

芸術学部 × 西日本鉄道(株) × ラフエフェム国際放送(株)

11 社会貢献活動の推進 3 学生の心に響く活動の推進 16 学生と社会とのつながり



概要
2021年12月30日に閉園する「かしいかえん」では、「かしいかえんエンドレスプロジェクト」として、かしいかえんの思い出を心に留めるという主旨で、①記念碑のデザイン、②施設内壁面のメッセージボードの制作に、生活環境デザイン学科プロダクトデザイン専攻の2年生23名が授業の中で取り組みました。記念碑は2022年2月に西鉄かしいかえん駅構内に設置され、メッセージボードは2021年12月に完成し、閉園イベントを盛り上げました。

期待できる学生のスキルアップ

- デザイン構想力
- 課題解決力
- 取材力
- コミュニケーション力
- チームワーク

No. 13 教育 [担当] 井上友子/南聡

企業などと連携した実践的
プロジェクト型教育 (重文背景幕)

学 外 連携プロジェクト

芸術学部 × 八女市 × 八女市教育委員会 × 八女福島燈籠人形芝居保存会

4 読書の習慣を身につけよう 8 働きがいも 学びの場も 17 がん検診アプリで健康をまもろう



概要
八女市からの依頼で2014年より継続している活動「舞台背景幕」の制作です。芸術表現学科の学生が中心となり、縦3m×横6mの舞台背景幕を描きます。6年で一巡する「燈籠人形芝居の芸題」に沿って、現地取材、構成などを経て実作まで行う社会貢献活動です。9月の秋分の日前後に八女福島の八幡宮境内に設置された小屋に舞台が設けられ、国の重要無形民俗文化財「燈籠人形芝居」が演じられます。「舞台背景幕」はその大道具として使用されます。

期待できる学生のスキルアップ

- 目標完遂力
- 協調性
- 実行力
- 計画力
- 柔軟性

No. 14 教育 [担当] 青木幹太

桐製家具の新商品開発
プロジェクト

学 外 連携プロジェクト

芸術学部 × (株)総桐筆筒和光 × 福岡県工業技術センター・インテリア研究所

9 産学連携推進の推進 12 つくば未来 15 環境と社会の持続可能性



概要
福岡県の大川で桐ダンスを専門に製造・販売している企業と福岡県、大学が連携した産学官プロジェクトです。参加した学生は、生活環境デザイン学科プロダクトデザイン専攻の4年生1名、3年生2名、1年生3名で、桐ダンスや桐という材料の特徴を調べてから、桐の特徴を生かしたモダンな家具のデザイン提案を行いました。提案した中から「収納ベンチ」と「スーツ専用タンス」(写真)が試作され、今後、商品化に向けて市場テストやブラッシュアップが行われます。

期待できる学生のスキルアップ

- 商品企画力
- 課題解決力
- コミュニケーション力
- 情報収集力
- チームワーク

No. 15 社会貢献 [担当] シム・ウヒョン

高齢者対象の遺影制作プロジェクト



概要

生前の遺影写真を残さず亡くなってしまいう高齢者が多く増えています。本プロジェクトは、学生が地域の公民館や老人保護施設へ依頼し、撮影日を決め、肖像写真を無料で撮影し、その場でプリントアウトまでして渡す企画です。この企画によって参加学生は高齢者と接すること、社会問題に関心を抱くことができます。また、地域共同体としての地域社会に参加する必要性を認識させます。高齢者は撮影に参加することにより地域社会の絆を認識すること、人生の大事な場面を残すことにより高齢者のアイデンティティーに気付くことができます。

期待できる学生のスキルアップ

- コミュニティ活性化
- 高齢社会の認識
- 多世代交流
- グループワークによる協調、自主性

No. 16 社会貢献 [担当] 森下慎也

「さつきアートフェスタ 2021」プロジェクト



概要

さつき幼稚園×山王ひなた美術教室×九州産業大学造形短期大学の学生による、子供たちの作品を展示して保護者に楽しんでもらう展示会の会場設営に加わったプロジェクトです。日々保育士の方々は昼間のお仕事を終えて、空いた時間でイベントの準備に取り組みられています。そのお手伝いをする中で、役割分担と学生のスキルの応用を結びつけた取り組みです。学生たちは、クライアントとの意見交換と、アイデア出しや試作を行い、子供たちの作品展示の仕具の制作を行いました。

期待できる学生のスキルアップ

- クライアントへの提案力
- チームとのコミュニケーション能力の向上
- 子供のための工作力の工夫
- 問題発見・解決能力の向上

No. 17 研究 [担当] 黄禧晶

産学連携「ダイニチ看板絵プロジェクト」



概要

このプロジェクトは、アートを通じた本学と企業・自治体との連携の取り組みの一つとして、株式会社ダイニチさんから依頼を受けて実行したプロジェクトです。建物の総合仕上げ工事現場にかける看板をより美しいものになりたいとの要望を受けて、パブリックアートを研究テーマとする本学の教員が絵の制作を行い、学生がそれをデジタル化したプロジェクトです。今後街の様々な工事現場で架けられることで、より明るく、美しい街にするという企業のイメージアップにも繋がりました。

期待できる学生のスキルアップ

- パブリックアート
- 企業連携
- アートセラピー

No. 18

教育

Share with me

[担当] 真島猛/窪田由紀/隅田康明

学部間
連携プロジェクト芸術学部 × 人間科学部 × 理工学部 ×
基礎教育センター

概要

このプロジェクトは、臨床心理学とデザイン学の協働によって、コロナ禍からアフターコロナの学生のメンタルケア支援のための有効なツールを開発し、実践・検証を経て改良し、広く発信することでの社会貢献を目指すものです。新型コロナが学生たちの心理面、身体面、行動面に与えた影響を正しく把握した上で、初対面の学生同士が気軽に話し合える“ピア・サポート”の構築と、話し合いをスムーズに行うための支援ツールとして“ワークシート”のデザインを行いました。

期待できる学生のスキルアップ

- コミュニケーション
- 傾聴
- 問題解決力
- チームワーク
- ビジュアルデザインツールの習得 (イラストレーター など)

No. 19

社会貢献

写真で福岡高速の魅力を伝えるプロジェクト

[担当] 進藤環

学外
連携プロジェクト芸術学部 ×
福岡北九州高速道路公社

概要

このプロジェクトは、写真で福岡高速の魅力を伝えることで、地域住民への高速道路事業に対する理解を深め、利用促進に繋げることを目的としています。福岡北九州高速道路公社から委嘱を受け、写真・映像メディア学科の3年生から大学院2年生までの7名が参加し、高速道路の撮影、撮影会の運営協力、撮影技術指導、フォトコンテストの審査・講評などを行いました。

期待できる学生のスキルアップ

- 写真撮影技術
- 企画運営能力の向上
- 社会・将来への関心や視野の広さ
- コミュニケーション能力の向上

No. 20

社会貢献

須恵町イルミネーション
造形物制作事業

[担当] 小田部黄太/シム・ウヒョン

学外
連携プロジェクト造形短期大学部 ×
須恵町すこやかコミュニティ事務局

概要

毎年12月に福岡県糟屋郡須恵町では3つの小学区の公共施設を多数の電球で飾るイルミネーション事業が行われ、幻想的な空間を演出しています。2年以上、続いたコロナ禍で地域民の気分が沈みがちですが、この事業を推進することにより地域に光を放ちたいとのことで、地域のボランティア団体である「須恵町すこやかコミュニティ事務局」により実施されました。本学の教員と学生により、須恵町歴史民俗資料館の敷地内に展示されている蒸気機関車(SL)の「C11」に子どもが好きなトーマスの顔を制作して付け、パェルスポットとして人気を高めることができました。

期待できる学生のスキルアップ

- グループワークによる協調、自主性
- 計画立案そして実行力
- 立体物の造形性
- コミュニケーション力

No. 21 社会貢献 [担当] シム・ウヒョン

「須恵町ささやきの小径」
看板制作プロジェクト

学外連携プロジェクト 造形短期大学部 × 須恵町教育委員会社会教育課



概要
福岡県糟屋郡須恵町の皿山公園にある「歴史民俗資料館」と「久我記念館」を結ぶ遊歩道。地域住民には森林浴として日常的と共に愛されています。歩いて2km、20分のこの山道を「ささやきの小径」といいます。今回企画は、初心者で静かで良さげな山の遊歩道「ささやきの小径」を知ってもらうため、分かりやすい案内看板を設置しました。この看板により自分が歩いてきた距離、そして残り距離が分かるよう100m単位で設置をしました。この看板は学生がデザインから看板制作そして設置まで3ヶ月の過程で行いました。

期待できる学生のスキルアップ

- グループワークによる協調、自主性
- 計画立案そして実行力
- コミュニケーション力
- 企画力デザイン力

No. 22 社会貢献 [担当] 黄禧晶

全国高速道路美化事業
「草切橋壁画プロジェクト」

学外連携プロジェクト 造形短期大学部 × 須恵町役場 × おやじ会



概要
須恵町役場と連携して行なっている高速道路下の壁面を綺麗にするプロジェクトで今年で3年目の壁画プロジェクトです。須恵町草切橋の29mの壁面に地域に伝わっている守母神社の物語を描いてほしいとの要望があり、学生がキャラクターをデザインし、教員がそれに基づく原画を作成しました。10月31日、11月1日の2日間にかけて教員1名、在学生・卒業生10名で制作を行ないました。近隣住民や通りがかる人々の目を楽しめ、地域に伝わる物語に触れることとなりました。

期待できる学生のスキルアップ

- アートに因んだ町おこし
- 地域貢献
- アートセラピー
- 学生のスキルアップや交流

No. 23 教育 [担当] 青木幹太

卒業記念品制作プロジェクト

学外連携プロジェクト 芸術学部 × (有)光延織物



概要
本学では2016年度より、卒業生に贈る記念品の名刺入れ制作を、学生プロジェクトチームと福岡県内の博多織や小倉織、久留米織の企業や工房と連携して取り組んでいます。2021年度は、久留米織の有限会社光延織物と連携し、名刺入れとそれを包装する包みまで久留米織の生地を使い、包装紙など廃棄物が出ない卒業記念品を目指しました。名刺入れの内側と包装の包みは本学のコーポレートカラーの久留米織の生地が使われています。

期待できる学生のスキルアップ

- 商品企画力
- コミュニケーション力
- 伝統工芸の理解
- 課題解決力

No. 24

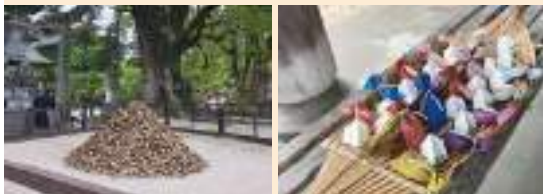
教育

[担当] 石崎幸

太宰府天満宮の悠久の歴史をデザインで紡ぐ

学外
連携プロジェクト

造形短期大学部 ×
五十嵐靖晃 (アーティスト) ×
太宰府天満宮



概要

太宰府天満宮に滞在中のアーティストと共にワークショップやアート活動を行いました。例えば「くすかき」は、かつて存在した千年檜の姿を「描き」出そうという試みで、それは「目には見えないけれど大切なもの」を感じるという、日本人が元来持っている特有の感性のあり方を伝えていくものです。このような経験を通じ、学生自らの作品制作への糸口になる「デザイン研究」を目指しています。

期待できる学生のスキルアップ

- コミュニケーション能力の向上
- ファシリテーション能力の向上
- プレゼンテーション能力の向上

No. 25

社会貢献

[担当] 佐藤慈／青木幹太／井上友子／星野浩司

地域活性化を目的とした映像コンテンツ制作プロジェクト

学外
連携プロジェクト

芸術学部 ×
福岡県中小企業団体中央会



概要

映像コンテンツを地域活性化に活用するための取り組みを行うプロジェクトです。2021年度は、福岡県中小企業団体中央会と連携し、福岡の伝統的工芸品である博多人形、博多織、上野焼のプロモーション動画を制作しました。「10歳から15歳が見てわかる映像」をテーマとし、3DCGアニメーションを使った親しみやすい作品に仕上げることが目指しました。企画を検討するにあたっては、博多人形、博多織、上野焼の各工房を見学させていただきました。

期待できる学生のスキルアップ

- 実践的な活動を通して学ぶ「問題解決力」
- グループ制作で身に付ける「チームワーク力」
- 専門分野における「技術力」

No. 26

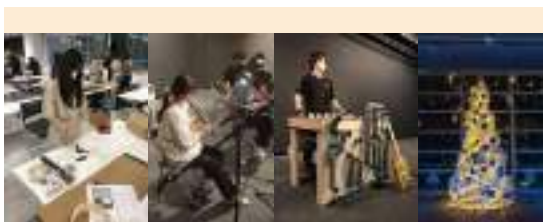
教育

[担当] 井上友子／南聡／真島猛／羽太広海／濱川和洋

地域・企業と連携した実践型教育 (QUEST 演習など)

学外
連携プロジェクト

芸術学部 × 福岡市立こども病院 × 後藤博多人形株式会社 × 老吾屋株式会社 ×
株式会社スズメ織物 × 柴田玉樹博多曲物 × 福岡ソフトバンクホークス ×
(株)フロム工業 × (株)カラーポケット × 福岡市消費生活センター ×
福岡市東区役所 × 福岡市社会福祉協議会 × 古賀市



概要

福岡県及び福岡市の発展や住み良いまちづくりのための「モノ」「コト」を学生と学外の協力者との協働で作上げる授業および正課外プロジェクト型教育です。こども病院で開催したイベントツール作成、クリスマスイベント用のイルミネーション製作及び設置、自作楽器の制作およびアンサンブル(合奏)、空位清浄機開発、親子で楽しむカードゲームコンセプトと販売、消費被害防止DVD製作、地域社会交流イベント用ポスター製作、伝統的工芸品振興活動のお手伝いとしてのデザイン提供、スタジアムビジョンCM動画制作など、実施したプロジェクトの種類は多岐にわたります。単位化された正課授業や自由度と実践力習得のための正課外プロジェクトなど、担当教員が多くのメニューを用意しています。

期待できる学生のスキルアップ

- 目標完遂力
- 実行力
- 柔軟性
- 協調性
- 計画力

No. **27** **社会貢献** [担当] 森下慎也

地域・企業連携による実践型造形教育プロジェクト



学 外 連携プロジェクト **造形短期大学部** × **八女紙工術** × **博多ステーションビル** × **大川市立清力美術館** など

概要
このプロジェクトは、地域や企業と連携するさまざまな取り組みから成り立っています。マイング博多の中のクリスマスディスプレイ制作、パッケージ制作、美術館の企画展の様子を映像で記録するプロジェクトなど取り組みました。これらは、普段教室や実習室で学ぶ学生たちが、クライアントの要望をリサーチして、アイデアを出し、試作を重ねて提案をする、実践力を育むことを目的としています。グラフィックデザインや映像を学ぶ学生たちが、自分のスキルを鍛えると同時に、クライアントの要望に貢献することにつながりました。

- 期待できる学生のスキルアップ**
- 現場実践力の向上
 - 学びの応用
 - コミュニケーション能力の向上
 - 問題発見・解決能力の向上

No. **28** **教育** [担当] 真島猛 / 佐藤忠文

FUKUOKA ART WEEK



学 外 連携プロジェクト **芸術学部** × **地域共創学部** × **FUNIDEA** × **博多阪急**

概要
このプロジェクトは、福岡の芸術デザイン系の大学・専門学校の学生たちが、博多阪急で開催された「Next Generation Artist @Fukuoka」において、作品の展示から販売、プロモーションまでトータルに行いました。参加メンバーは、芸術学部の将来アーティストを志す学生と、地域共創学部の運営メンバーによるプロジェクトチームです。このプロジェクトに参加した学生は、一般の来場者に思いを伝えるために必要な様々なノウハウを得ることができました。

- 期待できる学生のスキルアップ**
- 作品の展示・販売のためのノウハウ
 - プロモーション方法（ポスター、チラシの制作、SNS発信など）
 - チームワーク
 - アートを取り巻く世界の知識の習得
 - コミュニケーション

No. **29** **社会貢献** [担当] 水間景子

福岡県粕屋町ガイドマップ及び駕与丁公園マップの制作



学 外 連携プロジェクト **芸術学部** × **粕屋町役場**

概要
芸術学部ビジュアルデザイン学科の学生5名による、粕屋町のガイドマップと町のシンボルである駕与丁公園のマップを制作しました。ガイドマップの位置付けを「新しく町へ移住した方への『町への愛着』と『安心感』を高めること」と設定し、「町の良さは、町の人が一番知っている」と考え、実際に町に住む方へゲリラインタビューを試み紙面へ反映しました。公園のマップでは、自然豊かな撮影スポットを取り上げ、公園へ行くきっかけづくりにもなる構成にしました。

- 期待できる学生のスキルアップ**
- 問題発見力
 - 課題解決力
 - デザインスキル

No. 30

社会貢献

[担当] 加來卯子

服飾に関わる手づくり支援プロジェクト

学外
連携プロジェクト

芸術学部 × クロバー(株) ×
株ナカノテツ × NPO法人里山を考える会

12
つくし責任
つがひ責任



概要

「手づくり市場 in 北九州」(西日本総合展示場・北九州市小倉北区)の一画で、子どもから大人まで幅広い世代層に向けて、ワークショップ形式の活動を進めています。メインテーマ“手づくりで心豊かな暮らしを”のもと、九州産業大学のブースでは編み物初心者でも楽しめる手づくりイベントを実施。色とりどりの毛糸や布を使って、ブローチや髪飾りなどの手づくり支援を行いました。活動を通して、コミュニケーションの取り方、対応の仕方なども学びます。

期待できる学生のスキルアップ

- 企画立案力
- 創造力
- 実践力
- コミュニケーション力
- 忍耐力

No. 31

教育

[担当] 青木幹太

襖(フスマ)プロジェクト

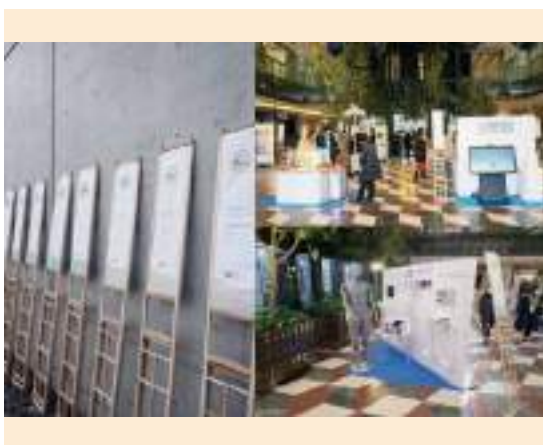
学外
連携プロジェクト

芸術学部 × 下川フスマ製作所 ×
福岡県工業技術センター・インテリア研究所

9
産学連携推進
推進センター

12
つくし責任
つがひ責任

3
下川フスマ
産学連携



概要

福岡県の大川で和襖の製造・販売をしている企業と福岡県、大学が連携した産学官プロジェクトです。参加した学生は、生活環境デザイン学科プロダクトデザイン専攻の3年生4名、2年生4名で、襖制作の基礎となる建具技術を調べてから、建具の特徴を生かしてモダンな住空間に合うフスマや生活用品のデザイン提案を行いました。提案した中から「建具のサイン什器」(写真)を試作し、大学主催で開催した「九産大プロデュース展2022」の展示ブースの案内に用いました。

期待できる学生のスキルアップ

- 商品企画力
- 課題解決力
- 情報収集力
- プレゼンテーション力
- コミュニケーション力

No. 32

教育

[担当] 青木幹太

曲げわっぱ弁当箱の新商品開発プロジェクト

学外
連携プロジェクト

芸術学部 × 株式会社イマムラ・スマイル・コーポレーション ×
福岡県工業技術センター・インテリア研究所

9
産学連携推進
推進センター

12
つくし責任
つがひ責任

15
産学連携
推進センター



概要

福岡県筑後市で九州産の杉材を用いて、曲げわっぱ弁当箱を製造・販売している企業と福岡県と大学が連携した産学官プロジェクトです。参加した学生は、生活環境デザイン学科プロダクトデザイン専攻の3年生2名、2年生8名であり、学生を中心に若い世代が使いたくなる曲げわっぱ弁当箱を企画・デザインしました。提案したデザイン案の中から「ねこわっぱ弁当箱」と「わっぱ弁当箱 with カトラリー」(写真)が商品化されました。

期待できる学生のスキルアップ

- 商品企画力
- モデリング技術
- プレゼンテーション力
- コミュニケーション力
- チームワーク

No. 教育 [担当] 真島猛/趙瑞

33 みらいQラボ・キャラクターデザイン・プロジェクト



学部間連携プロジェクト
 芸術学部 ビジュアルデザイン学科 × 芸術学部 芸術表現学科



概要
 このプロジェクトでは、芸術学部のビジュアルデザイン学科と芸術表現学科の学生がキャラクターのデザインからショートムービーを制作します。キャラクターデザインは、世界観の設定からラフデザイン、カラーデザインの原画を制作し、原画を元に3Dモデリングを行います。今回は、キャラクターデザインの検証のため、3Dプリントしています。今後は、ストーリーを元に絵コンテを制作し、3Dモデルを使った実写とデジタルを融合したコマ撮りアニメーションを制作します。

期待できる学生のスキルアップ

- キャラクターデザイン
- 絵コンテ
- プランニング
- 3DCG
- アニメーション

No. 研究 [担当] 黄禧晶

34 八女紙工壁画プロジェクト第2弾



学外連携プロジェクト
 造形短期大学部 × (有)八女紙工



概要
 パブリックアート(公共美術)の実践として、段ボール・パッケージを製作する八女紙工の工場の外壁に壁画を制作しました。今年で第2弾となるこのプロジェクトでは実際に働く社員をモデルにした絵にすることで社員のモチベーションを上げ、アートに密接した会社のイメージアップに繋がっています。3日間の工程で造形短期大学部の学生3名と卒業生2名が参加しました。全員昨年(2021年)の第1弾に参加した学生であり、自分の絵が人の目や心に触れることに大きなやり甲斐を感じることが出来ました。

期待できる学生のスキルアップ

- パブリックアート実践
- アートセラピー体験
- 地域連携

No. 社会貢献 [担当] 水間景子

35 2021年度大麻乱用防止啓発ポスター制作



学外連携プロジェクト
 芸術学部 × 福岡県保健医療介護部薬務課



概要
 芸術学部ビジュアルデザイン学科の2、3年生を対象に、大麻乱用防止を訴求するポスター案を募り、1件の採用が決定しました。デリケートな側面もあることから福岡県保健医療介護部薬務課より表現方法やメッセージの確認とともに、デザインのブラッシュアップを行いました。決定したデザインは、大麻の葉がまるで人の手のように足に絡みつき、一度使うと簡単に抜け出せないことを表現。シンプルで目を引く構成と色使いで、若者の目に留まることを目的に制作しています。

期待できる学生のスキルアップ

- 問題発見力
- 課題解決力
- デザインスキル
- 大麻に関する正しい情報を得る

理工系

2021年度 KSUプロジェクト型教育 学部間・学外との取り組み事例

No.	タイトル	ページ	No.	タイトル	ページ
36	 食品開発研究会 規格外新漬けオリーブを用いたアイスクリームの開発(フードロス削減)	18	56	産学協同実践教育「プロジェクトベース設計演習」	26
37	 プロジェクトベース設計演習に基づくロボットコンテストなどへの参加	19	57	3学年で取り組む実大の木造建築物制作プロジェクト	27
38	 リノベーションプロジェクト	20	58	自然環境をとおした学生と地域との連携プロジェクト	
39	ICカードプロジェクト	21	59	社会との連携による土木系学生の学習意欲向上プロジェクト	
40	ICTを活用した地域公共交通の運行管理支援		60	食品開発研究会 ユズ絞り残渣を用いた商品開発	28
41	空き部屋を、新たな活動の部屋に変換「クラフト・キャンプ」		61	大学間連携による人材育成	
42	医工芸経連携によりリハビリ・介護プロセスを革新するロボット実用化研究拠点	22	62	立花口プロジェクト	
43	ABC 建築道場		63	段ボールを反射材・遮蔽材とした光と影の造形教育実践	29
44	ガイドボード戦隊「黒板ロボ」(糸島国際芸術祭の案内板)		64	地域密着型大学の子ども理科実験教室	
45	学生起業・障がい者就労支援カフェ in.out	23	65	積み木であかりのワークショップの実践(童話を題材とした読書感想光)	
46	学内招聘プロジェクト		66	テクノアートプロジェクト	30
47	協同組合福岡・大川家具工業会と連携した家具・雑貨開発および成果品の展示計画		67	デザインワークショップ	
48	ゲーム作ろうラボ	24	68	長崎・大村湾 HUB プロジェクト(コワーキングカフェ)	
49	建築系グローバル人材育成プロジェクト		69	2足歩行ロボット製作プロジェクト	31
50	建築設備におけるサステナブルデザインに関する環境調査		70	被災地における人々の健康的な生活と快適性のための居住環境調査	
51	県内地域活動団体による情報発信活動のICT支援	25	71	ふくおか IT Workouts (赤村)	
52	高校図書館における司書リファレンス業務記録システムの開発		72	福岡県内企業の発酵食品開発および農産物販促支援プロジェクト	32
53	国内外の環境技術に関する視察・体験を通じたデータベースの作成		73	プロジェクトマネジメントの実践研究-テクノアートプロジェクトを事例として-	
54	古民家で「すごしやすさ」の工夫を見つける	26	74	文理芸融合 6次産業プロジェクト	
55	サステナブルシティプロジェクト		75	「北欧の建築ガイドブック」出版プロジェクト	33
			76	無電力起立訓練補助器具プロジェクト	
			77	もくらふとプロジェクト	
			78	ロボメカ・デザインコンペ	34

No. 研究

[担当] 米満宗明/中山素一

36

食品開発研究会 規格外新漬けオリーブを用いた アイスクリームの開発（フードロス削減）



学 外
連携プロジェクト

生命科学部 × 大分県国東市農政課園芸畜産係



①オリーブの体験収穫 ②新漬けオリーブ(規格外)の粗砕 ③大分空港でのアイス試食・説明

オリーブ収穫体験から付加価値商品の開発、販売を実施。 仕事の大変さ、楽しさを学べるプロジェクト！

概要

大分県国東市はオリーブの産地で、オイル以外、新漬け(渋抜き後塩漬けた瓶詰)も生産しています。その生産過程で、傷物や大きさが小さいものは製品化されず、自家消費・廃棄となっており、それを使った付加価値商品の開発を依頼されました。テーマを始めるに当たり、先ず、国東市を訪問し、オリーブ収穫体験から実施し、仕事の大変さ、楽しさも学びました。加工に当っては、約30%を占める種にも抗酸化性があるとされるポリフェノール類が多く存在するという情報を基に、卒業研究

の4年生と一緒に、種ごとすり潰し、滑らかなペーストを調製し、それを用いたアイスを作成し、同市に提案しました。その結果、2021年12月に大分空港で開催されたオリーブフェアで期間限定で販売されました。販売に当たっては開発した学生も参画し、試食品の提供、大学で分析した本新漬けオリーブに含まれるポリフェノールの含量の説明も合わせて実施しました。川上(農産物)から川下(最終商品)まで一連のバリューチェーンが体験でき、実の多いプロジェクトとなりました。

参加者の声

オリーブの収穫体験で農家の方の優しさに触れました。しかし、頂いたオリーブの実から一つ一つ種を抜くのはとても大変でした。その後、種ごとペースト化に変更したので作業は楽になりましたが、作ったオリーブプリンやタルタルソース、オリーブバター、オリーブ麺などは特徴が出ず、「没」となり開発の難しさを知りました。しかし、アイスが製品になり、また販売促進活動に参画できたことは貴重な体験となりました。

川平 悠莉

生命科学部
生命科学科・3年
福岡県・博多高等学校



期待できる学生のスキルアップ

- 食品加工に関する実践力
- 食品バリューチェーンの理解
- SDGsの実践
- 山間部の現状理解

No.

教育

[担当] 澤田直/安武芳紘

37

プロジェクトベース設計演習に基づく ロボットコンテストなどへの参加



学 外
連携プロジェクト

理工学部 × ETソフトウェアデザインロボットコンテスト (ETロボコン) ×

九州組込みソフトウェアコンソーシアム (QUEST)



①ETロボコン九州北地区代表チーム展示 ②大会で走行中のロボット ③チャンピオンシップ大会における受賞

チームでプロジェクトを運営して、システム開発の 全工程を行う、将来の職業につながる貴重な経験！

概要

世界的にも珍しいソフトウェア重視の教育ロボコンであるETソフトウェアデザインロボットコンテスト (ETロボコン)へ出場しています。ロボットを意図した通りに動かすソフトウェアの開発は、大学で学んだプログラミングやモデリングの技術を実践する良い機会です。また、チームでプロジェクトを運営してシステム開発の全工程を行うことは、将来の職業につながる貴重な経験となっていま

す。これまで九州地区において大学や企業のチームと競い、総合優勝やモデル審査Gold Modelなどを受賞しました。全国大会に相当するチャンピオンシップ大会においても3位入賞など、さまざまな受賞歴があります。大学からは学生チームの支援だけでなく、コンテストの実行委員や開催地協力も行っています。

参加者の声

チームで1つのシステムを協力して作っていくことを通じて、報告・連絡・相談の大切さを実感し、それらを身に付けることができました。ロボットの機能は何度もトライ & エラーを繰り返して作っていくことができるので、新しいことにも挑戦することができました。これらの経験は就職活動の際には自己アピールの1つであり、さまざまな企業の方から興味を持っていただいています。

青木 海斗

理工学部
情報科学科・3年
福岡県・
光陵高等学校



期待できる学生のスキルアップ

- プロジェクトを管理・運営する能力
- 社会人や技術者とのコミュニケーション力
- 情報システムを設計する能力
- プログラミング技術

No. 社会貢献

[担当] 信濃康博

38 リノベーションプロジェクト

11 住み続けられる
まるつきり



12 つくる責任
つかう責任



学 外
連携プロジェクト

建築都市工学部 × 福岡県住宅供給公社



① 押入れを施工中 ② 215: 押入れをD.I.Y.リノベーション ③ 216: 収納ベンチの作成とふすまのリノベーション

「名島三の丸団地」の2室を学生がデザインし、自ら施工! D.I.Y. リノベーションするプロジェクト

概要

福岡市東区の福岡県住宅供給公社「名島三の丸団地」2号棟1階215、216号室の2室を学生によりD.I.Y.リノベーションするプロジェクトです。この2住戸は、誰もが購入できる材料で、誰もが手軽に作ることができる工法により、学生がデザインし、自ら施工も行いました。完成後は住民のみなさんがD.I.Y.をやりたいくなるような「D.I.Y.展示場」として利用します。この展示場を見た団地住民のみな

さんが、現在お住まいの住戸をD.I.Y.する「D.I.Y.文化」を団地内に広げようという目的です。材料や工法を描いたD.I.Y.パンフレットを作成し、団地住民のみなさんに対し、内覧会も行いました。これをきっかけに、団地住民によるD.I.Y.文化を学生と共に作っていき、団地に活気を取り戻したいと思っています。

参加者の声

このプロジェクトでは、団地2室のリノベーションデザインと施工、さらには内覧会の企画やポスター、パンフレットの作成までを信濃研究室で行いました。リノベーションやDIYなど座学では学べないことを実体験でき、より実社会に近い形でプロジェクトに取り組みました。自分で選んだ専攻分野ですが、こんなに心躍る活動は初めてで貴重な体験となりました。

小田原文

建築都市工学部
住居・インテリア学科・
3年



期待できる学生のスキルアップ

- 実際の団地住戸対象にリノベーションデザインを行うことで実務的デザインを学べる
- 自らデザインしたものを、実際に自ら作る(D.I.Y.)ことにより、作ることを前提としたデザインを学べる
- 団地住民に対し内覧会でプレゼンテーションを行うことで、実社会でのプレゼンテーションスキルをアップできる
- 福岡県住宅供給公社様との打合せを通して、コミュニケーションスキルをアップできる
- 実際の仕事に近い体験ができるので、就活時の面接スキルをアップできる

No. 39

教育

[担当] 田中康一郎/星野浩司

IC カードプロジェクト

学 外
連携プロジェクト

理工学部 × 芸術学部 ×
海の中道海洋生態科学館



概要

理工学部情報科学科では、2010年度から、産業界で即戦力になれる学生の育成を目標として、他学部の学生と連携して情報処理システムを開発する学部連携共通プログラムを開講しています。2021年度は、写真・映像メディア学科と情報科学科の学生が本プログラムに参加して、マリンワールド海の中道のためのスマートフォンアプリ「MarineWorld」を開発しiPhone版(2021年4月)とAndroid版(2021年7月)をリリースしました。

期待できる学生のスキルアップ

- 他学部学生とコミュニケーションをとりながら作業(共創力)
- アプリ開発に必要な実践的知識を修得(実践力)
- 自分の知識を他学部学生に教示(指導力)

No. 40

社会貢献

[担当] 稲永健太郎/末吉智奈佐/安武芳紘

ICT を活用した地域公共交通の運行管理支援

学 外
連携プロジェクト

理工学部 × 飯塚市 × 沖縄県うるま市 × 嘉麻市 × 古賀市 × 宗像市 × 宮若市 × 柳川市 × 芦屋町 × 遠賀町 × 刈田町 × 新宮町 × 須恵町 × 久山町 × 国土交通省九州運輸局 × 福岡県 × (日本工営(株)) × 新宮タクシー(株) × (株)古賀タクシー × (株)ヴァル研究所



概要

本プロジェクトでは、地域公共交通のDX化に向けて利用動向などのデータ収集や分析表示するシステムを開発しています。2021年度は須恵町とともに、車内案内表示や主要停留所付近に設置のデジタルサイネージの各機能を開発しました。また、沖縄県うるま市・日本工営(株)とともに乗降客数調査に取り組みました。乗換案内サービスへ提供する標準的なバス情報フォーマット(GTFS-JP)データ整備について、連携12市町を前年度に引き続き支援しました。

期待できる学生のスキルアップ

- 自治体が抱える課題に取り組むことによる解決力
- 自治体や企業関係者との連携によるコミュニケーション力
- ICTの活用によるアプリ/システム開発力
- 学外での成果発表によるプレゼンテーション力

No. 41

社会貢献

[担当] 福山秀親

空き部屋を、新たな活動の部屋に変換「クラフト・キャンプ」

学 外
連携プロジェクト

建築都市工学部 × 駅前不動産



概要

賃貸住宅が抱えている「空き部屋」をユーザーにとって、価値のある物件へと変換する取り組みです。従来の空き部屋を学生がリノベーションしました、という取り組みではなく、人口減少・賃貸住宅の総数と世帯数のバランスが崩れた現状を調査分析した上での本質的な問題解決の実施案を策定中です。

期待できる学生のスキルアップ

- 課題分析
- 調査データ処理
- 建築企画、計画

No. 研究 [担当] 牛見宣博/村上剛司/榊泰輔/下川俊彦/前田誠/青木幹太/松野尾仁美/西園秀嗣/間間理

42 医工芸経連携により リハビリ・介護プロセスを 革新するロボット実用化研究拠点

学 外
連携プロジェクト

理工学部 × 九州産業大学ヒューマン・ロボティクス研究センター ×
香椎原病院 × 総合せき損センター × ロボフューチャー(株) ×
(株)有富製作所 × CNP Design:田代雄大氏



概要
急激な超高齢社会の到来、リハビリ・介護現場の人手不足、また医療費節減のため、ロボットの導入が期待されています。高齢者・せき損患者のリハビリ支援ロボット・機器、生活介助ロボット・機器等を開発しています。基礎分野では、アクチュエータ、センサによる人の動き検出、モーション制御、またリハビリロボット・機器の事業モデル、製品デザインも行っていきます。人材育成分野では教育プロジェクトを実施しています。

期待できる学生のスキルアップ

- ロボットの実用化を通じ若手技術者を育成します。
- 現場ニーズを抽出し技術と組み合わせるスキルを学びます。
- 粘り強く考える力やコミュニケーション能力を磨きます。

No. 教育 [担当] 矢作昌生

43 ABC 建築道場

学 外
連携プロジェクト

建築都市工学部 × 熊本県 × 熊本市 × 九州大学 ×
福岡大学 × 熊本大学 × 佐賀大学 × 鹿児島大学 など



概要
ABC建築道場は建築都市工学部建築学科の学生を中心に建築設計能力向上のために日々修練を行なっている団体です。具体的な活動は、毎週テーマを自分たちで決めて建築作品を模型で表現し議論を行う「しゅうまい」、活動展の企画と会場デザイン、第一線で活躍している建築家を招聘する講演会の企画、九州内の大学で連携して被災地の支援を行なっている「KASEI Project」への参加などです。熊本地震の時には、学生が応急仮設団地に集会所を2棟設計して実現しました。

期待できる学生のスキルアップ

- 問題発見力
- 課題解決力
- デザイン能力
- コミュニケーション
- 継続的に修練できる力

No. 社会貢献 [担当] 舘見泰彦

44 ガイドボード戦隊「黒板ロボ」 (糸島国際芸術祭の案内板)

学 外
連携プロジェクト

建築都市工学部 ×
糸島芸農(糸島国際芸術祭実行委員会)



概要
糸島国際芸術祭のテーマは「身体尺度」でした。「黒板ロボ」はサブロクバンのシナベニヤ1枚から無駄なく1体が切り出される、ロボット型黒板仕様の案内板です。サブロクバンは3尺×6尺(910mm×1820mm)の板で、畳一帖、すなわち大人ひとりが寝た時に必要なスペースとされ、テーマの「身体尺度」とも合致します。会場エリアに点在する25のアートやパフォーマンスの鑑賞を支援し、回遊性の促進を目的としました。日本産業技術教育学会奨励賞を受賞しました。

期待できる学生のスキルアップ

- 学生が考えたこと・作ったもので地域社会の役に立つことを学生自身が実感できる研究
- 図面や模型では終わらない実現を目指す挑戦と社会的な評価が伴う住居・インテリア学修
- スキルの活用とプランの実行

No.
45

社会貢献

[担当] 福山秀規

学生起業・障がい者
就労支援カフェ in.out学 外
連携プロジェクト建築都市工学部 × (株)キール ×
本学オープンイノベーションセンター

概要

障がいのある方の就労支援を企業理念とする、在校生と卒業生による起業されたカフェのブランディングデザインに取り組みます。空間やグラフィック、ユニフォーム、パッケージのデザインを総合的に行います。

期待できる学生のスキルアップ

- 課題発見
- 課題に対する計画案提示
- デザインに関するプレゼンテーション力
- デザインを実施に向けた発注・制作監理
- デザインを実施に向けたコスト管理

No.
46

教育

[担当] 矢作昌生

学内招聘プロジェクト

学 外
連携プロジェクト建築都市工学部 × 中山英之 × 西澤哲夫 ×
増田信吾 × 木村吉成 × 井手健一郎 × 清原昌洋 ×
小林哲治 × 古森弘一 × 松山将勝

概要

1年に4回程度、第一線で活躍している建築家など専門家を招聘して講演会を企画・開催し、学生の専門知識やモチベーションの向上を目指し、自身の将来像を描けることを目的とします。最終講演会の際には、講演者の他に建築家など専門家を6名招聘し、同時に卒業設計講評会を開催しました。学生は頂いた講評を受け止め、学外の卒業設計展へ向けて更なる向上を目指しています。成果として講演者の事務所への就職やインターシップの受入れ、大学院(研究室)への進学などに繋がっています。

期待できる学生のスキルアップ

- 専門知識の向上
- 修学意欲の向上
- 将来像を描く参考になる
- 人脈形成

No.
47

教育

[担当] 青木幹太/佐藤昭則/吉村祐樹/飯田真生

協同組合福岡・大川家具工業会
と連携した家具・雑貨開発および
成果品の展示計画学 外
連携プロジェクト建築都市工学部 × 芸術学部 ×
協同組合福岡・大川家具工業会

概要

本プロジェクトは2012年度から始まり2021年度で10年目になります。コロナ禍の中、学生と企業がリモート形式でやりとりし、家具製品の開発・提案を行いました。また、建築都市工学部住居・インテリア学科の学生たちは、成果品を展示する会場の計画も行いました(2022年4月6日~4月10日、大川産業会館にて)。展示会場の事例調査、プレゼンテーション資料の作成、会場の設営・管理・撤収まで、一連の流れを経験しました。

期待できる学生のスキルアップ

- 実践力が身に付く
- 社会人としてのコミュニケーション能力が身に付く
- 他者と共に働く力が身に付く
- チームをまとめあげる統率力が身に付く
- 実社会と関わることで進路選択にも役立っている

No. 48 教育 **ゲーム作ろうラボ**

[担当] 隅田康明/合志和晃/真島猛



学部間連携プロジェクト **理工学部** × **芸術学部**



概要
芸術学部学生と理工学部学生が、チームを組んでゲーム制作を行うプロジェクトです。皆さんにとって身近なアプリケーションであるゲームを題材として、チームでの制作活動を行うことによって、プログラミングやデザインのスキルだけでなく、コミュニケーション能力・責任感といった社会で必要とされるスキルを実践的に学びます。また、定期的に成果を学内外に発表することで、プレゼンテーション能力も身に付けます。

- 期待できる学生のスキルアップ**
- ゲームを自身で設計し、実装することによる、プランニング能力・アプリケーション開発能力
 - 複数人チームによる制作活動によるコミュニケーション能力
 - 最新の情報をリサーチすることによる情報収集能力
 - 発表を行うことによるプレゼンテーション能力

No. 49 教育 **建築系グローバル人材育成プロジェクト**

[担当] 深川健太



学外連携プロジェクト **建築都市工学部** × **Artlingual Institute Johan Francois氏** × **チュラロンコン大学 Narm 教授**



概要
近年、多種多様な分野においてグローバル化が進んでいます。日本国内でも多くの外国人旅行者や労働者が散見されるようになりました。結果として、国内の建築分野においても、外国人作業員が増加しています。そのため、グローバル社会に対応可能な建築技術者のニーズが高まっています。以上の観点から、本プロジェクトでは、国際交流ならびに海外における建築技術教育の動向調査を通じてグローバル人材を育成することを目的としています。今年度はコロナ禍のため、海外渡航の代わりに福岡在住の英語を母国語とする教員や世界的な環境技術を有する研究者ならびに海外の研究者との交流を、対面ならびにZoomを用いて行いました。

- 期待できる学生のスキルアップ**
- 計画立案能力
 - コミュニケーション能力
 - 自発性および行動力
 - 英語力

No. 50 研究 **建築設備におけるサステナブルデザインに関する環境調査**

[担当] 香川治美



学外連携プロジェクト **建築都市工学部** × **亀屋硝子株式会社** × **株式会社サンゲツ** × **株式会社ジャパニシールド** × **福岡市教育委員会** × **宗像市教育委員会** × **大分市教育委員会** × **株式会社三建設工業**



概要
建築設備におけるサステナブルデザインの環境調査を行うために、本学8号館の窓ガラスに高性能フィルムを施工し、その効果を検証しています。その取組は「ガラス・建装時報」(2022年新年特別号)で紹介されました。またサステナブルデザインの定量評価法を探るため、大学近隣の公立小学校で教室内環境調査も実施しました。取り組んだ学生の一人は、成果を2021年度空気調和・衛生工学会九州支部ポスター部門で発表し、学会の優秀賞と、本学の学長賞を受賞しました。

- 期待できる学生のスキルアップ**
- 人間関係構築力
 - 省エネ性能や快適性能などの居住環境調査技術
 - 環境工学・建築設備の専門的技術力
 - 課題発見ならびに解決策提案できる専門的思考力
 - 成果をわかりやすく伝える力

No. 51

社会貢献

[担当] 稲永健太郎 / 末吉智奈佐

県内地域活動団体による 情報発信活動のICT支援

学 外
連携プロジェクト

理工学部 × 千早校区自治協議会 ×
香椎校区自治協議会 × 香住丘校区自治協議会 ×
特定非営利活動法人まちづくり宗像 ×
古賀市コスモス広場



概要

2014年から福岡市東区千早校区自治協議会、2015年からは同区香椎校区および香住丘校区自治協議会、2017年からは宗像市日の里地区の「CoCokaraひのさと」、2020年からは「古賀市コスモス広場」といった各種地域活動団体に対して、ウェブサイトの構築もしくはそのサーバ管理などの運用における技術支援を行っています。2019年度には、長年の支援活動に対して香住丘校区自治協議会より感謝状が贈られました。

期待できる学生のスキルアップ

- ICTを活用した社会・地域貢献のための実践力
- 課題を抱える方々との連携によるコミュニケーション力
- インターネットでの情報発信のための技術力

No. 52

社会貢献

[担当] 稲永健太郎

高校図書館における 司書リファレンス業務 記録システムの開発

学 外
連携プロジェクト

理工学部 ×
NPO法人フードバンク日向 (前 宮崎県立日向高等学校
学校司書コーディネーター 宇野鮎子氏)



概要

2020年度に宮崎県立日向高等学校の図書館(前 宮崎県立日向高等学校学校司書コーディネーター宇野鮎子氏)と連携して、司書リファレンス業務の改善を目的とした業務記録システムの開発に着手しました。司書によるリファレンス業務は、利用者の相談に応じ資料探しを支援する業務のことを指します。2021年度は前年度に引き続き司書業務の専門家の助言を得ながら、システムの改良による次バージョンの開発および評価を実施しました。

期待できる学生のスキルアップ

- ICTを活用した社会・地域貢献のための実践力
- 課題を抱える方々との連携によるコミュニケーション力
- ICTの活用によるアプリ/システム開発力

No. 53

教育

[担当] 深川健太

国内外の環境技術に関する視察・ 体験を通じたデータベースの作成

学 外
連携プロジェクト

建築都市工学部 ×
椋山女学園大学 藏澄教授 ×
呉高専 大和教授



概要

現在、地球規模での気候変動が問題となってきています。そのため、新たな社会のあり方を目指す取り組みが多くなされてきています。持続可能な社会の実現には、消費エネルギーの削減や環境に配慮した建築物が求められています。これらの実現に向けて、該当する技術を用いた建物を実際に視察し、調査する経験を学生時代に積むことは、社会に出てから重要な資産となります。そのことを念頭に、今年度は実際に社会で働く技術者との情報交換会や最先端の環境技術に用いる人体モデルを3Dプリンタを用いて作成する講習会を実施しました。

期待できる学生のスキルアップ

- 計画立案能力
- コミュニケーション能力
- 自発性および行動力

No. 研究

[担当] 香川治美

54 古民家で「すごしやすさ」の工夫を見つける

学 外
連携プロジェクト

建築都市工学部 × (株)スエナガ × JA福岡市 × (株)ゼンリン × ESRIジャパン(株) × 安心計画(株)

3 大学のICT
授業と連携9 産学と連携
授業と連携11 産学連携
授業と連携

概要

COVID-19対策を考慮して、現場を訪れる回数を減らして、ICTや3DCAD、VR、地理情報システムを利用して「すごしやすさ」の工夫を見つける方法を探っています。古民家をグループホームとして活用するリノベーションと、福岡市の障がい者グループホーム不足の状況がわかってきました。成果を、日本建築学会第44回情報・システム・利用・技術シンポジウム(12月)とグループホーム内覧会で発表しました。学生の一人は、連携先に就職が決まりました。

期待できる学生のスキルアップ

- 人間関係構築力
- 3DCAD、VR、GISなどの情報システムを利活用する力
- 環境工学・建築設備の専門的技術力
- 課題発見ならびに解決策提案できる専門的思考力
- 成果をわかりやすく伝える力

No. 教育

[担当] 深川健太

55 サステナブルシティプロジェクト

学 外
連携プロジェクト

建築都市工学部 × 広島大学大学院 西名教授 ×

宗像市役所(世界遺産課) × 都城市市議会議員(中村千佐江議員)

11 産学連携
授業と連携3 大学のICT
授業と連携1 産学連携
授業と連携

概要

近年、日本では、都市部への人口流出による地方の過疎化や、当該地域での高齢化や空き家問題なども並行して発生し、社会問題となっています。そのため、地方の活性化は日本にとって最重要課題の一つといえます。そこで、本プロジェクトでは、福岡県宗像市に所在する、地域資源および環境資源を学生活動を通じて、建築学的な視点から評価を行いました。また、過疎化が進行する都市として、都城市の中村千佐江市議会議員を招聘し、当該都市における取り組みなどについて講演してもらい、将来の地方都市のあり方について検討を行いました。

期待できる学生のスキルアップ

- 計画立案能力
- コミュニケーション能力
- 自発性および行動力

No. 教育

[担当] 稲永健太郎/下川俊彦/成凱/澤田直/安武芳紘/于海波/三牧弘司/富永桂

56 産学協同実践教育「プロジェクトベース設計演習」

学 外
連携プロジェクト

理工学部 × (SCSK九州(株))

4 産学連携
授業と連携

概要

地元IT企業から現役技術者をインストラクターとして授業に迎え、少人数でのシステム開発プロジェクトを実施しています。システム開発プロジェクト管理の実際を体験・理解でき、実践的な高度専門教育を在学中に受けられます。この演習は2004年度以降継続実施されており、全国的にも先進的かつ実践的な取り組み事例として紹介されています。2013年度には経済産業省「社会人基礎力を育成する授業30選」に選出されるなど、各方面で高評価を受けています。

期待できる学生のスキルアップ

- システム開発の実際を体験することによる設計開発力
- 現役技術者の指導や関わりによるコミュニケーション力
- 成果発表会への参加によるプレゼンテーション力
- IT業界の業務内容を理解することによる、就職や授業へのモチベーション

No. 57

教育

[担当] 福山秀親/諫見泰彦/香川治美/北山広樹/小泉隆/信濃康博/白川敏夫/松野尾仁美/吉村祐樹

3学年で取り組む実大の木造建築物制作プロジェクト

学外
連携プロジェクト

建築都市工学部 × ㈱住幸房



概要

実際のサイズの木造建築物を制作し、図面上では気づくことができない細部を観察しながら、その気づきを設計の工程へフィードバックすることができます。制作の過程で、木組みや仕口など実物を見ることで、木造建築への理解も深まります。他大学ではあまり見られない、木造軸組の仕組みを学ぶ取り組みです。また、チームで取り組むことで、建築におけるコミュニケーションや役割分担の重要性を、制作の過程で気づくことができます。2021年度は、三角屋根の案を製作しました。

期待できる学生のスキルアップ

- 木造に関する技術・技能を修得し、創造力・実践力を発揮できる。
- 多様な人々とコミュニケーションを行い、熱意を持って社会の発展に貢献できる。
- 広い視野を持って、主体的に他者と協力できる。

No. 58

社会貢献

[担当] 内田泰三

自然環境をととした学生と地域との連携プロジェクト

学外
連携プロジェクト

建築都市工学部 × 阿蘇市波野中江牧野組合 ×

山川河流域会議 × 立花山グリーンガイドの会 ×

新宮町おもてなし協会 など



概要

本学を取巻く豊かな自然環境の保護・保全のあり方を、学生と地域住民との関わりの中から考えます。さらに、熊本地震からの復興にも注力すべく、昨今では熊本市内や阿蘇地域での活動も展開しています。2021年度は、例えば、次のような活動を実施しました。

- ① 魚とり教室&そうめん流し(竹林管理で出た竹を利用)をしよう!
- ② みんなで野草のたね採り in 荻岳「阿蘇の自然再生を目指して」
- ③ 白岳カノコソウ保全活動
- ④ 和白干潟自然観察会 など

期待できる学生のスキルアップ

- 学生たちが自ら地域自治体と連携を図っていくことで、学生たちの積極性・自発性・協調性などを育みます。
- 大学で学んだ知識を自ら地域に還元することで、学習の意義を再認識してもらいます。
- プロジェクトをととして、持続可能な発展への理解を深めます。

No. 59

教育

[担当] 林泰弘

社会との連携による土木系学生の学修意欲向上プロジェクト

学外
連携プロジェクト

建築都市工学部 × 土木学会西部支部 ×

鹿児島大学 × 佐賀大学 × 西日本工業大学 ×

㈱森本組 × ㈱水野建設コンサルタント



概要

学会や他大学、民間企業などの専門家と連携した課外活動を通じて、建設業界や建設技術、建設技術者の現状を理解し、学修意欲の向上を図ります。具体的には、①現場見学会、実務技術者との交流会の実施、②現地調査・現場実験、研究委員会への参加、③一般市民や生徒・児童向けの模擬実験、体験実習の企画・実施、④他大学との研究交流会の実施などを行います。

期待できる学生のスキルアップ

- 専門知識獲得に向けた学修意欲向上
- 就職に向けた業界知識の獲得
- コミュニケーション能力の向上
- 専門知識の深化

No. **60** **研究** [担当] 米満宗明／中山素一

食品開発研究会
ユズ絞り残渣を用いた商品開発

学 外 連携プロジェクト **生命科学部** × **熊本県八代市農林水産部** × **(株)食品計画**



概要
熊本県八代市特産のユズは、収穫後多くは、絞られユズ果汁となりますが、絞り粕（果皮など）は、一部飼料に利用されているものの、廃棄も多いです。そこで、食品研究会で、その皮を利用し、砂糖漬け／チョコ掛けし、ユズチョコを開発しました。2022年3月より、外部生産委託され、八代市道の駅（よかとこ物産館）で販売されています。

- 期待できる学生のスキルアップ**
- 食品加工に関する実践力
 - 食品バリューチェーンの理解
 - SDGsの実践

No. **61** **教育** [担当] 石田俊一

大学間連携による人材育成

学 外 連携プロジェクト **理工学部** × **福岡工業大学** × **大分大学**



概要
研究内容や進捗状況に関わらず、連携している大学教員が担当する多くの学生を広く対象にして学会発表の機会の提供や他大学の研究室との情報交換を行います。これにより大学の枠を超えた学生同士での情報交換、プレゼンテーション、質疑応答を通じて自発的な研究への意識、意欲の向上のほかプレゼンテーション力やコミュニケーション力の向上が出来ます。さらに他分野、他大学の教員が協力して学生を観察、指導することで連携した人材育成を行います。

- 期待できる学生のスキルアップ**
- コミュニケーション力
 - プレゼンテーション力
 - 問題解決力

No. **62** **社会貢献** [担当] 松野尾仁美

立花口プロジェクト

学 外 連携プロジェクト **建築都市工学部** × **新宮町** × **地元まちづくり団体TAP** × **柳川暮らしつぐ会**



概要
古民家の実測調査やまちあるき調査を行い、古民家活用の方法を考えるプロジェクトです。今年度は、柳川で歴史的資源の活用などに取り組む（一社）柳川暮らしつぐ会と連携しながら、柳川の武家屋敷の活用などの調査・研究を行いました。年度末には「大学生が提案する武家屋敷を生かした柳川のまちづくり」と題し、武家屋敷の活用方法を提案しました。その他には、八女福島重要伝統的建造物群保存地区でのまちあるきや立花口で修理事業が終了した古民家の見学も行いました。

- 期待できる学生のスキルアップ**
- 古民家の実測調査やまちあるき調査による建物や景観に関する知識の修得
 - 全国の事例調査や地元まちづくり団体との意見交換によるまちづくりの知識の修得
 - 地元住民との交流によるコミュニケーション能力の向上

No. 63

教育

[担当] 舘見泰彦

段ボールを反射材・遮蔽材とした光と影の造形教育実践

学 外
連携プロジェクト

建築都市工学部 ×

小田原短期大学保育学科通信教育課程延岡スクール



概要

「光と影の美」を主題とした子どもの遊び環境の創造に関する研究に関連し、子どもが体験的に学ぶ造形教育や、その指導者育成に従事しています。光源にLED、反射材・遮蔽材に段ボールを使用して造形しました。LEDには、あかりの結果に意外性があり、魅力的な造形教育ができます。段ボールには、加工方向で材料強度や造形難度に差異が生じます。反射・遮蔽効率が高く、造形が複雑なほど美しさが向上することを理解したなど、あかりの使用効果や段ボールの造形材料の性質を学修しました。

期待できる学生のスキルアップ

- 学生が考えたこと・作ったもので地域社会の役に立つことを学生自身が実感できる研究
- 図面や模型では終わらない実現を目指す挑戦と社会的な評価が伴う住居・インテリア学修
- スキルの活用とプランの実行

No. 64

社会貢献

[担当] 平山智之

地域密着型大学の子ども理科実験教室

学 外
連携プロジェクト

生命科学部 × 理科学研究会 × 学外連携課 ×

福岡市科学館 × 地域公民館 など



概要

私たちは「作る、遊ぶ、学ぶ」をテーマに、小学生を対象とした理科実験教室を年4～5回、学内外で開催しています。毎回異なる内容の科学実験とマジックショーを実施しており、参加者からはいつも高い評価を得ています。当活動では、子どもたちに科学の楽しさと「なぜ?」「どうして?」を伝えることを通じて、学生の探求心・計画立案能力・指導力・社会性の育成に加え、延いては「日本の産業界で活躍する科学者になりたい!」と思う学生の増加に貢献することを目的としています。

期待できる学生のスキルアップ

- 化学における専門知識
- 子どもたちに対する伝える力(教育力)
- 主体性、責任感
- 集団行動・公共心

No. 65

社会貢献

[担当] 舘見泰彦

積み木であかりのワークショップの実践 (童話を題材とした読書感想光)

学 外
連携プロジェクト

建築都市工学部 × 長門おもちゃ美術館 ×

きみきみよの童話の部屋 ×

国立青少年教育振興機構



概要

私たちは「あかりの良否は光源・反射材・遮蔽材のバランスによる」との知見を子どもたちが学ぶワークショップを実施しています。あかりの行事、ひかりの現象を見ながら旅する主人公・紙飛行機の「こーき」が語る題材童話には絵がありません。童話を讀んだ子どもたちが、積み木とあかり(LED)を使ってそれを造形表現し、この童話を絵本として完成させます。子どもたちのあかりの表現を、私たちは「読書感想光」とよんでいます。成果はこども環境学会大会で発表しました。

期待できる学生のスキルアップ

- 学生が考えたこと・作ったもので地域社会の役に立つことを学生自身が実感できる研究
- 図面や模型では終わらない実現を目指す挑戦と社会的な評価が伴う住居・インテリア学修
- スキルの活用とプランの実行

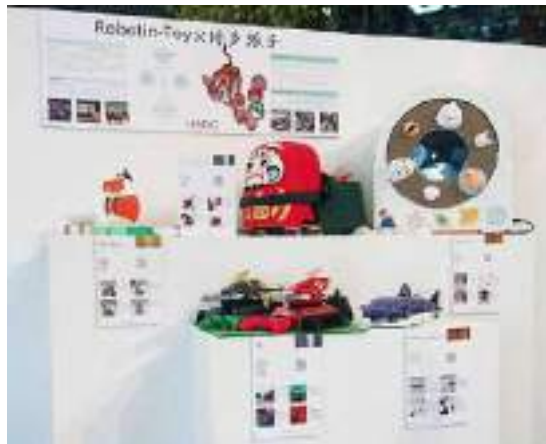
No. **66** **教育** [担当] 牛見宣博/青木幹太/佐藤昭則/下川俊彦/村上剛司/榊泰輔/貞方敦雄/鷹野重之/松野尾仁美/間間理

テクノアートプロジェクト

学部間連携プロジェクト

理工学部 × 芸術学部 × 建築都市工学部 × 商学部 × 福岡科学館 × CNP Design:田代雄氏

4 専攻の深い専攻をみながらに 9 専攻と連携専攻の専攻を持つ



概要
 ロボット開発の技術とプロダクトデザインを組合せ、実践的なものづくり活動を体験します。芸術学部の斬新なアイデアを、理工学部の技術で具現化する、学部間の相乗効果が発揮されるプロジェクトです。2021年度は「先端技術+博多張子」をテーマに、理工学部がセンサ・マイコン・LED・モーター・ソフトウェアなどの技術、芸術学部が企画とデザインを担当しました。作品は2022年2月に開催された「九産大プロデュース展2022」において一般公開されました。

- 期待できる学生のスキルアップ**
- デザインや技術の基礎知識と応用力を養います。
 - コミュニケーション能力が向上します。
 - 専門分野を越えた幅広い視野を持つことができます。

No. **67** **教育** [担当] 矢作昌生

デザインワークショップ

学外連携プロジェクト

建築都市工学部 × 日本建築学会九州支部北福岡会 × 釜山大学 × 東亜大学 × 東西大学 × 九州工業大学 × 北九州市立大学 など

4 専攻の深い専攻をみながらに



概要
 国内外のワークショップや卒業設計講評会などに参加して、大学の枠組みを越えて自己研鑽しました。建築の甲子園と言われている「SDL卒業設計日本一決定戦2022」では、405名の応募者の中からファイナリスト(11選)に選出されました。「デザインレビュー2022」では395名の応募者の中からファイナリスト(10選)に選出されJIA賞を受賞しました。「第23回建築展日韓合同学生ワークショップ(2021年)」では、「変わらないもの、変わるもの」という課題に対し、「不易流行」という作品を発表しました。

- 期待できる学生のスキルアップ**
- 建築デザイン能力の向上
 - 課題解決能力
 - プレゼンテーション能力
 - チームワークによる協調性
 - 国内外の学生との交流を通じたコミュニケーション能力

No. **68** **社会貢献** [担当] 舘見泰彦

長崎・大村湾HUBプロジェクト (コワーキングカフェ)

学外連携プロジェクト

建築都市工学部 × De-Signグループ × 大村湾商事

4 専攻の深い専攻をみながらに 11 日本製材から学ぶ 17 日本インテリア学会九州支部長賞



概要
 大村市本町通り商店街にある2階建ての空き店舗を、HUB機能を持つコワーキングカフェとして再生し、新幹線・新大村駅新設に伴い注目される、既存の大村駅周辺の再活性化の一助になることを睨んだプロジェクトです。学生は再生のための設計案の口頭発表、ポスターや模型の展示発表、提案のためのワークショップ、大村市民へのプレゼンテーションを実施しました。施工に携わりカフェの実現にも寄与しました。プロジェクトは日本インテリア学会九州支部長賞を受賞しました。

- 期待できる学生のスキルアップ**
- 学生が考えたこと・作ったもので地域社会の役に立つことを学生自身が実感できる研究
 - 図面や模型では終わらない実現を目指す挑戦と社会的な評価が伴う住居・インテリア学修
 - スキルの活用とプランの実行

No. 69

教育

[担当] 牛見宣博

2足歩行ロボット製作プロジェクト

学外
連携プロジェクト理工学部 × 九州大学 × 福岡工業大学 ×
九州ロボット練習会 × 福岡市科学館

概要

理工学部機械工学科では、学生のものづくり活動を支援するために「ロボット工房」を設置しています。主な活動は2足歩行ロボットの開発とロボット競技会への出場です。プロジェクトに参加する学生は、実際に設計、部品加工、組立といったロボット製作の一連の過程を実践的に経験し、自ら新しいロボットを開発していきます。オープンキャンパスや展示会への参加、交流活動も行っています。

期待できる学生のスキルアップ

- 自ら新しいロボットを開発する創造性や自主性
- ロボットのトラブルに迅速に対応できる柔軟性
- 他大学の学生や社会人技術者らとの人脈作りや協調性

No. 70

研究

[担当] 香川治美

被災地における人々の健康的な生活と快適性のための居住環境調査

学外
連携プロジェクト建築都市工学部 × 人間科学部 × 福岡パッケージ㈱ ×
九州計測器㈱ × 江藤電機㈱ × 北九州市立大学 ×
ソーシャルマッチ㈱ × カンボジア起業家

概要

段ボールベッドの居心地を評価する実験を、避難施設でもある本学の大会館アリーナで行い、利用者の心理・生理や環境物理の測定データの変動から、居心地を定量把握できるようにしました。また被災地での応用を考えるために、居住環境を設計デザインする新興国の社会課題解決オンライン・インターンシップに取り組みました。成果を第45回人間生活環境系シンポジウムと2021年度日本建築学会九州支部で発表し、学生の一人は、市役所建築技術職に就職が決まりました。

期待できる学生のスキルアップ

- 人間関係構築力
- 居心地定量評価技術
- 建築都市デザイン基礎力
- 課題発見ならびに解決策提案できる専門的思考力
- 成果をわかりやすく伝える力

No. 71

社会貢献

[担当] 田中康一郎

ふくおか IT Workouts (赤村)

学外
連携プロジェクト

理工学部 × 福岡県田川郡赤村



概要

2014年度は福岡県による2014年度試行事業として、2015年度以降はFITW (Fukuoka IT Workouts) として福岡の5大学 (九州産業大学、九州大学、九州工業大学、福岡大学、福岡工業大学) で継続して人材育成連携事業を行っており、その中で福岡県田川郡赤村との協業事業を継続実施しています。本年度も、iPhoneとAndroid用のスマートフォンアプリ [Akamura] の開発を行いました。

期待できる学生のスキルアップ

- 地域社会の抱える課題を理解できる。
- スマートフォンのアプリが開発できる。
- スマートフォンと連携するサーバを構築・運用できる。

No. **72** **教育** **福岡県内企業の発酵食品開発
および農産物販促支援プロジェクト** [担当] 満生慎二



学 外 連携プロジェクト

生命科学部 × (株)カラーリングファーム
(有)うめ屋 × (資)若竹屋酒造場 ×
(株)リーディングラボ

3 卒後10年以内
就職先企業数
9 卒業生が活躍する
企業数(件数)

概要

①ラディッシュのビタミンCの分析を6カ月間にわたって行い、栄養機能性食品としての販売の可能性を証明しました。
②チョコレートの原料であるカカオ豆には有用微生物は存在しておらず、選抜した有用微生物を用いて発酵する必要があることを証明しました。
③マッコリ様の乳酸菌を使用した新ジャンルの醸造酒の開発を行った結果、使用する微生物種および製造条件を確立することに成功しました(2022年中に製造・販売の予定)。

期待できる学生のスキルアップ

- 企画力
- 開発力
- プレゼンカ

No. **73** **教育** **プロジェクトマネジメントの実践研究
-テクノアートプロジェクトを事例として-** [担当] 牛見宣博/青木幹太/安熙卓



学 部 間 連携プロジェクト

大学院工学研究科 × 大学院全研究科 ×
芸術学部 × 理工学部

4 専攻の深い専攻を
みながら
9 卒業生が活躍する
企業数(件数)

概要

大学院共通科目「プロジェクト実践演習」において、芸術系、理工系による学部間連携授業であるテクノアートプロジェクトをマネジメントします。大学院生は、プロジェクトに関わる企画、開発、経過報告、最終発表、展示・公開の全過程をマネジメントし、実践的な業務を通して社会における製品開発の予備体験を行います。活動を通して、コミュニケーション能力や調整能力のレベルを高め、大学院修了後に社会で通用する力を養っています。

期待できる学生のスキルアップ

- プロジェクトマネジメントによる決断力、考える力
- 異分野、異学年との交流を通じた指導力
- 人脈づくりを通じたコミュニケーション力、協調性

No. **74** **社会貢献** **文理芸融合 6 次産業
プロジェクト** [担当] 高杉美佳子/礒部信一郎/金田弘孝/北島己佐吉/千相哲/釜塚文孝/鶴田和寛



学 外 連携プロジェクト

生命科学部 × 芸術学部 × 地域共創学部 ×
理工学部 × (株)アガペファーム

3 卒後10年以内
就職先企業数
12 卒業生が活躍する
企業数(件数)
17 海外インターンシップ
実施企業数(件数)

概要

株式会社アガペファームと生命科学部、芸術学部、地域共創学部、理工学部が連携し、機能性表示食品ジンジャーシロップ「生姜柑」を開発しました。生命科学部は機能性成分の分析と文献精査を行い、製品には気温や室温が低い際に末梢部位の体温を維持する機能があることを示し、消費者庁への機能性表示食品の届出に貢献しました。芸術学部はパッケージデザインを、地域共創学部はブランディング・マーケティングリサーチを、理工学部はIoT農業による原料生産の安定化に関する調査を行いました。

期待できる学生のスキルアップ

- 問題発見力
- 課題解決力
- データ分析力
- 論理的思考力

No. 75

研究

[担当] 小泉隆/松野尾仁美/信濃康博/吉村祐樹

「北欧の建築ガイドブック」出版プロジェクト

学 外
連携プロジェクト

建築都市工学部 × 学芸出版社



概要

2020年度KSUプロジェクト型授業「北欧の建築・デザインに関する現地調査とガイドブック出版プロジェクト」から継続して作業をしてきた書籍が、『北欧建築ガイド 500の建築・都市空間』（学芸出版社、2022年3月）として出版されました。デンマーク、スウェーデンなど北欧五カ国の建築を紹介するガイドブックで、学生とともに国内外の資料を多数収集し、手分けして編集・執筆作業を行いました。参加学生の名前も著者の一員として書籍にクレジットされています。

期待できる学生のスキルアップ

- 北欧の建築・デザインを学べる
- 調査・執筆・編集能力の向上
- 共同作業などにおける協調性の向上
- 書籍が実際に出版される過程を学べる

No. 76

研究

[担当] 牛見宣博/青木幹太

無電力起立訓練補助器具プロジェクト

学 部 間
連携プロジェクト理工学部 × 芸術学部 ×
CNP Design: 田代雄大氏

概要

起立訓練は、下肢筋力の強化へ非常に有効なリハビリテーションとして実施されています。この起立訓練を一般家庭において実施するためには、安価で簡易的に利用可能な補助器具の開発が望まれています。本プロジェクトでは、起立訓練を行う患者の方をサポートする無電力による補助器具の研究・開発を行っています。2021年度の成果は、2022年2月に開催された「九産大プロデュース展2022」で展示されました。

期待できる学生のスキルアップ

- 現場ニーズを抽出し技術と組み合わせるスキルを学びます。
- 粘り強く考える力やコミュニケーション能力を磨きます。
- リハビリ装置の実用化を通じ若手技術者を育成します。

No. 77

教育

[担当] 松野尾仁美

もくらふとプロジェクト

学 外
連携プロジェクト建築都市工学部 × (株)ベガハウス ×
股旅社中

概要

学外の住宅設計施工会社と連携し、授業の枠を超えた木造住宅に関する専門知識を学んでいます。2021年度は、鹿児島県の(株)ベガハウスの社屋にて、即日設計ワークショップや住宅で使用する木材を学ぶワークショップを実施しました。また、住宅と家具の関係を学ぶために、家具デザイナーによるオンラインレクチャーも実施しました。プロジェクトでは学外の実務家の仕事に触れることができるとともに、交流を通して木造住宅に携わる働き方を考える機会となっています。

期待できる学生のスキルアップ

- 即日設計会や建築家のレクチャーを通しての木造住宅の設計力の向上
- 学外の実務家とのやりとりを通じてのコミュニケーション能力の向上
- 造作家具や造園の実践的ワークショップによる住宅に関する知識の修得

ロボメカ・デザインコンペ

学 外
連携プロジェクト

理工学部 ×

日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス部門 ×

福岡市科学館



概要

一般社団法人日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス部門主催の九州地区競技会「ロボメカ・デザインコンペ」に参加し、ロボット・メカトロニクス製品の企画とデザインを競います。2021年度はコロナ禍を意識した「健康、教育、観光、地域産業の振興に貢献するテレオペレーション、テレロボティクスのための独創的ロボメカデザイン」をテーマとしました。最終審査において、本学のチームが「佳作」を受賞しました。



期待できる学生のスキルアップ

- デザインや技術の基礎知識と応用力を養います。
- コミュニケーション能力が身に付きます。
- チームで協力して取り組む力が身につきます。

文系

2021年度 KSUプロジェクト型教育 学部間・学外との取り組み事例

No.	タイトル	ページ	No.	タイトル	ページ
79	 古典“再生”プロジェクト	36	91	経済学・生態学・芸術学による 生物多様性価値の多面的評価	43
80	 実践企画演習	37	92	高校生のための Presentation Bootcamp (英語プレゼンテーション集中特訓)	
81	 プロサッカー選手の トレーニング体験イベント	38	93	サウナコンテンツを活用した林業の活性化	44
82	 文化財を活かした 健康まちづくり	39	94	白描源氏物語絵展—多彩な登場人物が 織りなす『源氏物語』の魅力—	
83	 ベトナム向け筑後うどんの 新メニュー開発 プロジェクト	40	95	台湾における畳の利用実態に関する調査	
84	いいまち発見プロジェクト 菊池動画バトル	41	96	太宰府天満宮外国語観光コンシェルジュ	45
85	おおくすスクエアプロジェクト		97	デジタル時代における店舗小売業の マーケティングを再考するプロジェクト	
86	オンライン国際交流学習 (COIL) プロジェクト		98	鉄道産業プロジェクト	
87	海水浴場における人命救助 ボランティア活動	42	99	TRICK ART PROJECT	46
88	希望のあかりプロジェクト		100	「光と影の美」 —子どもの遊び環境の創造—	
89	九州電力株式会社福岡支店と連携した 朝倉市における観光振興プロジェクト		101	ビジネスマインド育成プロジェクト	
90	KSU 地域づくり学生プロジェクト	43	102	福岡サンタウォークプロジェクト	47
			103	簿記授業に対する学修効果に関する研究	
			104	REAL JAPAN PROJECT	

No. 教育

[担当] 天野聡一

79 古典“再生”プロジェクト



学 外
連携プロジェクト

国際文化学部 × 香椎宮 × 九州産業大学図書館 など



① 13首の和歌葉を作成しました ② 葉を入れるボックスにも工夫を凝らしました ③ 香椎宮には全員で参拝に行きました

地域に眠る古典文学の魅力を掘り起こし、目に見えるかたちで現代に“再生”するプロジェクト!

概要

地域に眠る古典文学の魅力を掘り起こし、目に見えるかたちで現代に“再生”したい——。この願いが本プロジェクトの原点です。
具体的には、香椎をはじめとする福岡の歌枕を詠み込んだ古典和歌を網羅的に探索したうえで、プロジェクトメンバーが一人につき和歌一首を担当し、詠歌内容・作者・成立背景について詳細に調査・報告します。そして、その研究成果をコン

パクトにまとめた葉を製作します。
2021年度は、香椎を詠み込んだ和歌とその解説を高級感のある和紙に印刷し、「香椎和歌葉」として香椎宮をはじめとする学内外の各所において配布しました。デザイン策定や協力機関との交渉などは、すべて学生たちで行いました。500部作成した葉は、一カ月足らずの間に全て地域の人々や学内の学生たちの手もとに届けられました。

期待できる学生のスキルアップ

- 和歌についての専門的な研究能力
- 日本文学や歴史についての幅広い知識
- プレゼンテーション能力
- コミュニケーション能力
- 社会人基礎力

参加者の声

私は図書館班のリーダーとして、図書館との連絡や、備品製作などのスケジュール管理を担当しました。また葉設置後は、班員と残部を定期的にチェックし、設置場所を調整したりしました。その結果、特に図書館スタッフの方々のご尽力もあり、全ての葉を配布することができました。
和歌葉製作は私にとって、協力していただいた方々との関わり合いの大切さを感じたプロジェクトでした。

末吉 優太

国際文化学部
日本文学学科・3年
福岡県・門司学園
高等学校



80 実践企画演習



学 外
連携プロジェクト

経済学部 × 金融知力普及協会 × 三井住友 DS アセットマネジメント ×
福岡市内の飲食店など × 経済学部各ゼミナール(学内連携)



① 経済学カードゲームの実践 ② 福岡市内の飲食店や観光地を紹介 ③ 作成したゼミ紹介パネル

学外組織との連携で、社会人になったときに必要とされる各種スキルの養成につながる！

概要

学内外の組織・関係者と連携して、様々な施策を経済学部の学生自らが主体的に立案・実行していくプロジェクトです。2021年度は、経済学カードゲームを利用した「経済学用語解説動画」を作成紹介する施策やオープンキャンパスで実際にカードゲームをプレイして経済学に触れてみる施策、福岡市内の飲食店や観光地を案内する「デジタルマップ」の作成施策、経済学部の「ゼミナール紹介パ

ネル」を作成する施策、近隣の保育園でクリスマス会交流を行う施策などを実施しました。

特に複数学年の学生が参加するチームでは、チーム内の役割分担や連絡・調整に時間がとられることも多く、学外組織との連携では、授業時間外での連絡・交渉なども必要となり、今後社会人となったときに必要とされる各種スキルの養成につながっています。

期待できる学生のスキルアップ

- チームで活動するために必要な協同する力
- 連携先との交渉で求められるコミュニケーション力
- 課題解決の際に発揮される発想力、持続力

参加者の声

「経済学用語解説動画」作成のチームリーダーを務めました。連携先企業から「経済学カードゲーム」の提供していただけるよう交渉するとともに、短い時間の見やすい動画で経済学用語をわかりやすく解説するためにセリフやテンポを工夫しながら何度も撮り直しをしました。チーム内で役割分担をしてメンバーがその役割をしっかり果たしてくれたこともあり、何とか完成させることができました。

中村 月影

経済学部
経済学科・4年
福岡県・嘉穂高等学校



No.

教育 [担当] 磯貝浩久/安達隆博/秋山大輔/萩原悟一/本山清喬

81

プロサッカー選手のトレーニング体験イベント



学 外
連携プロジェクト

人間科学部 × アビスパ福岡



①ベスト電器スタジアム内の測定会場 ②脳科学トレーニング体験の様子 ③シュートスピード測定の様子

アビスパ福岡と共同研究し、プロのサッカー選手が行っている科学的なトレーニングを体験するイベント実施!

概要

アビスパ福岡の依頼を受けて、プロのサッカー選手が行っている科学的なトレーニングを体験するイベントを、福岡市にあるベスト電器スタジアムで実施しました。九州産業大学は、2019年からアビスパ福岡と共同研究契約(アドバイザー契約)を結んで、スポーツ心理学、運動生理学、バイオメカニクスなどのスポーツの科学的観点から測定・サポートしています。その中心を担う、「トップアス

リートスポーツ科学支援チーム」の教員と学生たちが、日頃アビスパ福岡の選手に提供しているトレーニングの一部を本拠地最終戦の来場者に体験してもらいました。状況判断力や集中力を高める「ニューロトラッカー」による脳科学トレーニング体験のほか、「シュートスピード測定」や、「ジャンプ力測定」を行い、多くの子どもや一般の方が挑戦していました。

参加者の声

このプロジェクトに参加したことでプロチームとの関わりを持てている凄さやプロ選手の身体能力の高さについて再確認できました。また、来場してくださった様々な年代の方に対し実験内容の説明をしたことやトレーニングのポイントをアドバイスしたりと、実際に学んだ知識をアウトプットする場としても貴重な経験ができたと感じています。

山中 龍弥

人間科学部
スポーツ健康科学科・4年
長崎県・
野田国際高等学院



期待できる学生のスキルアップ

- 問題発見力
- コミュニケーション力
- データ分析力

No.

教育

[担当] 緒方泉

82

文化財を活かした健幸まちづくり

学 外
連携プロジェクト地域共創学部 × 飯塚市役所 × 飯塚市歴史資料館 × 嘉穂劇場 ×
旧伊藤伝右衛門邸

①プロジェクトメンバー集合写真(嘉穂劇場、10/27) ②現地調査(飯塚市歴史資料館、10/27)
③オンライン政策提案発表会(12/15)

「文化財を活かした健幸まちづくり」をテーマに、
ユニバーサルな施設整備計画を飯塚市へ提案！

概要

今回、地域共創学部地域づくり学科の実践力育成科目のうち、1年生「ゼミナール入門(17名)」、2年生「地域実践演習Ⅱ(17名)」の受講生は、「文化財を活かした健幸まちづくり」をテーマに、飯塚市へ政策提案をしました。実施期間は後期の11回。オンラインで市役所職員から「文化財活用計画」の説明を受けたり、実際に飯塚市歴史資料館、嘉穂劇場などの文化芸術施設を現地調査したりし

ました。こうした調査をもとに、プレゼン資料をまとめ、中間評価(11月24日)を受けた後、12月15日には「オンライン政策提案発表会」に臨みました。「ユニフォーム改造計画!」「嘉穂劇場バリアフリー計画」などの政策提案は、市役所職員から、「私たちの政策立案のヒントになりました」「来年度予算で検討したいですね」という評価を受けました。

参加者の声

私たちは嘉穂劇場の活性化策を考えました。歌舞伎劇場として栄え、国の登録有形文化財ではありますが、現地調査で、障がいのある方や高齢者、子どもが利用しづらいことが分かりました。そこで、全国の劇場を調査し、老若男女・障がいの有無に関わらず、誰もが同じ環境で芝居を鑑賞でき、ユニバーサルな施設整備計画を提案しました。今後も全国や世界の劇場を調査し、政策提案をブラッシュアップさせたいです。

大垣内 裕太郎

地域共創学部
地域づくり学科・2年
福岡県・
鞍手高等学校



期待できる学生のスキルアップ

- チームで働く力
- 課題発見力
- 発信力
- 規律性
- ストレスコントロール力

芸術系

理工系

文系

美術館・オープンイノベーションセンター

No. 研究

[担当] 船岡健太

83 ベトナム向け筑後うどんの新メニュー開発プロジェクト



学 外
連携プロジェクト

商学部 × 久留米商業高校 × 一吉うどん × 筑後うどん振興会 ×
久留米商工会議所 × 在福岡ベトナム総領事館 × 福岡県国際局



①一吉うどんの轟木代表とプロジェクト参加学生 ②最終報告会における司会(九産大生と久商生)
③学生がデザインした筑後うどん宣伝用のぼり(イラストは、プロジェクトの公式キャラクター「リエン」)

新メニューの発案、「デジタルスタンプラリー」の提案で筑後うどん全体を盛り上げるプロジェクト!

概要

2019年における「一吉(ひとよし)うどん」(佐賀県三養基郡みやき町)と連携してベトナム向けのメニューを開発したプロジェクトに、2020年より久留米商業高校と筑後うどん振興会が参加し、筑後うどん全体を盛り上げるプロジェクトとして実施しています。
2022年3月に実施した最終報告会では、中国人留学生発案の新メニュー「本格中華唐辛子しびれうどん」について提案を行いました。また、本学と久留米商業高

校の学生が考案した筑後うどんの振興策として、スマホ世代の若い層の来店拡大を目指し、各店に設置したQRコードをスマートフォンで読み取る「デジタルスタンプラリー」の提案を行い、非接触でコロナ禍でも安心して参加できる点をPRしました。開発した新メニューとデジタルスタンプラリーは、6月から筑後うどん振興会加盟店舗で提供する予定です。新メニューについては、一吉うどんのホーチミン(ベトナム)店でも販売が行われます。

期待できる学生のスキルアップ

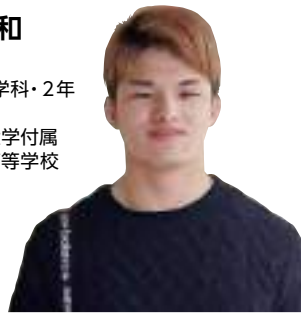
- 九州企業の海外進出検討に関するリサーチ力の向上
- 企業の命運を左右する新商品の企画開発力の醸成
- 多くの企業が注目するベトナム市場の本質的理解
- 地場産業の振興に関するスキル向上
- プロジェクトをまとめるリーダーシップ力の養成

参加者の声

「本格中華唐辛子しびれうどん」は、「ふんわり粘りゴシ」が特長の「筑後うどん」の麺が甘辛いタレと唐辛子に絡んで、一押しメニューとなりました。筑後うどんがはるばる行っても食べたいと思えるような存在になれば嬉しいです。デジタルスタンプラリーについても、自分たちと同じ年代の人に筑後うどんの美味しさを知ってほしいという思いで企画しました。

武田 大和

商学部
経営・流通学科・2年
福岡県・
九州産業大学付属
九州産業高等学校



No. 84 社会貢献
いいまち発見プロジェクト
菊池動画バトル

[担当] 佐藤忠文／真島猛

学 外
連携プロジェクト

地域共創学部 × 芸術学部 × 菊池ファンクラブ(菊池観光協会) ×
菊池一族シティプロモーション室(菊池市役所) ×
菊池市域学連携地域づくり実行委員会 ×
菊池市地域おこし協力隊 × U-Bito JAPAN㈱



概要

熊本県菊池市のシティプロモーションのために、地域共創学部と芸術学部の学生が菊池市の魅力を伝える Vlog風動画と菊池一族の武将イラストを制作しました。大学生は、オンラインでの特別授業などを経て現地でフィールドワークを行い、撮影した映像を編集しました。動画は菊池観光協会が運営する「菊池ファンクラブ」のホームページ上で公開され、「第1回 菊池動画バトル」として投票イベントが開催されました。

期待できる学生のスキルアップ

- 社会調査
- 編集
- デザイン
- メディア・リテラシー
- コミュニケーション

No. 85 教育
おおくすスクエア
プロジェクト

[担当] 黒木宏一／濱川和洋

学 外
連携プロジェクト

経済学部 ×
ロンブラージュビガレ大楠店(現:BOULANGERIE HANA)



概要

経済学部専門科目「実践企画演習」では、「地域」を志向した学生企画を展開しています。地域に根差したパン製造販売を営む「ロンブラージュビガレ大楠店」(佐藤昌俊オーナー)の店舗を訪問、オーナーの講話を聴くなどして理解を深め、学生提案の「マリトッツォフェア」を実施、フェア期間中のPOSデータを分析し、報告書にまとめました。報告会では、報告書をもとに広報媒体ごとの効果やお客様の傾向などについて意見交換を行いました。

期待できる学生のスキルアップ

- 前に踏み出す力(主体性、働きかける力、実行力)
- 考え抜く力(課題発見力、計画力など)
- チームで働く力(状況把握力、規律性、ストレスコントロール力など)
- 組織運営、営業、会計、各種書類作成などの実務能力
- 「組織と私」「組織と地域」などの関係性の理解

No. 86 教育
オンライン国際交流学習
(COIL) プロジェクト

[担当] 柿元悦子

学 外
連携プロジェクト

国際文化学部 ×
ニコラウス・コペルニクス大学(ポーランド)



概要

ウィズ/ポスト・コロナと言われる時代における異文化理解のために、海外の大学生とOnlineで交流する活動です。グループ作り、実施計画の作成、他の参加者の募集、説明会実施、本番の会の進行(Online交流は多くが英語)、等諸々の活動を学生主体で進めます。交流先のポーランドの大学生は日本文化専攻のため、レベルの高い日本に関する質問が飛び交いました。リーダーシップ、協働力も高まり、満足度の高い活動ができました。

期待できる学生のスキルアップ

- プロジェクト・マネジメント力
- リーダーシップ
- 協働力
- プレゼンテーション・スキル
- 英語スピーキング力

No. **87** 社会貢献 [担当] 朝日亮太

海水浴場における人命救助ボランティア活動

学外連携プロジェクト

商学部 × 地域の消防関係者 × 地域行政機関

17 14



概要

志賀島海水浴場やシーサイドもち海浜公園にて、夏にライフセービングのボランティア活動を行っています。地域の消防士や警察の方などと連携し、未然に水難事故を防ぐためのパトロールや救命活動などを行います。海水浴シーズン以外もトレーニングや事故への対応や安全管理について学修しています。泳ぎが上手である必要はなく、一人一人が自分のできることを考え、チームで協力しながら活動しています。海の家の方などと海水浴場をより魅力的にするための活動も行います。

期待できる学生のスキルアップ

- チーム活動では、自身のできることを認識し実行することが求められます。その中で主体性、実行力が身に付きます。
- チーム活動では、仲間の状況を理解し思いやることが重要です。活動を通じて、状況把握力や柔軟性が身に付きます。
- 人命救助などのボランティア活動を通じて、消防・警察などの仕事に触れる機会が得られます。
- 将来の進路として消防士や警察官へ挑戦する学生が多いです。

No. **88** 社会貢献 [担当] 間間理

希望のあかりプロジェクト

学外連携プロジェクト

商学部 × 芸術学部 × 建築都市工学部 × NPO法人トナリノ

11 17 9



概要

東日本大震災で大きな被害を受けた陸前高田市の地域振興を手伝いながら、防災や復興のあり方について学んでいます。同じく九州北部豪雨で大きな被害を受けた朝倉市高木地区でも同様の狙いの取り組みをしています。学生メンバーが各自、大学で学んでいることを最大限活かした活動を展開していることも特徴です。
※写真は2019年度の活動のものです。2020年度以降はコロナ禍によってオンラインでの支援活動になっています。

期待できる学生のスキルアップ

- 災害の実態と防災知識を得る
- 企画実行力
- 傾聴力とニーズ汲み取り力

No. **89** 社会貢献 [担当] 行平真也／豊島茂／佐藤忠文

九州電力株式会社福岡支店と連携した朝倉市における観光振興プロジェクト

学外連携プロジェクト

地域共創学部 × 九州電力(株)福岡支店 × 朝倉市役所 × あさくら観光協会

11



概要

「朝倉市に若い観光客が増えるにはどうしたらよいか」をテーマに、九州電力株式会社福岡支店地域共創グループの社員の方々とともに朝倉市においてフィールドワークを行い、観光地の現状について調査を行いました。そのフィールドワークで得た知見を活かし、グループごとに朝倉市の観光振興を立案し、朝倉市・あさくら観光協会に対して報告会を実施しました。実際に企業において地域共創の業務に携わる方々との取り組みは学生にとって大きな刺激となりました。

期待できる学生のスキルアップ

- コミュニケーション能力
- プレゼンテーション能力
- 企画立案力

No. 90

教育

[担当] 緒方泉/岡田希世子/垣迫裕俊/古賀弥生/佐藤忠文/末松剛/瑞慶山広大/高山和幸/宗像優/行平真也

KSU 地域づくり 学生プロジェクト

学 外
連携プロジェクト

地域共創学部 × 飯塚市 × 宗像市 × 福津市 × 太宰府市 × 荊田町 ×
熊本県菊池市 × 山口県下関市 × 九州経済産業局 × NPO法人アクションタウンラボ など



概要

地域共創学部地域づくり学科では、公務員や地元企業で地域活性化を担う人材を育成するため、学生が自ら地域の課題を発見し解決する体験型の取り組みを数多く行っています。2021年度は、飯塚市の総合計画「健幸まちづくり」への政策提案、「国際海岸クリーンアップ」の一環として雁ノ南海岸の清掃活動への参加、香椎下原校区でのコミュニティカフェの実施など学生主体の活動を行い、国の機関や福岡県内と近隣の市町村などを訪問して調査も実施しました。

期待できる学生のスキルアップ

- 課題発見力
- 課題解決力
- 社会調査力
- データ分析力
- コミュニケーション力

No. 91

研究

[担当] 澤田英司/内田泰三

経済学・生態学・芸術学による 生物多様性価値の多面的評価

学 外
連携プロジェクト

大学院経済・ビジネス研究科 ×
荒尾干潟水鳥湿地センター ×



重富海岸自然ふれあい館なぎさミュージアム

概要

プロジェクトの目的は、生態系サービスに関わる経済学・生態学・芸術学それぞれの展示を同時に準備することで、生物多様性の「価値」について多面的に考えることです。2021年度は、熊本県荒尾市の荒尾干潟と鹿児島県始良市の錦江湾重富海岸の生態系サービスをテーマに芸術研究科5名の作品展示とアンケート調査を行いました。プロジェクトの成果は、連携先の運営に還元されるとともに、今後開催するより大規模な企画展示の準備に役立てられます。

期待できる学生のスキルアップ

- 学際的思考
- 論理的思考力
- 問題解決力
- データ分析力
- コミュニケーション力



No. 92

社会貢献

[担当] ピーター・カーター/三浦香織/柿元悦子

高校生のための“Presentation Bootcamp (英語プレゼンテーション集中特訓)”

学 外
連携プロジェクト

国際文化学部 × 嘉穂東高校 × 香椎高校



概要

現代社会は“プレゼンテーションの時代”と言われています。本プロジェクトは、2つの部分、英語を専門とする大学生を対象として行う「プレゼン技術の特別講座」および、高校生が受講する3日間連続で行う「プレゼンテーション集中講座」から成ります。2021年度は高校2校が希望し準備を進めました（新型コロナウイルスのため未実施）。短期集中で宿題も多いですが、大学生のサポートを得ながら、最終日には達成感と自信に満ちた高校生参加者の姿が見られます。

期待できる学生のスキルアップ

- 英語の4技能
- 英語プレゼンテーション力
- プレゼンテーションを構成する論理性
- リーダーシップ
- 協働する力



No. 93

社会貢献

[担当] 木村隆之

サウナコンテンツを活用した
林業の活性化学 外
連携プロジェクト商学部 × 九州とサウナ ×
株式会社konoki × 田島山業(株)

概要

日本の国土の7割は森林です。その森を管理している林業は3代以上にわたって植樹し間伐しそして伐採します。しかし、多くの森林は適切な管理がなされていません。理由は木材が安価で取引されることなどにあります。一つの方法として、間伐を促進するために間伐材の商品化があります。本プロジェクトでは空前のサウナブームを利用し、サウナコンテンツと木との融合を模索し、間伐材を活用したサウナロウリュウオイルを開発・製造・販売しました。

期待できる学生のスキルアップ

- 問題発見能力の向上
- 企画構想力の向上
- 社会的課題への関心度の向上
- マーケティング能力の向上

No. 94

教育

[担当] 宮崎裕子

白描源氏物語絵展
—多彩な登場人物が織りなす
『源氏物語』の魅力—学 部 間
連携プロジェクト

国際文化学部 × 九州産業大学図書館



概要

九州産業大学図書館蔵「白描源氏物語絵」(江戸前期作)に関する企画展を実施しました。『源氏物語』そのものの魅力も紹介しようと学生たちは創意工夫を凝らし、「白描源氏物語絵」に描かれた作中人物の紹介冊子、平安装束の解説に加えて、『源氏物語』を題材にしたクイズ、植物図鑑、九州産業大学周辺のゆかりの地マップなどを作り上げました。個々のテーマは各人の立案によりますが、「『源氏物語』を身近に感じられるものを作る」という方向性は一致しています。

期待できる学生のスキルアップ

- 専門知識をわかりやすく伝える技術を身に付ける
- 企画力を伸ばす
- 表現力を磨く
- 貴重資料の扱い方を学ぶ

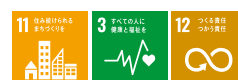
No. 95

研究

[担当] 船岡健太

台湾における畳の
利用実態に関する調査学 外
連携プロジェクト

商学部 × 株式会社ピソコモド



概要

台湾に畳関連の商材を輸出する株式会社ピソコモド(福岡県三潴郡大木町)と共同で、「台湾における畳の利用実態」の調査を行いました。調査方法としては、プロジェクト用に学生たちが作成したSNS(Instagram、Facebook)アカウントを通じて、台湾における畳ユーザーとの接触を図りました。コンタクトがとれた方に対して、学生たちがピソコモド社の千住社長とともに、Zoomによりインタビューを行いました。聞き取りの結果、台湾では、和紙を用いた畳であったり、折り畳み式の畳が人気を博していることなどがわかりました。

期待できる学生のスキルアップ

- 海外における販路拡大に関する企画力
- プロジェクトにおけるクライアントとの共創能力
- アジアにおける畳ビジネスのポテンシャルに関する理解

No. 96

社会貢献

[担当] 三浦香織 / 柿元悦子

太宰府天満宮外国語観光コンシェルジュ

学外
連携プロジェクト

国際文化学部 × 太宰府天満宮



概要

九州屈指の観光地である「太宰府天満宮」で複数の言語（英語・中国語・韓国語・ベトナム語）を用いて地元地域の観光案内や天満宮の文化的価値の維持に貢献する活動です。ホテルのコンシェルジュのように「天満宮のことなら、何でもお任せ！」がモットーです。天満宮の歴史や現在、周辺の神社や観光地についても学びます。この活動では語学力の向上だけではなく、ボランティア活動を通して各自の知識や発想を地元の地域社会にどのように還元できるのかを考え、実践します。

期待できる学生のスキルアップ

- コミュニケーション力（語学力含む）
- 調査力・企画力・実践力
- 社会人マナー
- 日本の神社仏閣の知識
- 日本文化の発信力

No. 97

教育

[担当] 秦小紅

デジタル時代における店舗小売業のマーケティングを再考するプロジェクト

学外
連携プロジェクト

商学部 × (株)NANATO ×

(株)エフ・ジェイ エンターテインメントワークス



概要

インターネット通販が私たちの生活に浸透するにつれて、リアル店舗を訪れる人は減少しています。リアル店舗への来店をいかに促進するかに興味を持つ流通マーケティング学系の2年生16名は株式会社NANATOと株式会社エフ・ジェイ エンターテインメントワークスの協力を受け、キャナルシティ博多の支配人との座談会やキャナルシティ博多の実地調査および来店客アンケート調査を行い、それらに基づいたイベント企画を提案し、来店促進策を実践的に学ぶことができました。

期待できる学生のスキルアップ

- 情報の収集力と分析力
- 思考力
- コミュニケーション力
- チームワーク力

No. 98

教育

[担当] 高橋誠

鉄道産業プロジェクト

学外
連携プロジェクト

地域共創学部 × (肥薩おれんじ鉄道) 株式会社



概要

従来は単なる移動の手段であった鉄道でしたが、最近は「ゆっくり旅を楽しみたい」という観光ニーズの高まりと共に、「鉄道に乗りながら旅を楽しむ」というスタイルが脚光を浴びるようになってきました。とりわけ魅力的な観光列車を数多く運行しているのが九州です。この科目では、鉄道を活用した魅力的な観光振興の事例として、観光列車「おれんじ食堂」を取り上げ、沿線各地の観光素材や食材、名産品などを調査、実際に体験乗車することで、鉄道と地域観光の協同について学びました。

期待できる学生のスキルアップ

- 鉄道事業者の観光事業に対する取り組み事例研究
- 地域の観光事業者が鉄道（運輸機関）に求める機能に関すること
- 沿線の観光素材（文化・歴史）に関する知識

芸術系

理工系

文系

美術館・オープンイノベーションセンター

No. 99 教育 [担当] 黒木宏一／濱川和洋

TRICK ART PROJECT

学 外 連携プロジェクト

経済学部 × 芸術学部 × 福岡市立こども病院

4 目の悪い児童をみるに 17 パートナーシップで社会を築こう 3 目の悪い児童をみるに



概要
 コロナ禍であっても入院中の子どもたちやそのご家族、医療関係者の方々が笑顔になれるようなイベントをしたいと企画し、2020年度から開始した「福岡サントウォークプロジェクト」の姉妹プロジェクト。経済学部の学生が企画し、芸術学部の学生がデザインを担当するという、学部の強みを合わせることで実現したプロジェクトです。2021年度は、「夢や希望を届けるトリックアート」をテーマにした作品を展示しました。

期待できる学生のスキルアップ

- デザイン力
- チームで働く力(状況把握力、規律性、ストレスコントロール力など)
- 前に踏み出す力(主体性、働きかける力、実行力)
- 考え抜く力(課題発見力、計画力など)

No. 100 教育 [担当] 清水陽子／諫見泰彦

「光と影の美」 一子どもの遊び環境の創造

学 部 間 連携プロジェクト

人間科学部 × 建築都市工学部

4 目の悪い児童をみるに



概要
 アート×サイエンスを取り入れた21世紀型幼児教育実践のための保育者養成として、学生が創作童話を読み、そのイメージを積み木とLEDで表現する演習に、建築都市工学部の教員と連携して取り組みました。世界的に高い評価を受けるレジジョ・エミリアの保育実践では、ライトテーブルやプロジェクターを活用し、「光と影の美」を子どもの遊び環境に取り入れています。これに着目してLEDを積み木遊びに加え、学生が想像力や科学的思考を促す体験をしつつ、幼児にとつての積み木遊びの教育的意義を考察することを目的としました。

期待できる学生のスキルアップ

- 思考力
- 創造力
- 構成力
- 表現力
- コミュニケーション力

No. 101 教育 [担当] 浦野倫平／間間理／木村隆之

ビジネスマインド 育成プロジェクト

学 外 連携プロジェクト

商学部 × NPO法人循環生活研究所 × 西鉄ストアレガネット × イオン香椎浜 など

4 目の悪い児童をみるに 9 目の悪い児童をみるに 12 つの未来をつくる未来



概要
 本学の理念の一つとして「実践的な学風の確立」を掲げていますが、本プロジェクトはまさにその理念を体現するパイオニア的なプロジェクトです。学部改革に伴い従来型の活動に参加する学生が少なくなる中、今年度も玉ねぎドレッシング、柚子胡椒の製造・加工・販売を達成することができました。新カリキュラムで学ぶ学生たちも、伝統を引き継ぎつつ、アフターコロナにふさわしい新たな商品・サービスの創出に取り組んでいます。その活動は社会的コンテストで最優秀賞を獲得するなど高く評価されています。

期待できる学生のスキルアップ

- 状況分析能力
- 目標設定能力
- リスク管理能力
- 計画管理能力
- コミュニケーション能力

No. 102 教育 福岡サンタウォークプロジェクト

[担当] 黒木宏一／濱川和洋

学 外
連携プロジェクト

経済学部 × 地域住民 ×

公共施設管理者 × 福岡市立こども病院



概要

サンタクロースの衣装で街を練り歩く地域密着型チャリティーイベント:Fukuoka Santa Walk in Kashiiを企画。自治会や企業などの協力を得ながら2017年度から活動。益金でプレゼントを購入し「福岡市立こども病院」に届けています。2020年度に続き、2021年度は感染拡大の影響で中止しましたが、姉妹プロジェクトの企画や活動PR動画を作成し福岡市役所本庁舎デジタルサイネージで上映するなどの活動を行いました。

期待できる学生のスキルアップ

- 前に踏み出す力(主体性、働きかける力、実行力)
- 考え抜く力(課題発見力、計画力など)
- チームで働く力(状況把握力、規律性、ストレスコントロール力など)
- 組織運営、営業、会計、各種書類作成などの実務能力
- 「組織と私」「組織と地域」などの関係性の理解

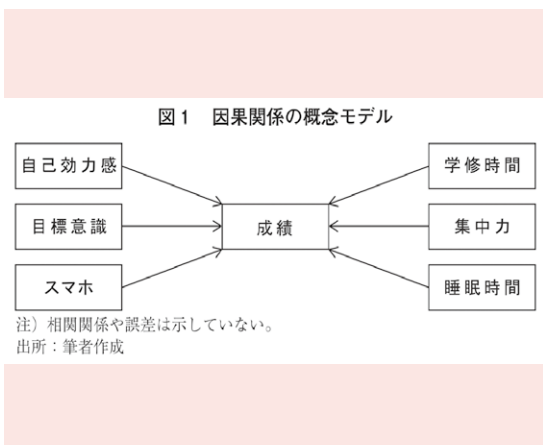
No. 103 教育 簿記授業に対する学修効果に関する研究

[担当] 金川一夫

学 外
連携プロジェクト

商学部 ×

環太平洋大学経営学部



概要

会社などの組織の経営活動や財務状況を記録するための簿記の授業に対して新しいクラス編成や教育方法を提案・実施し、その効果をアンケートによって測定し、そして得られたデータを統計分析しています。

期待できる学生のスキルアップ

- 簿記の理解度が高くなる
- 簿記の理解を妨げる要因が明らかになる
- 簿記の教育方法を改善できる

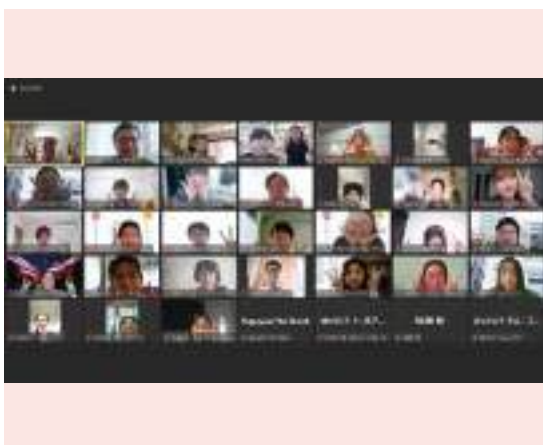
No. 104 教育 REAL JAPAN PROJECT

[担当] 酒井順一郎

学 外
連携プロジェクト

国際文化学部 ×

ホーチミン市外国語情報大学



概要

グローバル化が進んでも、諸外国の対日認識には誤解があり、十分に理解されていません。その要因は彼らにRealな日本が伝わっておらず、それどころか、多くの日本人も日本を知りません。そこで、酒井順一郎ゼミは、毎年、海外の大学を訪問し、Realな日本(日本語・日本文化など)とその魅力を伝え、相手の言語・文化を学び、さらに、議論を通し理解し合うことで友情を深めています。尚、今回はベトナムのホーチミン市外国語情報大学の皆さんとZoomにて日本の四季、日本のアニメ、本学の紹介の動画を作成し交流しました。

期待できる学生のスキルアップ

- Realな日本(日本語・日本文化など)を調査し、基礎知識を養える。
- 日本の概念・魅力を伝えるコミュニケーション力を養える。
- 異文化の言語・文化を学び、理解できる。
- 議論を通して、日本と諸外国の友好関係を築く術を学べる。



美術館

オープンノベーション センター

2021年度 KSUプロジェクト型教育 学部間・学外との取り組み事例

No.	タイトル	ページ
105	古賀市子どもアート教室	50
106	第6回ソーシャル・ビジネスプラン・コンテスト	

No. 社会貢献

105 古賀市子どもアート教室

[担当] 三戸丈治/中込潤

学 外
連携プロジェクト

美術館 × 古賀市



概要

このプロジェクトは、古賀市からの委託事業として本学美術館開館当初から実施しています。学生ボランティアが企画から実践まで行う、小学生を対象としたアート教室です。主に身の回りの素材を使った工作を、学生がアイデアを出し合って企画し、準備を重ね、実施します。例年、参加者は学生とのコミュニケーションを楽しみながら、自分のペースで自由に制作しています。

期待できる学生のスキルアップ

- 企画、立案する力
- 伝える力
- コミュニケーション力
- 集団をまとめる力

No. 教育

106 第6回ソーシャル・ビジネスプラン・コンテスト

[担当] 木村隆之

学 外
連携プロジェクトオープンイノベーションセンター × 日本政策金融公庫 ×
(株)アバンティ × (一社)ラバルカグループ × GxPartners

概要

社会的課題の解決をビジネスを通じて解決する力を身に付けるため、ビジネスプランを作成し社会企業家の前でプレゼンテーションを行います。社会企業家の方々からメンターとして1年を通じてビジネスプランのブラッシュアップ指導に関わることで、ソーシャル・アントレプレナーシップやビジネスモデル構築力を高めることができます。コンテストの際は銀行、VC、社会起業家など、多様な視点から実際のアドバイスを受けることで、実践可能な課題解決能力の向上を図っています。2021年度は、「視覚障害者向けの出前注文」など10チームがエントリーし、そのプランをもとに起業を目指して社会実験を行う学生も生まれています。

期待できる学生のスキルアップ

- 地域密着型人材の育成
- ソーシャル・アントレプレナーシップの獲得
- ビジネスモデル構築力の獲得
- 問題解決能力の向上
- プレゼンテーション能力の向上



KYUSHU SANGYO
UNIVERSITY

文理芸融合のグローバル総合大学へ

A university leading in unique fusion education in the Humanities,
Science and Art to inspire the globally active next generation.



発行：学校法人 中村産業学園 教務部
〒813-8503 福岡市東区松香台2丁目3番1号
TEL:092-673-5455



ホームページはこちら
[KSUプロジェクト型教育]

VII 参 考 资 料

外部評価委員会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、九州産業大学（以下「大学」という。）及び九州産業大学造形短期大学部（以下「短大」という。）における自己点検・評価活動の客観性・公平性を担保し、教育の質の向上を図ることを目的として設置する外部評価委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(構成)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって構成する。

- (1) 理事長
- (2) 外部有識者 4名以上
- (3) その他理事長が必要と認めた者

2 前項第2号及び同項第3号の委員は、理事長が指名する。

3 第1項第2号及び同項第3号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第3条 委員会に委員長を置く。

2 委員長は、理事長をもって充てる。

(運営)

第4条 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

2 委員会は、委員の3分の2以上の出席によって成立する。

3 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決定し、可否同数のときは、議長が決定する。

4 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者を委員会に出席させることができる。

(審議事項)

第5条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 大学及び短大の自己点検・評価活動の評価に関する事項
- (2) 大学及び短大の内部質保証の評価に関する事項
- (3) その他委員長が必要と認めた事項

(事務)

第6条 委員会の事務は、大学評価室が行う。

(改廃)

第7条 この規程の改廃は、理事小委員会の議決によるものとする。

附 則

1 この規程は、令和2年7月21日から施行する。

2 この規程の施行後、最初に理事長が指名する委員の任期は、第2条第3項の規定にかかわらず、令和4年3月31日までとする。

九州産業大学・九州産業大学造形短期大学部 内部質保証システム

